Vol. 67通巻770号
昭和61年5月25日発行
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

1986 5

ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集●自治体営繕と公共建築



日本建築協会

プリオールがつくる クオリティな新・快適空間

大阪ガス



プリオールは、安全・快適な温水暖房のよさに
〈温水温度自動制御〉による省エネ暖房、
〈給湯量自動制御〉の16号給湯をプラス。
これからの住宅にもっともフィットします。

暖冷房・給湯システム

エックスプリオール

PRIOR



〈ノンスリップ工法：ウェーブ〉

合成高分子ルーフィングJISA6009が昭和60年度より建設省建築工事共通仕様書に採用になりました。

好評発売中　歩行用露出シート防水

ロンプルーフ®
ノンスリップ工法

"歩ける防水"ロンプルーフにノンスリップ工法として、ウェーブとワッフルが発売中。屋上のデザインをスッキリと美しくし、特にノンスリップ効果が好評です。

好評発売中　1.3㎜露出シート防水

ベストプルーフ
US工法（絶縁工法）

近年とみに増加している建物の改修工事。それに最適な防水工法がベストプルーフUS工法。下地処理が簡易で既存防水層の上から施工でき、工期の短縮ができます。しかも接着剤を使わず特殊な脱気工法の採用によって湿潤状態でも施工できます。絶縁工法は下地のムーブメントを緩衝し美しい仕上りを保証します。

西日本ロンプルーフ防水事業協同組合　大阪市淀川区西中島3-9-13　大北ビル　☎06(304)5155

ロンシール工業株式会社

大阪支店/大阪市淀川区西中島3—9—13　大北ビル7階
☎06(304)2700

●本　社〒101
東京都千代田区神田松永町13「川口ビル」☎03-253-4911㈹

■出張所/●名古屋☎052-935-7063㈹　●金　沢☎0762-52-2215㈹
●岡　山☎086926-4321㈹　●広　島☎082-249-3600㈹
●高　松☎0878-31-4177㈹　●福　岡☎092-472-5857㈹
●鹿児島☎0992-58-6571㈹



「カベを飾る」という気分。
TOTOインテリアタイル。



Valentino Garavani

ヴァレンティノ・ガラヴァーニ

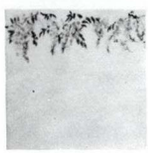
1932年、北イタリアのボゲーラ生まれ。パリ洋裁学院でデザインを学んだ後、ジャン・デッセのアトリエ主任を経て、ギ・ラロシュのアシスタントとなる。1959年、ローマに戻り、ヴァレンティノ・デザイン・ハウスを設立。1967年には白のコレクションを発表し、ニーマーカスの"オスカ賞"を受賞。以後、婦人物・紳士物のlineを網羅しつつ、アクセサリー、インテリアも手掛けている。



HARUO

ハルオ・宮内

1943年生まれ。ニューヨーク・プラット・インスティチュート・グラフィックセンター卒業。ニューヨーク・アートディレクターズクラブ会員。AIGA会員。1971年、プッシュピンスタジオ入社。日本人として初めて「TIME」「NEW YORK」などの表紙を手掛けた。現在、ニューヨーク、東京を中心にリビングアーティストとして活躍中。



David Hamilton

デビッド・ハミルトン

1933年4月15日、ロンドン生まれ。家具作り、建築、装飾の基礎を学んだ後、印刷、レイアウトに興味を持ち、フランスで"Elle"誌や"ル・プランタン"誌のアート・ディレクションを担当。ロンドンに帰ってからは、ヨーロッパのグラフィック界で最高の権威を持つ"クイーン"誌に入社した。1960年、写真に専念することを決心。その後の活躍は世界中の人が知るところである。

TOTOの新インテリアタイルは、「芸術空間」のコンセプトから生まれました。ただ単に空間をカラーコーディネートする次元を越えて、空間を彩るアート装飾へ。つまり「カベを飾る」気分。世界の著名アーティストによる内装タイルです。

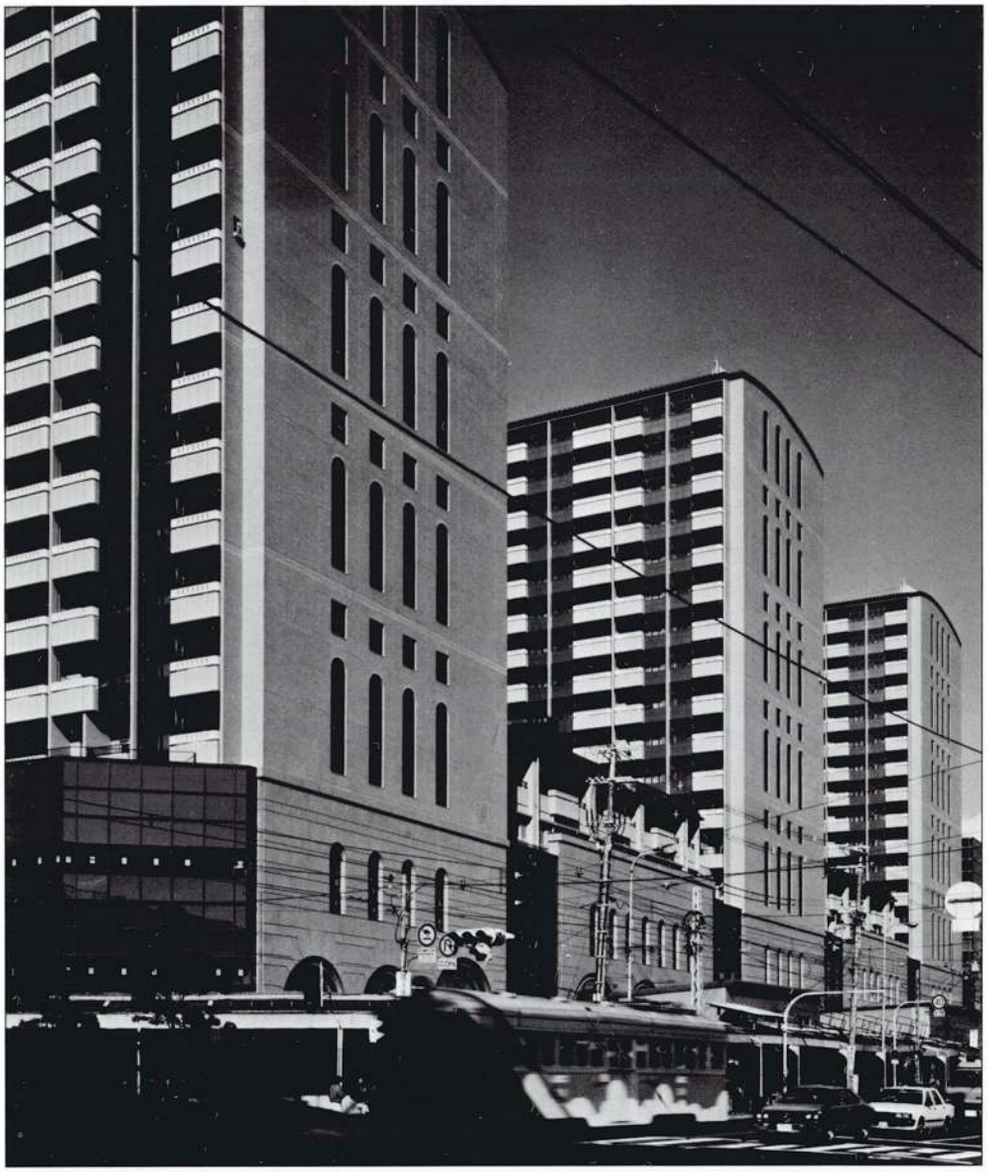
新発売のTOTO外装タイルもご注目ください。

良いものだけを作りたい

TOTO
インテリアタイル

東陶機器株式会社　東京支社/〒105 東京都港区虎ノ門1-1-28　大阪支社/大阪市北区曽根崎2-3-7梅新第一生命ビル東館

■TOTOショールームへお出かけ下さい。●札幌(011)231-2271●仙台(0222)64-1010●新潟(0252)41-2255●富山(0764)24-4081●金沢(0762)31-1010●福井(0776)25-0588●東京(03)595-9680●TOTO銀座パビリオン(03)573-1010●横浜(045)312-1010●静岡(0542)54-2405●浜松(0534)56-7371●名古屋(052)232-1067●大阪(06)364-1181●神戸(078)391-8411●広島(082)246-8411●高松(0878)21-8001●北九州(093)951-2710●福岡(092)713-1010



阿倍野Ｂ１地区第二種市街地再開発事業施設建築物〈タイル/形状：小口平・二丁掛平(イギリス張)、色番：GAK-06(特注色)〉

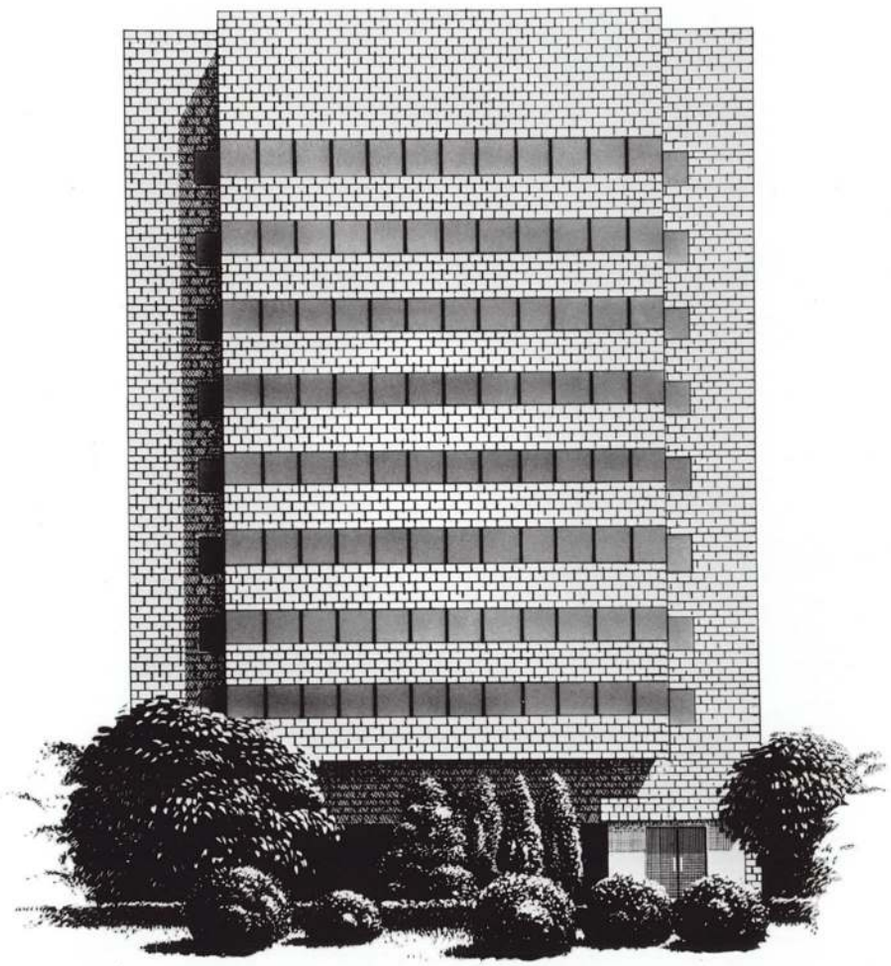
都市にタイルあり——表情ゆたかに。

DANTO ダントー

大阪本部	〒550 大阪市西区江戸堀1-12-8 安田生命大阪ビル		☎(06) 448-6251
大阪営業所	〒550 大阪市西区阿波座1-2-3		☎(06) 533-2435
本店	☎(07995) 5-0250	東営営業所	☎(03) 664-5451
札幌営業所	☎(011) 221-8281	仙台営業所	☎(0222) 66-5111
横浜営業所	☎(045) 662-5581	名古屋営業所	☎(052) 201-2461
金沢営業所	☎(0762) 43-0315	広島営業所	☎(082) 262-1800
福岡営業所	☎(092) 711-8826	宇都宮出張所	☎(0286) 73-1032

平面の主張

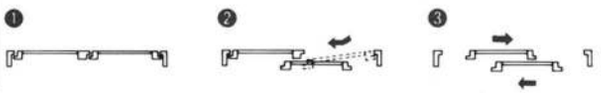
ビルをシャープに演出します——Sフラット



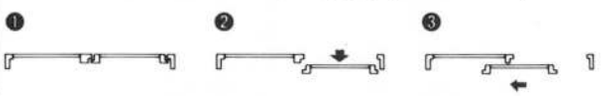
窓にも個性が求められる時代——。
住友ウォールシステムのSフラットシリーズは、外壁と同面に納まる個性的なデザインで、時代のニーズに応えました。このため、従来は嵌殺しスクリーンでなければ得られなかったフラットな外壁を、引違い窓、片引き窓で実現。シャープな外観が、ビルを個性的に演出します。スムーズな操作、すぐれた気密性、水密性など、機能面も充実。シンプルな美しさを主張する高性能ビル用窓、Sフラットシリーズをぜひご検討ください。

Sフラットシリーズ

同面引違い窓　**Sフラット・モナーク**(SA-100SFH)



同面片引き窓　**Sフラット・片引き**(SA-115SFK)



住友ウォールシステム株式会社

本　　社　〒101　東京都千代田区神田美土代町1（住友商事美土代ビル）TEL.03(294)8511(大代表)
大阪支社　〒541　大阪市東区南本町5－14（住友生命南本町ビル）TEL.06(252)1881(大代表)
支　　店　横浜／名古屋　　営業所　札幌／仙台／広島　　出張所　加須／高松

◀通常総会開催通知

昭和61年度第１回通常総会を下記のとおり開催いたしますので、何卒ご出席下さいますようお願い申し上げます。

社団法人　日本建築協会
会　長　佐　野　正　一

記

と　き　昭和61年6月25日(水) 午後５時30分～６時
ところ　社団法人　日本建築協会
大阪市北区梅田１丁目１番３－2100
大阪駅前第３ビル21階
ぎだい　１．昭和60年度　事業報告承認の件
２．昭和60年度　決算報告承認の件
３．昭和61年度　事業計画承認の件
４．昭和61年度　収支予算承認の件

◀会員の受賞

このたび下記会員の方々がそれぞれ表彰を受けられましたので、ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

勲三等瑞宝章　八十島健二氏（竹中工務店）
勲五等　〃　打浪　政信氏（新興建材工業所）
〃　〃　尾亀清四郎氏（三晃空調）
黄綬褒章　市川　宏氏（東畑建築事務所）
〃　忍田　精三氏（近畿電気工事）
大阪府知事賞　岡本　行善氏（昭和設計）
〃　桑原　潔氏（旭大理石工作所）
〃　永原　義夫氏（王建工業）

◀大阪ガス岩崎コンピュータセンターの見学（再掲）

日本建築協会ほかの４会共催

大阪ガス株式会社の発祥の地である大阪市西区千代崎の岩崎地区内に、次代を展望される新しいコンピュータセンターが完成します。

この建物は、いわゆるインテリジェントビルとしての機能を有し、情報化推進の中枢的役割を果たすものとして期待されるもので、最大級の耐震設計がなされるばかりでなく、電力需要の新しいエネルギーシステムとして注目されるガスエネルギーによる自家発電（コジェネレーション）装置も備えられています。

今回は、大阪ガス株式会社並びに株式会社安井建築設計事務所及び株式会社大林組のご協力により、建築四団体の共催にて見学いたすことになりました。多数のご参加をお待ちいたします。

日　時　**６月10日(火)**　集合14：00→解散17：00
〔第１班：日本建築協会・大阪建築設計監理協会〕
６月11日(水)　集合14：00→解散17：00
〔第２班：大阪府建築士会・大阪建築士事務所協会〕

集合場所　国鉄環状線「大正駅」改札口付近・目標会旗。
定　員　各班とも60名（本会割当30名）
参加会費　会員500円、会員外800円(当日受付にていただきます)
申込方法　参加ご希望の方は、本会事業課まで電話にてお問い合わせ下さい。
（ＴＥＬ　06－348－0633）

〈プロのノウハウ〉シリーズ第８冊

◀『建築基準法の実際』(矢吹茂郎著)刊行される

５月に〈プロのノウハウ〉シリーズの８冊めとして『建築基準法の実際－基本問題40講』が刊行されました。

「法律家ではない筆者が、建築行政、設計・現場監督、建築教育、建築審査会委員、建築学会、建築士会等の法規委員などをつとめた経験から、建築基準法の抱える幾つかの問題を取り上げて、単なる解説書ではない形にまとめた」(筆者まえがきより) 本書は、本来は法律家によって書かれるべき純粋な法律問題まで踏み込み、40講をあげ、それぞれに、図表をつけて、建築技術者になじむよう解説されたものです。40講（正しくは39項目）とは、以下の内容で、それぞれが“問題の所在”“展開”“まとめ”のフォーマットで、解説されています。

1	敷地の定義と用途上の可分・不可分	21	換気と気密性
2	床面積・建築面積の算定	22	火災の拡大防止と防火区画
3	道路の定義と位置指定	23	排煙設備の有効性
4	接道条件と道路内の建築制限	24	階段の寸法等の制限
5	地域指定と建築規制	25	直通階段と避難階段・特別避難階段
6	用途地域制の歴史と現況	26	仕様書規定と性能規定
7	土地利用と容積制限	27	既存不適格と建築行為
8	建ぺい率と地域環境	28	建築基準法最低基準論
9	斜線制限と絶対高さ	29	単体規定の緩和と特別認定
10	日影規制、その複雑な規制方式	30	隣地境界線と外壁後退（民法と基準法との関係）
11	総合設計制度と容積・高さの緩和	31	建築確認の法的性質
12	特定街区と規模・形態の緩和	32	関係法令の範囲
13	地区計画と街造り	33	確認審査および検査の省略
14	地域による防火規制の変遷	34	消防同意と建築基準法
15	86条による一団地認定	35	条例による制限付加の必要性
16	地域がまたがる場合の問題点	36	自由裁量と認定・許可
17	建築協定の法的性質とその事例	37	建築審査会の現状
18	長屋と共同住宅	38	行政指導と確認留保の限界
19	別表第一の特殊建築物の用途分類	39	建築基準法に対する設計者の意識
20	居室の採光と有効の算定		

著者の矢吹茂郎氏は、1950年に東京大学建築学科を卒業されたあと、東京都庁、その後設計事務所勤務を経て、現在、職業訓練大学校建築科教授をされ、著書に「建築設計の法規」(彰国社)、「建築法規の手びき」(霞ヶ関出版社)、「日影規制の基礎講座」(日本建築士会連合会) ほかがあります。

二色刷り、220Ｐ、定価1,800円ですが、本会事務局でお買い求めの方には100円割引で頒布いたします。

他の「建築技術選書」並びに〈プロのノウハウ〉シリーズとあわせて、ご購読をおすすめいたします。

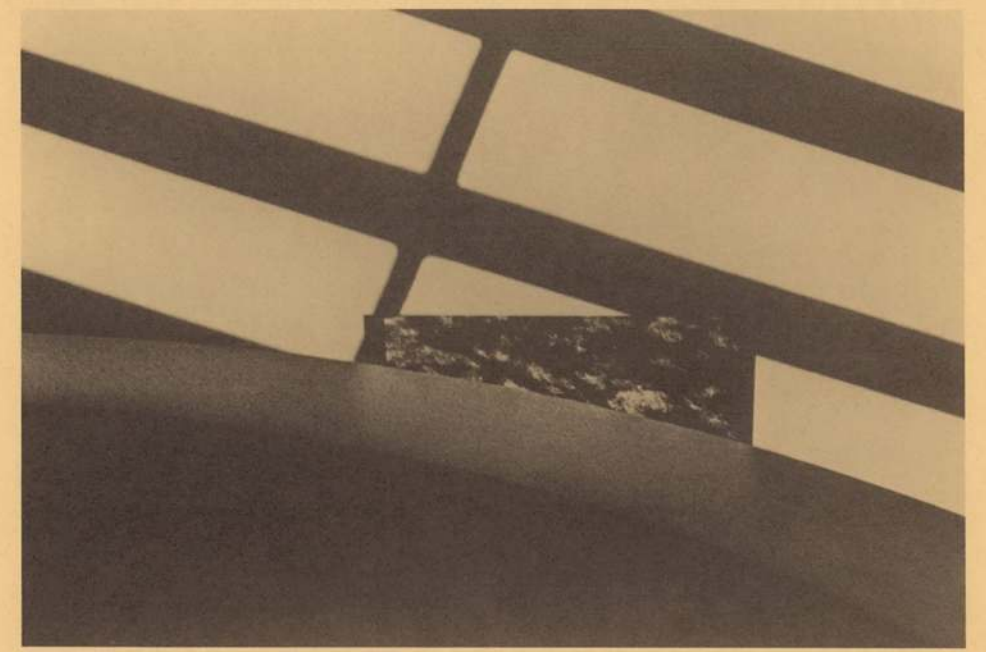
◀新入会者ご斡旋お願い

本会は大正６年３月創立以来、建築法規の法制化に努めたほか、わが国初の住宅博覧会の開催、四会連合工事請負契約約款の制定など、今日に至るまで、建築界をリードするとともに、一般社会との結びつきを深めてまいりました。また、建築界の総合団体として常に建築関係各部門の連繋と調整に当たり、相互の親睦、共存共栄に意を注ぎ、会誌**「建築と社会」**の発行や、朝食会、懇親会の実施、実務に直結した諸種の事業活動を行っております。

そして、来年の３月30日には創立70周年を迎えることになりました。つきましては、会員倍加運動を展開して会勢をはかることになりましたので、新入会者のご斡旋をお願い申し上げたく、何卒特別のご高配をお願い申し上げます。

事務局への電話番号は06－348－0635です。

『抽象への注釈 ジュディス・ターナーの建築写真』展 ―建築的エレメントを撮り続ける写真家―



会期　1986年6月20日(金)～7月2日(水) 11時～19時
6月27日(木)休館、最終日～16時
場所　ABCギャラリー（近鉄劇場別館）
大阪市天王寺区上本町6－5－29

現在、ニューヨークを中心に活躍する女流写真家JUDITH TURNERの名を一躍有名にしたのは、1980年に美術・建築関係出版社リゾーリから出した『ジュディス・ターナー、5人の建築家の写真』である。ここでは「ニューヨーク5」と称されるM.マイヤー、M.グレイブス、P.アイゼンマン、J.ヘイダック、C.グワスミーの作品を被写体に、建築という一芸術分野を、レンズを通して絞り込み、印画紙に新たなイメジを描いている。

今回の展覧会は、シリーズ写真の代表作『柱』、『ニューヨークの5人の建築家』をはじめ、F.L.ライトなどの作品からなる『明暗』シリーズに加えて、初公開の、I.M.ペイ設計の「ニューヨーク・コンヴェンションセンター」の建設現場写真など100点余りを展示する。

「会津鬼怒川線のコミュニティ施設としての駅舎」を課題に公開建築設計競技行われる

“みんなのレール・イン”を求めて ―栃木県藤原町―

今年10月に開通する野岩鉄道(ヤガン)会津鬼怒川(アイズキヌガワ)線は、始発駅の新藤原駅（東武鬼怒川線終着駅）と終着駅の会津高原駅（現在国鉄会津滝ノ原駅）との間に7駅が新設される。無人駅が原則であるが、栃木県塩谷郡藤原町は川治温泉、上三依塩原(カミミヨリシオバラ)両駅を町営のコミュニティ施設としての駅舎という考えのもとに建設する計画である。

駅舎は旅行者にとっては、その土地の第一印象として重要であるだけでなく、地域の人々にもシンボルとしての役割を持つとともに、重要なコミュニケーションの場でもある。しかし、現況は地域の特性を生かした美しい駅舎や、多くの人々に愛される便利な交歓の場としての駅舎は少ない。

このような状況をふまえて、藤原町では、このコミュニティ施設としての駅舎を、それぞれの土地にふさわしいシンボルとし、旅行者のための駅舎としてのみでなく、車利用の人々や、地域の人々の憩いの場・交歓の場ともなるよう、みんなのレール・イン（Rail－in）として計画しており、栃木県、野岩鉄道・鬼怒川・川治温泉観光協会、並びに日本建築協会ほか建築4団体の後援を得て、実施を前提とした公開建築設計競技として計画案を求めることとした。奮ってこの設計競技に応募していただきたい。

1．設計競技の対象
「会津鬼怒川線のコミュニティ施設としての駅舎」
A．川治温泉駅舎　B．上三依塩原駅舎
（注）2つの駅舎を、個別に公開建築設計競技を行う
2．所在地と敷地面積
A．栃木県塩谷郡藤原町大字藤原字小網1077番地4
〔川治温泉駅舎敷地　約285㎡〕
B．栃木県塩谷郡藤原町大字上三依吉原360番地4
〔上三依塩原駅舎敷地　約395㎡〕
3．規模、構造
①延べ面積　各駅舎300㎡程度
②構造・階数　自由
③工事費　各駅舎5,000万円程度
4．地域
A．川治温泉駅舎―都市計画区域内
用途地域無指定（容積率400%、建ぺい率70%）
自然公園法に基づく特別地域
B．上三依塩原駅舎―都市計画区域外
5．競技方式
一段階公開建築設計競技方式による金賞各1点を選び、その設計者に実施設計と工事監理を委託。
6．応募資格
①一級建築士であること。
②共同設計の場合は、代表者1名を明示すること。
③審査員が主宰する建築設計事務所・研究室および審査員が勤務する会社(支社を除く)に所属する者は、この競技に応募し、また応募者の協力者となってはならない。
7．審査委員会
委員長　内井昭蔵（内井昭蔵建築設計事務所）
委員　宮脇檀（宮脇檀建築研究室）
林雅子（林、山田、中原設計同人）
宮沢鉄蔵（宇都宮大学工学部教授）
鮎川一哉（フジタ工業主席技師長）
鈴木僩(鈴木公共建築設計監理事務所)
星光二（栃木県藤原町長）
8．賞（各駅舎）
金賞　1点(1,000,000円税込)　賞状・記念品
銀賞　1点(　500,000円税込)　賞状・記念品
銅賞　2点(各300,000円税込)　賞状・記念品
9．金賞入選作の実施
金賞入選者に対し、藤原町が実施設計・工事監理を委託するが、委託料は、藤原町と金賞入選者と協議の上決定する。
実施設計に際しては現実的条件を加味し、修正等の必要が生じた場合は藤原町と設計者と協議の上修正する。ただし、基本設計の大幅な変更を伴う場合は、審査委員会の了承を得る。
10．スケジュール
登録開始●5月10日(土)～登録締切●6月30日(月)
設計図書受付開始●8月1日(金)
設計図書受付締切●8月20日(水)
入選発表●9月末日
（審査結果は応募者、藤原町広報、新聞、雑誌等で発表する）
11．資料請求と登録
①下記の必要事項をハガキ大の用紙(縦使い)に横書きに記載した申し込み書および登録料3,000円を添えて、現金書留で、日本建築士会連合会内栃木県藤原町コンペ事務局に登録申し込みをする。
〔必要事項―氏名(ふりがな)・生年月日・一級建築士登録番号・住所(郵便番号)・電話番号・勤務先と住所(郵便番号)・電話番号〕
(注)　封筒には設計競技登録申込と朱書すること。
②申し込みは上記期限内の消印のものに限り受理。
③登録手続きをした者には、ただちに登録通知書および資料を郵送する。
④1つの登録手続きにより2駅舎の応募も可。ただし、1駅舎については1提案までとする。
12．登録申し込み者に、下記資料を交付
〔①応募要項、②川治駅の案内図、敷地状況説明図、③上三依塩原駅の案内図、敷地状況説明図、④藤原町地図、⑤野岩鉄道パンフレット〕

主催：栃木県藤原町(連絡先　藤原町企画振興課　電話0288(76)1111)　事務局：栃木県藤原町「会津鬼怒川線のコミュニティ施設としての駅舎」コンペ事務局　〒108 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階 日本建築士会連合会内　電話03(456)2061

1917創刊
1986
第67集
建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

表紙デザイン●吉田隆一
（東畑建築事務所）

オスロ大聖堂と花の市　目抜き通りカール・ヨハン街に面して、由緒ある国教福音ルーテル派の聖堂がある。隣の広場は、色鮮やかな花の市で賑わっていて、その中央で両手を拡げて立っているのは建築好きのデンマーク王クリスチャン４世像、新しいオスロの町造りの歴史を物語っているかのようです。

5 通巻770

特集●自治体営繕と公共建築

SPECIAL FEATURES ON THE COMMUNAL BUILDING WORKS AND ITS PUBLIC FACILITIES

会告
通常総会開催通知．会員の受賞．大阪ガス岩崎コンピュータセンターの見学（再掲）．〈プロのノウハウシリーズ〉『建築基準法の実際』（矢吹茂郎著）刊行される —— 5

お知らせ
「抽象への注釈ジュディス・ターナーの建築写真」展．「会津鬼怒川線のコミュニティ施設としての駅舎」を課題に公開設計競技行われる —— 6

スケッチブック
最近竣工した新建築９点（No.1945～1953） —— 8

この人
高倉義雄―内装職人一／聞き手・伊藤郁郎 —— 9

設計者のプロフィール
重村力（神戸大学講師）氏を訪ねる／インタビュア・中井進 —— 11

書評
日本の伝統構法を探る―『日本建築の構成―構法と造形のしくみ』（山田幸一著）／藤沢彰 —— 12

私が読んだ本
三つのパターン／遠藤剛生．新刊寸評． —— 13

読者の頁
声―建築と景観―近郊都市のまちづくりと建築／山口繁男．裏通りの景観／田中弘成．建物の景観と機能／福井喜朗．都市景観向上のために／吉村英裕．北高南低／宮口恒樹．設備屋から建築設備士へ／中曽暁尚．建築設備とエネルギーの供給体制／橋本邦彦 —— 14

新建材紹介コーナー
アルミ製外装パネルシステム「アルウィトラATA」／西川純一 —— 17

GBRCニュース
自記分光光度計（積分球装置附属）／河津龍大 —— 18

法令コーナー216
建築確認対象法令の基準および範囲／押川兼宏 —— 19

すまいづくり講座21
住宅性能の維持・保全／吉山耕成 —— 20

建築の眼
身の廻りからのみどり水辺／東孝光．まちづくりと電柱／山田耕蔵
町並み再生型の建築活動／高田昇．ホテル・ビル火災に思う／井上司郎 —— 22

特集
自治体営繕と公共建築

作品
兵庫県公館 —— 設計監理：兵庫県都市住宅部営繕課　施工：竹中工務店・熊田工務店特別共同企業体 —— 24
上郡町庁舎 —— 設計監理：安井建築設計事務所　施工：熊谷組 —— 26
ファインプラザ大阪・大阪府立障害者交流センター —— 28
設計監理：大阪府建築部営繕室・大阪府建設監理協会・日本設計事務所　施工：飛島建設・森本組建設共同企業体
三木市文化会館 —— 30
設計監理：三木市建設部建築課・東畑建築事務所　施工：清水建設・高階組・門建設共同企業体
大正区コミュニティセンター —— 32
設計：大阪市都市整備局営繕部・創造社　監理：大阪市都市整備局営繕部　施工：福井組・真鍋工務店建設共同企業体
芦屋市立上宮川文化センター —— 34
設計：芦屋市建築課・昭和設計　監理：芦屋市改善事業課・昭和設計　施工：淺沼組・西本建設共同企業体
なにわ会館・公立学校共済組合大阪宿泊所 —— 設計監理：東畑建築事務所　施工：錢高組 —— 36
アゼリアハウス吹田市営千里山住宅 —— 38
設計：上田篤＋都市工房・小西設計　施工：清水建設・田中組建設共同企業体

座談会
自治体営繕と公共建築の将来像 —— 40
〈司会〉巽和夫〈出席者〉光安義光／恒成恒／岡本行善

レポート
内なる空間の時―なにわ会館のインテリアに寄せて―／加藤力 —— 47

事例紹介
１．保存と修景―兵庫県公館（兵庫県都市住宅部営繕課） —— 48
２．自主設計の手法―サンパレスひらかた（大阪府建築部営繕室） —— 50
３．地域の話題づくり―神戸市農業公園（神戸市営繕部営繕課） —— 52
４．滋賀方式―コンペ：滋賀県立近代美術館（滋賀県土木部建築課） —— 54
５．市民参加方式―八尾市文化会館（八尾市庁舎文化会館準備室） —— 56
６．再開発への試み―阿倍野B1地区第2種市街地再開発事業施設建築物「あべのベルタ」（大阪市都市整備局） —— 58
７．民間活力の導入―埼玉県産業文化センター —— 60

年表
公共建築作品年表／山形政昭・西川純一 —— 62

資料
自治体営繕の動向アンケート／北條誠・北村潤 —— 67

ニュース
うだつの町並みと脇町立図書館／アゼリアハウス吹田市営千里山住宅／アカミズハウス坊津町
松ヶ迫公営住宅／筑波研究学園都市の公共建築―住宅・都市整備公団による肩替建設／営繕部利用の手引―神戸市がパンフレットを発行 —— 71

構造の頁139
大阪府立体育会館の構造計画／山口猛 —— 80

設備の頁139
フレキシビリティーのある工場用配線ダクト／大西勲 —— 81

施工材料の頁138
新材料〝サイロック〟とロボットによるサイロの補修／町文治 —— 82

月報
日本建築協会月間の動き（昭和61年３月分） —— 83

■特集予告
６月号／大阪市庁舎（第２期）／建築防災と法
７月号／21世紀の住居と設備／開発
８月号／CAD（予定）

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
松村雄二・薬袋公明
編集委員会（昭和61年度）
編集委員長
◎井上　滉
編集理事
井上　滉　金井　弘次　金多　潔　小島　雄　城口　庸平　竹中　錬一　武田　恭一　長谷部朔郎　松村　慶三　渡辺　忠
編集委員
（特集小委員会）
■計画分科会
奥村　礼子　川前　勉　河端　秀直　佐野　潤一　清水　肇　芝吹　千昭　田附　尚
★田中　直人
高田　佳子　平岡　博　藤田　治彦　北條　誠　舟橋　國男
■構造分科会
和泉　一義
★阪本　隆敏　田中　茂樹　高垣　利夫　谷　明勲　向井　久夫　安田　光世
■設備分科会
磯田　憲生
★遠藤　進　柿内　隆雄　河津　隆之　久須美高朗　田中　斧　中尾　信之　桑　學
■施工材料分科会
★荒木　弘之　更エ　實男　水口　譲　山下　仁志　山田　敏捷　横井　征夫
■法令分科会
★押川　兼宏　松田　洋三　南出　和延　中島富三郎
（作品作成小委員会）
荒川　朱美　浦山　哲　小椋　豊久　黒川　省二　高瀬　由康
○寺本　敏則　中山　隆　那波　徳造　林　浩二
◇松村　孝治　水川　尚彦
（投稿欄小委員会）
浅野　貴志　赤井　富弘　伊藤　郁郎　北村　恭一　高田　光雄　塚口　明洋　永原　守　堀畑　裕一
○増渕　昌利　吉本　安邦
（広告企画小委員会）
池渕　俊男　筧　秀明　北村　潤　嶋田　聖二　中井　進　西牧　惠吉　原田　常介　広田　和正
◇藤田　孝吉　山下　修司
◇吉田　健次
○渡辺　忠
◎編集委員長　○副委員長
◇副委員長代行　★幹事　☆副幹事

編集人　松井昭光
印刷　昭和61年５月20日
発行　昭和61年５月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座　大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111㈹
大信印刷株式会社
電　06－451－7631
定価　950円（送料共）

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



1945 肥後天神宝ビル

設　計：鹿島建設九州支店
施　工：鹿島建設九州支店
a．福岡市中央区大名２－８－１
b．656㎡
c．460㎡
d．3,310㎡
e．ＳＲＣ、B1、8F、P1
f．昭和60年３月～昭和61年３月
g．地下鉄天神駅



1946 四天王寺学園体育館・教室棟

設　計：中島龍彦建築事務所
施　工：金剛組
a．大阪市天王寺区四天王寺１－11－13
b．11,820.54㎡
c．1,742.29㎡
d．6,917.66㎡
e．ＳＲＣ、B2、5F、P1
f．昭和58年８月～昭和60年12月
g．地下鉄谷町線四天王寺前駅



1947 福原学園鶴鳴記念館

設　計：錢高組福岡支店
施　工：錢高組福岡支店
a．福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘
b．166,807.50㎡
c．5,119.25㎡
d．7,351.54㎡
e．ＲＣ、3F、P2
f．昭和59年８月～昭和60年10月
g．国鉄鹿児島本線折尾駅



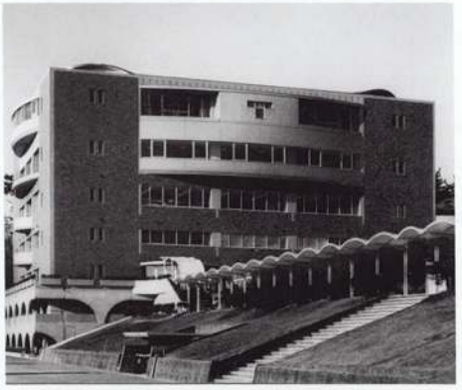
1948 堺聖テモテ教会

設　計：竹中工務店
施　工：竹中工務店
a．堺市浜寺諏訪ノ森町東1－65－12
b．1,048.45
c．410.61
d．618.21
e．ＲＣ(一部Ｓ)、2F
f．昭和60年７月～昭和60年12月
g．南海本線諏訪ノ森駅



1949 大手前女子短期大学伊丹キャンパス

設　計：日建設計大阪本社
施　工：住友建設・鴻池組ＪＶ
a．兵庫県伊丹市稲野町２－２－２
b．16,702.52㎡
c．4,134.67㎡
d．10,562.55㎡
e．ＲＣ(一部ＳＲＣ)、B1、4F、P2
f．昭和60年２月～昭和61年１月
g．阪急伊丹線稲野駅



1950 愛知淑徳学園記念会堂

設　計：竹中工務店名古屋支店
施　工：竹中工務店名古屋支店
a．愛知県名古屋市千種区桜が丘23
b．51,523.25㎡
c．1,087.79㎡
d．4,194.86㎡
e．ＲＣ(一部Ｓ)、B2、5F
f．昭和60年２月～昭和60年12月
g．地下鉄東山線星ヶ丘駅



1951 静岡済生会総合病院

設　計：高橋茂弥建築設計事務所・竹中工務店
施　工：竹中工務店・木内建設ＪＶ
a．静岡市小鹿１－１
b．23,669.01㎡
c．3,116.46㎡
d．16,561.96㎡
e．ＳＲＣ、B1、8F、P1
f．昭和59年４月～昭和60年12月
g．国鉄東海道本線静岡駅



1952 豊島ビル

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：清水・大成ＪＶ
a．名古屋市中区錦３－15－15
b．1,925.21㎡
c．1,465.04㎡
d．19,006.16㎡
e．ＳＲＣ、B3、15F、P1
f．昭和58年12月～昭和60年12月
g．地下鉄東山線伏見駅



1953 ホテルサンルート堺

設　計：奥村組
施　工：奥村組
a．堺市少林寺町西１－１－１
b．957.35㎡
c．663.87㎡
d．4,847.90㎡
e．ＳＲＣ、B1、9F
f．昭和59年９月～昭和61年１月
g．南海電鉄阪堺線寺地町駅

この人　高倉 義雄 内装職人

聞き手　伊藤郁郎（日建設計）

仕事は生き物

「アスノーバン」「ノーバンアール」という材料を御存知の方も多いでしょう。凹凸の模様のついた壁地、曲面の天井等、建築に携わる私達が内装材の選択や納まりに悩むときよくお世話になる材料である。この生みの親が高倉さんである。73歳というお年で元気に設計の打ち合わせに現場にと全国を飛び歩いておられ、皆から「おやじ」「おやじさん」と気軽に親しく呼ばれ、設計の相談にのっておられる。その高倉さんを日本建築協会にお招きしてお話しを伺った。

今さらネクタイして背広を着るなんて性に合わないという根っからの職人である「おやじさん」が、この世界に入ったのは偶々（たま）のことだった。

尋常小学校6年を落第して近所のペンキ屋で奉公をはじめたのが最初で、以来、刷毛を握って60年といわれるように、ペンキ屋稼業一筋を通しておられる。19歳の時に当時の亀谷塗装店に入られた後、昭和13年26歳で中国の北支に出向き、そこで自分の店を持ち開業された。現地召集で入隊、終戦後もすぐには帰れず1年余りかかってようやく日本に帰りついたとのこと。この間の話は、一晩かかっても話し尽くせないと笑いながらおっしゃっているが、随分と苦労されたようだ。

「おやじさん」がこの新しい材料を考えつかれたキッカケが面白い。偶々四国に御両親の墓参りにいかれた時、乗られたのが処女航海の船だった。その船を見て驚いた。内装材は新建材ばかり。ペンキ屋の仕事といえば船の外板だけ。その気になってあちこち見ていると、建築の内装もクロスばかり。八重洲の地下街通っても防火シャッターしかペンキ塗りはない。これはえらい時代になった。何とかしなければペンキ屋の仕事はなくなってしまう。危機感があった。……しかし採究心の強い「おやじさん」のこと。こんな新建材ばかりの世の中で火事になったらどうなるだろう、燃えない材料というものを考えたら面白いのではないかと考えはじめた。そこからアスノーバンが生まれた。

吉田五十八に勇気づけられる

建築家の吉田五十八先生とは深い御縁がおありだそうだ。貴重なエピソードがある。吉田先生に相談されお墨付きをもらって始めた新しい材料が全く売れない。苦労辛酸をなめ「もうあかん」とあきらめかけた時、先生が「これから内装制限がきびしくなり、使える材料がなくて困るのは我々建築家だ。今、君が止めたらどうなる。何とかもう1年辛抱しろ。そうしたら、ロイヤルホテル(大阪)をやれる」と勇気づけられて再びやる気になった。吉田先生が病にふされてからもただ一人枕元に呼ばれ「どうだい売れているか」と最後まで気にかけておられたそうだ。毎年かかさず御仏前に参られるという高倉さんがしみじみといわれた。もしあの時、吉田先生が「それなら止めておけ」といわれたら、今の私はなかった、と。



たかくら　よしお

- 大正元年8月大阪に生まれる。
- 大正14年3月、13歳で塗装店にて修業を始める。
- 昭和4年亀谷塗装店に入る。
- 昭和13年北支に渡り当地にて塗装店開業。
- 昭和19年現地応召、終戦後昭和21年内地へ引き揚げ大阪で再び塗装店の仕事を始める。
- 昭和42年頃から新材料の開発に取り組み、アスノーバン、ノーバンアールを完成。
- 現在、東京に本社・工場を持ち、全国で活躍中。

代表作

ロイヤルホテルをはじめ官民の主要な建物の多くの内装に関わっておられ、関西の最近作ではポートピアホテル、日銀等、更には現在施工中の物件も多い。

高倉インテリア工業㈱
東京都足立区鹿浜3－17－19　☎03－897－3660

ノーバンアールの誕生も偶然からである。あるホテルの改造工事で木製下地の曲面天井にアスノーバンを貼ったところ、木があばれてどうしようもない。また頭をひねり、はじめて2次曲面の材料を思いついた。相談に伺った浦辺鎮太郎先生に、「面白いが出入隅の仕舞を3次曲面で考えねばものにならない」といわれて何日も悩んだ。古い鍋の底をひっくり返して何度も試している内、その材料が偶々自重で伸び垂れて3次曲面が出来ているのを見つけて、やっと実現した。

その後も何かないかと職人の眼でいつも考えている。今もＧＰＲをはじめいろいろと新しい材料を開拓中であるとのこと。いわく「職人だから出来るのであって、考えすぎて出来るものではない」と。「建築家は先生で、我々は生徒みたいなものだ」「おやじ、こんなこと出来ないか」といわれると「出来ない」とは絶対にいえない。一生懸命頭をひねって宿題をとく生徒と同じだ。その代わり苦しみぬいて出来あがった時には本当によかったと思う。その嬉しさは口では表せない。高倉さんの言葉でいえば「職人は所詮あほや。あほであればある程、仕事がかわいくなる。金は欲しくても金のことを考えていたら良い仕事は出来ない。それに仕事は生き物である。生き物であるからこそ、職人の腕次第で、生きることも死ぬこともある」と。だから高倉さんの仕事は全て責任施工でやられる。

職人にとって今の世の中は……

多くの建築家とつき合い、首相官邸、衆議院をはじめホートピアホテル等数え切れない程多くの建築に関わってこられた「おやじさん」だが、その眼には、最近の時代の流れは非情に見えるようだ。「薄情な世の中になってきた」と嘆いておられる。ひとつには仕事の合理化・分業化の中で、例えば請負いの関係にしても、親子のような情をもって仕事がなかなか出来なくなってきた。またひとつには、職人が育たないことだ。職人が打算的になって来たこともあるが、職人が頑張れるような仕事がなかなかない。また金もない。だからその芽も出てこないし技術ものびない。「設計者がいくら張りきってもそれに応えられるだけの良い仕事がもう出来なくなっているのではないか」という。

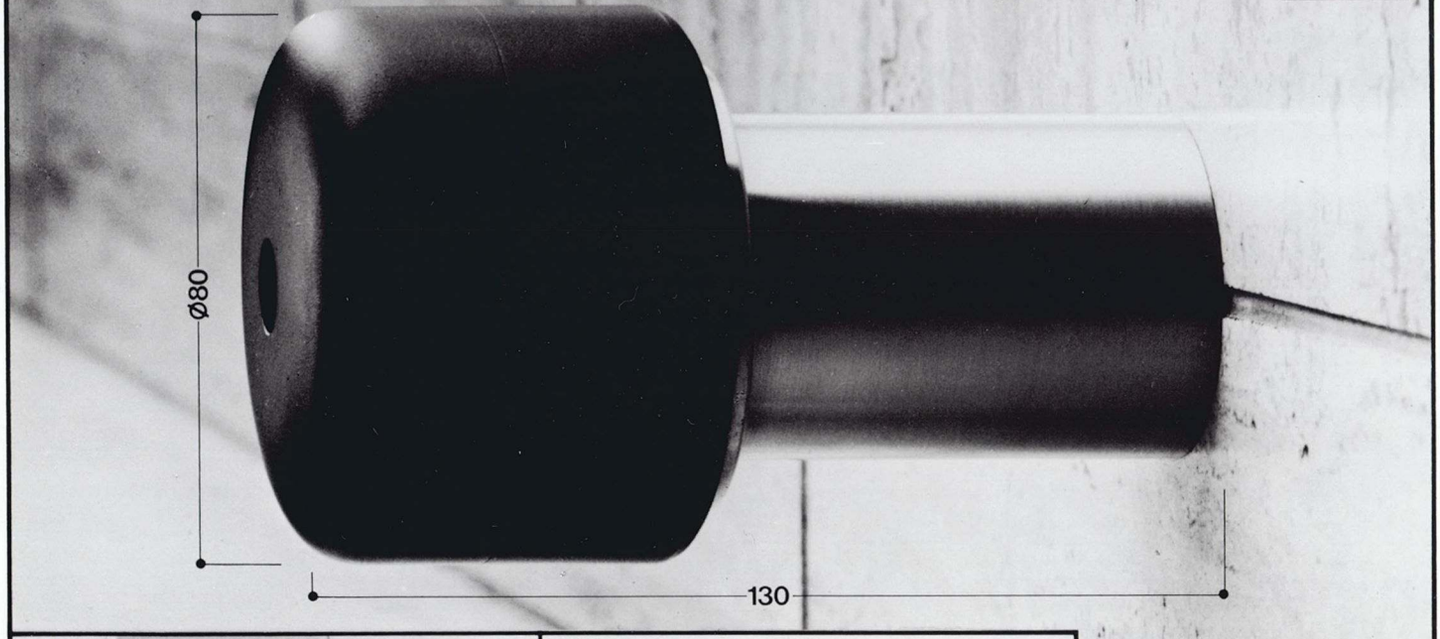
しかし「おやじさん」は元気だ。二人の息子さんは立派に後をついで各地で頑張っておられるのだが、「おやじさん」も自分の作るものは自分で見ていないと何もいえなくなると、高い現場の足場にも上っていく。そして「私は設計者のおもちゃみたいなもんだ」と楽しそうに笑いながら、今日も何か考えるヒントはないかとあちらこちらに出没されている。人なつっこい顔とガラガラ声でしゃべりまくっている「おやじさん」の姿は何か心に残るものがあり、そのお話しは設計に関わる私達にとっていつも教えられるところ大きなものがある。

足もとの"決め"手。

建物の完成度を高めるには細部への配慮が大切。とりわけドアまわりでは、さまざまな建築金具とのコーディネートに気を配りたいもの。ユニオンドアストップ「エッセ」なら、豊富な仕上げ色、優れたデザインで"足もと"を品よく"決める"ことができます。

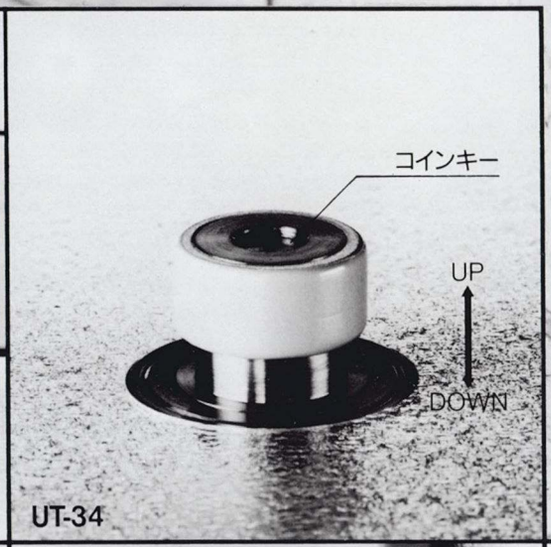
ESSE

ユニオンドアストップ エッセ®





UT-101



UT-34

この製品は重量ドア用です。

UT-100Y



UT-14L



UT-14



UT-12



UT-6



UT-7

建築のこころ伝わる確かな製品を

UNION

株式会社 ユニオン

●本社――大阪市西区南堀江2-13-22
〒550 ☎06(532)3731㈹ FAX(533)3747
●東京営業所――東京都墨田区石原4-3-1
〒130 ☎03(625)8131㈹ FAX(625)8585
●名古屋営業所――名古屋市東区筒井町1-14-9
〒461 ☎052(935)6021㈹ FAX(935)6023
●虎ノ門ショールーム――東京都港区虎ノ門1-26-5
〒105 ☎03(508)2558㈹ FAX(595)2589
●装飾金物部――大阪市浪速区日本橋5-7-23
〒556 ☎06(631)4771㈹ FAX(643)7538

重村　力

神戸大学

聞き手・編集委員　中井　進(日　建　設　計)
プロフィール撮影　島　修一(STUDIO　A・T)

略　歴　しげむら　つとむ

生年月日	昭和21年2月9日（40歳）
出身地	横浜市
最終学歴	早稲田大学大学院博士課程昭和49年度修了
職歴	象設計集団創立メンバー、取締役　昭和53年迄
教職	神戸大学工学部環境計画学科講師
大学所在地	〒657 神戸市灘区六甲台町1－1
おもな受賞	学生デザイン賞（1969年） 芸術選奨新人賞（象グループ・1977年）日本都市計画学会石川賞（象グループ・1977年）
代表作品	松阪市働く婦人の家（松阪市）　沖縄県北部における一連の地域デザイン
趣味	囲碁　ヨット
好きな建築	大学セミナーハウス（設計吉阪隆正・東京都八王子）





松阪市働く婦人の家



松阪市働く婦人の家

フィールド・ワークから建築へ

近年になく建築にもえているという。かつて早稲田大学博士課程在学中から主要メンバーとして活動していた象設計集団で、今帰仁村中央公民館に代表される地域に根ざした独自の建築を生み出していた頃から、今また神戸に転じた後の新たな充実期を迎えつつある。

昨年竣工の松阪市働く婦人の家、今年竣工の徳島県脇町町立図書館、他に住宅なども含め精力的に建築にとりくんでいる。2年前、象設計集団の中心メンバーであった大竹康市氏の突然の死去をひとつの契機として「僕が頑張らねば」との感を強くしたという。

故吉阪隆正氏の伊豆大島計画に触発され、「発見的方法」からスタートしたのが象設計集団である。建築を地域と結びつけ、調査し、理論化し、計画者として観察し、その出会い・感動から、かたちをつくってゆき、建築と地域の生活を一体化する、つまり環境を総合としてとらえるという方法論である。一連の沖縄の地域計画もこの手法ですすめられた。当時、大規模開発の波にもまれていた沖縄は、本来の意味での総合計画を必要としており、「潜在的資源を顕在化させていく形での地域おこし」としての提案が、少数派ではあったが、いくつかの自治体で賛同を得られ、そのひとつが今帰仁村などの地域の特性を生かした建築へと結実してゆく。「自分としては、建築をつくることと、地域生活空間の研究は一体であると考えており、『環境をつくる』という吉阪先生の手法の影響は大きい」という。

78年神戸大学に環境計画学科ができ、自分の価値を発揮できる場所として、教育研究の職に就くことになる。同時に有村桂子氏を代表とした Team Zoo いるか設計集団の設立となり、そこでの協同した設計活動もスタートする。この研究と設計活動が一体となった最近の成果が松阪市働く婦人の家である。夫人である有村氏が出産で実家へ帰省したことを契機にはじまった松阪のフィールドスタディが、80年には「地方都市の定住性の発展に関する研究」と展開し、市にも種々の提案を行い、市もこの熱意を受けとめる中で、商店街再開発の一環としての公共施設の建設となる。非常に困難な敷地条件に加え、厳しい工期・コストの中で、「フィールドワークのストックがあったからこそできたのではないか」と、この規模の公共建築のむずかしさを語る。伝統的な家並の中で新たな秩序を獲得する端初としてこの施設がこれからの地域に与えるインパクトは大きい。5月に竣工の脇町図書館の場合も同様に、フィールドワークから、ＨＯＰＥ計画委員会、県住宅部や建築士会青年部の協力の中での調査、町並の保存地区の中での町立図書館計画へと展開してゆく。独特の梲をもつ漆喰と本瓦の木材豊かな家並の中で呉服屋の倉庫としての外観を残し内部を図書館とする計画であるが、ここでも「フィールドワークから発見的方法で建築へ」「環境を総合としてとらえる」視点は明快である。

「伝統的工法や材料を使って現代的空間を創り出してゆきたい」と自らを説明する。つまり伝統的材料を新しい形で使うことで、材料の新しい魅力を引出し、それがエコロジカルにも新しい地域の文化・景観をつくり出すことにつながるという。脇町の場合では町章の軒瓦を使用している。また、近作の住宅で、左官による漆喰壁と亜鉛ムク板などを使いわけた様に、伝統的材料とハイテクな材料をあわせ使って現代的空間を構成したいともいう。「伝統的手法を使うとかたくなりやすいが、これを諫めつつ、柔らかく、自由や夢を織り込んでゆきたい」といい、研究としても理論づけてゆくと語る。

今後の建築の方向としては、「近代建築が主流を決定づけた50年代に関心があり研究してゆきたい」と「建築に主体を回復するとの意味においてポストモダニズムも評価してゆきたい」と考え、調査・建築と一体となった活動は今後もベースとなるが、住宅はもちろん、今まで研究しながらできなかった集合住宅の設計もやってみたいという。また、千里のような単一の生活型の提示ではなく、「生活型の複合としての都市の多様性」が個々の自由や存在とつながるかたちでの理論化もすすめてゆきたいと語る。新たな展開をはじめた重村氏の意欲が直接伝わってくるようなインタビューであった。

〔次号の登場者は北島道生氏(北島道生アトリエ)〕

書　評

日本の伝統構法を探る

藤沢 彰（京都大学助手）

昨今の建築教育において、日本在来の伝統的構法による木造建築の講義に費やす時間ははなはだ少ない。明治の黎明期以来、我が国の建築学は欧米の先進技術の導入と理解を第一義とし、遂には欧米を凌駕し、今なお休むことなくその大勢は先進的技術の開発・実用化に力を注いでいる。当然、建築教育の場にもその影響は表れ、簡単に言えば習うべきことは日々多くなり、かつ、難しくなって行く傾向にある。先端技術というものは日夜進歩しているらしい。それに比べ、伝統的構法による木造建築の技術は進歩しているのであろうか。当然ながら答えは〝ＮＯ〟である。こちらの方は技術が衰退、もっとひどい場合には消滅することはあっても、そう進歩することは無い。本書に紹介されている、屋根構造における野屋根の発明・桔木の利用、軸組における貫の登用、土壁の補助材における海草糊の利用、屋根瓦における桟瓦の発明などは数世紀に一度あるかないかの大技術革新であった。大方の技術者にとっては新技術の開発よりも、既に確立されている技術の習得と後継者の養成が関心の的であった。それが伝統的構法による木造建築の伝統的たる所以である。

日本建築軽視の建築教育

建築教育において、日々進歩している技術・知識の修得に力を注ぎ、停滞する木造建築に関するものを軽視する傾向にあるのは当然のなりゆきかもしれない。また、建築に対する社会的な需要も伝統的構法による木造建築のそれは減少の一途をたどっている。そのような状況下にあっては建築教育の枠組の中で、伝統的構法による木造建築への理解を深めることはなかなか難しい。先端技術に携わる人人が技術開発に心血を注ぐのに対し、伝統的技術に携わる人々は技術の継承に頭を悩ませている。著者山田幸一氏も左官業界において、技術の継承と伝統的構法の見直しに努力されている一人である。

本書の目ざすところはあとがきに明解に記されている。少し長いが次に引用しよう。

「本書は建築一般構造を基盤に、日本建築史および若干の海外建築に関する知識を援用し、その中から日本建築の変遷と在来構法の特徴を探ろうとするものである。現在の建築学教育では、上の諸テーマはそれぞれ独立した科目として授業され、教師もまた別々であることが多い。そのために内容が重複したり、時には異なった解釈が示されたりすることも珍しくない。そのような無駄や混乱をなくするためには、関連の諸科目を融合して統一的に理解することが望ましい。本書の構成をあえて従来の類書に倣わず、構造学と史学のいわば接点を求めるようなまとめ方をしたのは、一に以上の観点に基づく。」



図解
日本建築の構成
構法と造形のしくみ
山田幸一著

彰国社刊
2,200円

ここに示された構想は、建築学の初等教育において、日本建築史と建築一般構造の前に茫然と立ちつくし、その理解に頭を悩ませた者にとっては待ちに待った念願のものであろう。初めてそれらの講義を聞いた時、術語が聞きなれないものばかりでほとんど死語か外国語ではないかと疑った人も多いのではなかろうか。一般構造の講義で構法・術語の説明を聞いてもすぐには理解できず、建築史の方では基本的な術語は当然理解しているものとの前提に講義は進み、ただただ時は過ぎ両者がおぼろげながらも頭の中で融合できるようになるのは、もう卒業も間近かの頃というのが普通ではあるまいか。後々考えてみればなんでもないことを、その当時はいろいろ悩み考えあぐねる、ということは日々の生活の中でもままあることである。日本建築史と建築一般構造の間にはこの種の問題が多いように思える。そんな悩みに答えるべく、両者の効率よい理解と日本建築の変遷・在来構法の特徴を明らかにするために本書は構想されたのである。

日本建築への愛着がにじみ出る

本書は、

Ⅰ建築物のしくみ――日本建築の特徴
Ⅱ軀体の組立て――軸組
Ⅲ機能と造形の調和――屋根
Ⅳ空間をつくる――壁
Ⅴ空間の演出――造作

の５章よりなり、日本建築の大まかなアウトラインから各構造部位へと進み、その間、諸外国の事例との比較を通じ日本建築の特色を鮮明にし、同時に各構造部位の歴史的発展経過をも考慮して記述が進んでいる。全篇にわたって著者の日本建築に対する受着、特に日本壁に対する愛着がにじみ出ている。ただ惜しむらくは、全体の中で「Ⅳ空間をつくる――壁」の項の比重がやや大きく、バランスを欠く憾みがある点である。もとより、たった一冊の本で日本建築史・建築一般構造の全てを理解することはできない相談であるが、無味乾燥あるいは難解になりがちな両教科書を補うものとして本書を活用すれば、極めて有効なものになるだろう。また、既にそれらを一通り学んだ者には、日本建築の変遷を今一度検討し、その全体像を再構成する一助ともなろう。

ふじさわ　あきら
1955年東京生まれ
1980年京都大学建築学科・1986年同学科ＤＣ卒業
現在、京都大学建築学科助手、日本建築史専攻

新刊寸評

神やどる大和

栗田 勇著

大和の歴史紀行は少なくないが、本書の趣は一味異なっている。葛城、二上、三輪、等々の神宿る山麓を巡りながら、古代史の痕跡を発見？し、ただただ感動するものではない。著者は古道を踏査しながら、目に映るもののなかに目に見えないものを見い出し、心の中に古代人の息吹きを蘇えらせる。そこで自覚したのが日本人の感性としての「聖なるものへの憧れ」だという。

好きな一節を、少しゆっくり読み返したい、まほろば紀行である。　（山形政昭／大阪芸術大学講師）

（新潮社刊 2,300円）

インテリア・ウォッチング

押野見邦英著

通例のインテリアデザイン史ではなく、今第一線で建築デザイン活動につく、著者の豊富な経験と、研かれた眼力で、インテリアデザインの本質にせまる。その語り口はなめらかで、興味深い話題が散りばめられ、読む人は居心地のいい良質なインテリアの世界に誘い込まれるだろう。

最近モダンデザインにさす翳りが云々され、ポストモダンの新奇な傾向が注視されるなかで、アイリーン・クレイ、テッラーニらのモダニストの先兵を発掘し、またジョポンティのスノッブな魅力、ミースの家具がもつ意外なヒューマンマインド、そして諧謔精神に富むイタリアンデザインの魅力の分析などが語り尽くされている。

（山形政昭／大阪芸術大学講師）

（鹿島出版会刊 2,500円）

私が読んだ本

三つのパターン

遠藤剛生（遠藤剛生建築設計事務所）

休日の朝、それも眩いばかりの太陽の下なら最高である。テーブルと椅子を外に持ち出して、地図を広げ、それがインド鉄道の旅でも、シベリア横断鉄道の旅であってもかまわない。日々の生活から断絶の距離があればあるほど好ましい。

一方で、唯ぼんやりと活字を追い、他方で地図の上をなぞらえて、勝手な夢や空想にふけっていられる、そんな無為な時間があれば幸いである。勿論こんなたわいない暇つぶしを、読書だなどと言うつもりはさらさらない。

さりとて今回のテーマのように〝最近読んだ本〟をと、正面切って問われると、はたと困ってしまう。

なぜならば多少の「本」も読んではいるが、それが心の糧に成ったり教養が身に付くといった類の本とは、ほとんど縁が無いと思っている本ばかりだからである。

最近の読書傾向を分類すると……

元来私の本の選び方は、その時々の思うにまかせ、気の向くままに拾い読みした過去だった。読書方法も、今もって定まったものを持ち合わせていない。だから今私の本棚には、種々雑多な本が並んでいる。ただ、最近では時間のせいもあって手にする本には、およそ一定のルールらしきものができつつある。それらを大別すると、おおむね三つぐらいに分けられよう。

その一つは、かつてから常に興味を持ち続けていた分野のもの。次は、これから行動するために必要だと思うもの、また行動の後確認してみたいと思うもの。これらはおおむね仕事との関わりのあるものが大部分である。最後は作者や作品が特に目に止まった場合と言えるだろう。これらの中で一番読みたい本は最後のものである。

最初の部類に属するものは、おおむね中央アジアを中心に、東はカラコルム、崑崙、西はパミール、ヒンズクシ、南はヒマラヤ、北は天山、アルタイ山脈等、地図の上では黄土と茶色の地帯に集中する。それらのどの本も、土くれの色と匂いがぷんぷんとし、世界のメルシングポットを彷彿とさせる人々の姿が浮んでくる。私にとっては限りなく魅力を感ずる特別の世界がそこにある。

タジク、キルギス、シンジャンウイグル、チベットの歴史や文化等に傾斜すればするほどに、本棚はこれらの本でしめられる。またこの4月の初めには、台湾の建築グループから招かれて、2度ばかり講演する機会があった。そのお返しに台中の近くの、古くから大



陸との交易のあった、鹿港の古いレンガ造の街並や路地、伝統的な寺院等に案内された。それらの保存の資料や、町屋の調査資料等をプレゼントされ、新たに数冊が本棚に加わった。

もう一つの傾向は、仕事柄当然と言えばそれまでだが、中世前後からのヨーロッパの都市の生活と文化に関するものである。

一例を挙げるなら、「中世の窓から」阿部謹也著という1冊の本を選んだとしよう。そうすると「中世を旅する人々」、「ハメルーンの笛吹き男」、「中世のイタリア商人の世界」、「北の農民バイキング」、「路地裏の大英帝国」、等等といった調子でこれらの本を通して、中世都市社会を構成する、兄弟団の話から、遍歴職人の世界へ、そして石工の話からゴシックの大聖堂へ、そしてステンドグラスからイギリスの裏町まで、次から次へと引きづられ、話は取り止めもなく進んで行く。これらの本は、今の自分の仕事への手掛かりを求め、自分の行動のための糧にしようと考えている。

特に印象に残っている本

かつて趣味の本、仕事の本以外の本当に読みたい本は、自分で本屋に出向いて行って本をめくって求めていたが、今では何冊かの本のタイトルだけを書き出して事務所でまとめて買うために、この「イモズル式」書籍購入法で思惑と異なる本を買い込んで、思わぬ失敗をしたことも何度かあった。

このように私の読書の傾向を概観すると、三つのパターンになるが、それも最終的には、記録文学的な分野のものと、人間ドキュメントタッチのものに収斂されるように思われる。

それらの中から最近読んだ中で、特に強く印象に残っているものを拾うなら、西川一三著「秘境西域八年の潜行」上・下巻。（サブタイトルは、上巻「七度ヒマラヤを越えた日本人ラマ僧の手記」、下巻、「わが青春を捧げた神秘のチベット」）と別巻である。この本は私がここでとやかく言える類の本だとは考えていない。生と死の間をさまよい、命をかけて生きた人間のぎりぎりの記録であり、ヘディン等とは全く別の地平に存在する。もう1冊の本は、作者がその存在をかけて著し、鮮烈な感動を与えてくれた「水底の歌」上・下巻である。

えんどう　たかお
1941年2月10日山形県生まれ
1964年大阪工業大学卒業後設計事務所スタッフを経て
1969年遠藤剛生建築設計事務所を開設、現在に至る
1984年神戸大学環境計画学科非常勤講師を兼務
主な作品
自邸、千里山女子学生ハイツ、関西マックスファクター、ドムール北畠、千里山ロイヤルマンション、キーエンスリードエレクトリックなど

新刊寸評

THE CITIES

都市はどのようにつくられてきたか

——発生から見た都市のタイポロジー——

アーヴィン、Y・ガランタイ著　堀池秀人訳

都市形成のプロセスをさまざまな角度からとらえようとしたシリーズの中でも総括的な位置にあるのが本書である。新都市の定義から始まり、新首都、植民都市、工業都市、過疎化と、現在および過去の新都市建設を検討したあと、結論として今世紀末までの起こり得る新しいコミュニティ建設について、〝妥当な〟予測をたてている。

しかし、本書の何よりの特長は、参考資料としての図面や写真である。原著が75年に出されたにもかかわらず、今なお本書が新鮮さを失わないのは、こういう点にあるのだろう。

（赤井富弘／近畿地建）（井上書院刊 2,400円）

ヨーロッパの木造建築

太田邦夫著

本書は、東ヨーロッパを中心とした木造建築の写真集と、構法から見たヨーロッパの木造建築の本文からなる。ヨーロッパの建物というと石やレンガの組積造をすぐ思いうかべるが、本書は、ヨーロッパにこんな素晴しい木造建築がいっぱいあるのかと感心させられる。写真は、著者が、願わくはユーラシア東西の伝統的な木造技法の接点を求めんと、単身東ヨーロッパ僻地を訪ねはじめて以来の10数年間の蓄積をまとめたものということだが、とても手持ちで撮った35ミリの写真とは思えないできばえ。それによっていっそう見る者が、ヨーロッパの木造建物の深みに魅きつけられるのかも知れない。（赤井富弘/近畿地建）（講談社刊 18,000円）

読者の頁

近効都市のまちづくりと建築

山口繁雄（地域計画・建築研究所）

大阪では、インナーシティ問題が脚光を浴び、衰退する都心をいかに再生させるかが都市計画の大きなテーマになっている。しかし、その周辺に広がる近郊都市の問題は、まだそれ程本気で議論されていない。

最近、大阪周辺の近郊都市のまちづくり計画をいくつか担当したが、近郊都市は近郊都市で大きな悩みを抱えている。その最も大きな問題は、それぞれのまちがかつて持っていた固有の特色が、大都市からのスプロール的な都市化の中で弱められ、平準化されたことである。

近年、都市化が一段落し、さて新たな目標を立てて新しいまちづくりを出発させようとした時、旧来からの住民は、ふと我々のまちは一体どこへ行ってしまったのだと考え、新しく転入してきた住民は、一体何を拠りどころにしてまちづくりを考えていけばよいのかと迷ってしまう。

この時、それぞれのまちが保有する固有の歴史文化が両者の意志を統一させる気運を与える場合が多いが、それをいっそう促進するため、歴史的文化蓄積を活かした建築物づくりを新しいまちづくりのシンボル事業として位置づけるのも有力な方法である。

建築が社会に果たす役割は大きいが、近郊都市においては、今、その役割が問われている。

裏通りの景観

田中弘成（大林組）

近年、都市環境や景観の向上に寄与したすぐれた建物を表彰する制度が各地で設けられるようになりました。大阪でも都市景観賞が制定されて5年を経過し、一般の人達にもかなり知られるようになって、都市景観に対する関心を高めるのに役立っているものと思われます。

大阪市では、とくに幹線道路沿いでの美観誘導がなされ、表通りは年と共にその成果が現れるものと期待されますが、日ごろ街を歩いて気になるのは裏通りの景観です。とくに御堂筋などの幹線の一本裏通りでは高い容積率と道路斜線との関係から舞台のセット裏のような大変な形状になっているところが多い。船場地区でもやはり街区の大きさと道路幅員の関係で、東西面では必ずセットバックする部分ができてしまいます。容積率の高い都心部については、景観を良くするためにも、高さ制限の見直しを考えてはいかがなものか。

また大阪の船場地区では、建築線の指定によって後退した部分の舗装材が、建物によって、歩道ブロック、タイル、石などさまざまで不統一なのが気になるのに加えて、せっかく歩道状につながりながら、それぞれのレベルが建物毎に違っていて、かなりの段差になっているものも見うけられる。舗装材については市が指定するか、材料を支給するとか、レベルについては街区ごとに段差のないものにするよう指導するなど、よい街づくりのためには細かい対策も必要ではないでしょうか。

声
建築と景観

建物の景観と機能

福井喜朗（松村組）

我々が建物の施工に参加する場合に、何時も問題になるのが建物の景観と機能のバランスのことである。特に住宅建築において考えさせられる場合が多い。

先般、コーポラティブ住宅の建設に参加した時にも、この問題について痛切に考えさせられた。景観にウエイトをかけすぎるために、一番重要視せねばならないはずの機能面に無理が生じてくる。建物をつくる場合、設計する側からすればどうしても〝見せる〟という意識が優先する。宣伝媒体としては効果的であるかも知れないが、生活空間の場として考えるならば、やはり機能を最優先にすべきであり、そこに住む人達を尊重することが大切ではないだろうか。

施工の段階に於いても奇をてらった建物や、見た目ばかりの建物というものは何かしらやりにくい。機能を重視した住みよい建物というものは施工をしていてもなんとなくやりやすいものである。

日常我々が身につけている衣裳なども、いろいろな飾りをつけたものは見た目に恰好はよいが着て見ると身になじまないし、飽きるのも早い。役者の無台衣裳も、恰好は良いが機能的にはどうかと思う場合が多い。

生活空間の場である建物も役者の舞台衣裳のようなものであってはいけないと思う。やはり機能にウエイトをおいた建物というものは、そこに住む人が日常快適な生活を営めるようになっているものである。施工の段階でいつも悩まされる問題である。

都市景観向上のために

吉村英祐（大阪大学建築工学科助手）

都市景観についていろいろ議論されるようになって久しいが、実践面ではまだまだお粗末なのが日本の都市の現状ではないだろうか。ここで、都市景観の構成要素をみてみると、建築物をはじめとして、道路、橋、鉄道・道路の高架、河川、植栽、看板、電柱等、様々なものがあげられる。その中でも、とりわけ土木構造物は、その巨大なスケールで視覚を圧倒し、時として景観を一変させてしまうこともある。しかも、土木構造物は公共性が極めて高く、建築よりもはるかに長い寿命を要求されるのであるから、建築以上に景観に対する配慮が必要なはずである。戦前の土木構造物には、偶田川や中之島の名橋群のように、土木技術者が心血を注いだものがみられるのに、戦後は、いわゆる用・強・美のうち用・強に片寄りすぎているようである（阪神高速道路や大阪南港のニュートラムの高架、そして今工事中の大阪モノレールを見よ！）。

都市景観の質の向上をめざすには、建築の力だけでは限界がある。幸い、土木技術者の中にも、景観に対する関心が非常に高い人がおられると聞いている。その人たちの理解と奮闘を祈っているのは私一人ではないはずである。

北高南低

宮口恒樹（パシフィックコンサルタンツ）

小生は、泉州の高石市に住み、大阪市内に通勤する者で、都市計画、ランドスケープ関係の仕事に携っています。仕事柄、神戸、京都、北大阪から泉州あたりを電車で行ったり来たりすることが多いのですが、最近つくづく北高南低ということを感じます。神戸や西宮から阪急に乗り、地下鉄御堂筋線を経て、南海または阪和線で泉州地域に行けば、電車の窓から見える住宅地の景観、乗客の衣装、言葉、話の内容、マナーに到るまで相当な違いを感じざるを得ません。泉州の各都市は、今後、関西新空港をひとつのインパクトにし、積極的なまちづくりを展開し、フィジカルな環境整備とあわせ、文化やマナーなどのソーシャルな面の向上を図っていってもらいたいものです。

それから「日本建築協会」に対して一言。現在、雑誌「建築と社会」の出版事業が中心ですが、今

読者の頁

あなたの「声」をお寄せ下さい。

○内容は、建築・しごとのこと、近況、「建築と社会」へのご意見・要望など何でも結構です。
○原稿は500字前後でお願いします。（ハガキ使用可）原則として原稿は返却しません。掲載分には謝礼をさしあげます。
○氏名、住所、職業・会社、年齢、電話を明記して、㈳日本建築協会編集部投稿欄小委員会宛（〒530　大阪市北区梅田１－１－３－2100大阪駅前第３ビル21階）お送り下さい。



画　松井昭光

後もっと業務の内容の拡大を図っていかれてはと思います。協会は建築及び関連業界の交流の場として期待される面が大きいと思います。会社などの組織の中で仕事をする者にとっては、これからの時代はタテ型社会から脱皮し、ヨコの交流がますます重要になるでしょう。まだ具体的な考えはありませんが、サロン的なものの経営・シンポジウムや講習会の開催、視察旅行の企画、コンサルタント業務の受注、その他、人を集める各種の企画を行い、協会が新たな発展をされることを切に望んでおります。

設備屋から建築設備士へ

中曽暁尚（鹿島建設）

昨年末、建築設備資格者を定める告示により、本年中に建築設備士が誕生することになったことは、遅まきながら時代の変化を感じさせる。規定によると、建築設備士試験の受験資格は、一級建築士に比べて非常に長い実務経験が要求されている。

この良し悪しはさておき、小生が設備設計に従事してから約22年が経過した（実務経験20年以上の場合は、講習を受ければ資格が得られる）。振り返って見ると今更ながら、建築設備の内容の変化や、分野の多様化に驚かされ、今昔の感がある。特に最近は先端技術、とりわけエレクトロニクスの技術革新により、産業構造の変化が急速に進行している。当然建築設備に対する社会のニーズも複雑、多様化じ、とても実務経験の長さだけでは対応出来ないのが実感である。

入社したての昭和38年頃の仕事といえば、専ら水廻りを中心とした給排水設備と欧米式浄化槽を設計させられ、たまに冷暖房設備があっても、パッケージ型エヤコンを設備し、あとは直暖設備だけであった。また時には騒音関係の公害問題にも相談にのる位であった。もっとも世間では高度経済成長の波に乗り、本格的な空調設備を持った大型ビルや超高層ビルの設計も行われていたようではある。

昭和42年頃以降は空調設備が一般化し、我々の業務も設備屋として、徐々に忙しくなって来た。特に48年の第一次オイルショック後は、資源有限時代の思想が生まれ、省エネルギーが主テーマとなった。この段階において建築設備の設計にも、設計思想が定着するようになり、大幅な技術の進歩がはかられた。

現在ではハイテク時代を反映して、設備技術もクリーン施設におけるＢＣＲ、ＩＣＲ、工場のＦＡ、ＦＭＳ、事務所等のＯＡ化、インテリジェント化等々先端技術への対応に忙殺される時代を迎えている。

日進月歩する先端技術の新しい言葉や概念に直面し、建築設備士にとってはまさに設備屋から建築設備士への脱皮の時であり、建築を構成する一分野の専門技術者として期待が高まっている感がある。

再び告示に戻ると、建築士は建築設備士の『意見を聴いたとき、設計図書又は工事監理報告書に、その旨を明らかにしなければならない。』と記されている。

建築設備士は何処まで意見を言えば良いのか？今後の運営がスムーズに行くよう、建築士の皆さんの御協力をお願いしたい。

建築設備とエネルギーの供給体制

橋本邦彦（須賀工業）

私が建築設備に携わることになった昭和40年代の初期は、設備エネルギーの石炭から油への移行が完了し、一般ビルの冷房設備がようやく定着した時期であった。昭和50年代に入り、クリーンエネルギーであるガス、電気がこれに代わり、現在に到っている。代替エネルギーのエースと目されたソーラー利用も、当初期待された程には普及していない。

これらの変遷は、石炭・油の市場変化、公害関係の法規に依る他、電力ガス会社の料金体系に依る所が大きい。電力基本料金の比重が大きい為、負荷率、使用率の低い設備には電力は不向きであり、大規模な建物には、個別パッケージ方式は採用し難い。蓄熱槽方式も特約が有利な地域に採用されているようである。冷房用のガスが一般の半額近くで利用できるようになってから急速にガス冷房が普及したのは周知の通りである。

これらの供給体制からの制約の中で、省エネルギー技術などに種々の試行を繰り返す昨今であるが、少しでもフリーな立場で適切なシステムの採用ができるような供給体制を望みたい。少なくとも省エネルギーと省コストが同じ結果になるようにしたいものである。

企画：日本建築協会

プロのノウハウ　最新刊

職業訓練大学校教授　**矢吹 茂郎　著**

とかく敬遠されがちな基準法の諸問題を読みやすく解説

基本問題40講 建築基準法の実際

●幅広い経験のすべてを込めて奥深い諸問題を説く

建築基準法の難しさは，設計，行政，司法という三つの面から出る多様な問題を，どう一つに止揚させていくかにある．本書では，様々な問題を事例をあげてわかりやすく解き明かす．著者の幅広い立場上の経験に審査会の裁決等も加え，単なる法規の解説ではなく，内容にも突っこんだ形で編集した．基準法諸問題解決のための好著．

四六・ 224頁・定価1800円

内容概略

- 敷地の定義と用途上の可分・不可分
- 道路の定義と位置指定
- 地域指定と建築規制
- 土地利用と容積制限
- 斜線制限と絶対高さ
- 総合設計制度と容積・高さの緩和
- 地域による防火規制の変遷
- 地域がまたがる場合の問題点
- 長屋と共同住宅
- 居室の採光と有効の算定
- 火災の拡大防止と防火区画
- 排煙設備の有効性
- 仕様書規定と性能規定
- 建築基準法最低基準論
- 隣地境界線と外壁後退
- 建築確認の法的性質
- 確認審査および検査の省略
- 消防同意と建築基準法
- 行政指導と確認留保の限界
- その他，21講

プロのノウハウ　好評発売中

TQCから見た建設業 問題解決の決め手
荒木睦彦著 / 四六・ 192頁・定価1600円

軀体工事監理のチェックポイント100
須賀好富著 / 四六・ 224頁・定価1800円

パソコン会計術 設計事務所編
西部明郎著 / 四六・ 224頁・定価1800円

建物の値打ちの高め方 ビル・マンションの新しい評価法
小林清周著・四六・ 208頁・定価1700円

空調設備のトラブル50 建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著・四六・ 224頁・定価1800円

衛生設備のトラブル50 建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著・四六・ 224頁・定価1800円

〈目録進呈〉

学芸出版社

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL 075(343) 0 8 1 1

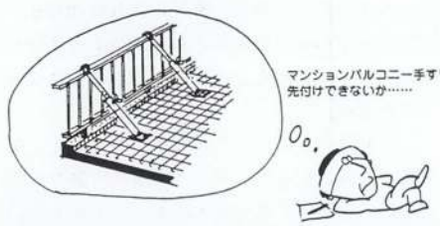
企画：日本建築協会

プロのノウハウ　最新刊　あなたもアイデアマンになれる

現場マンのアイデア発想

四六・ 224頁・定価1800円

戸田建設株式会社　**合原 一夫　著**



金属工事ではコストを大きく左右するアイデアテーマが多い

厳しい時代を生きぬく原動力はアイデアだ!!

- どうしたら施工のコストが下げられるのだろう？
- どこを改善したら現場がスムーズに動くか？

厳しい不況からの脱出を目指し，各社ともコスト・品質競争に必死である．本書は，そうした現場で生かせる施工のアイデアや，盲点になっている改善テーマなどを数多く集めた．また，どうすれば役立つアイデアが得られるのかなど，日常生活や職場でのアイデア発想法などを提案．即実行に移せるアイデアの本．

プロのノウハウ　好評発売中

TQCから見た建設業 問題解決の決め手
荒木睦彦著 / 四六・ 192頁・定価1600円

軀体工事監理のチェックポイント100
須賀好富著 / 四六・ 224頁・定価1800円

パソコン会計術 設計事務所編
西部明郎著 / 四六・ 224頁・定価1800円

建物の値打ちの高め方 ビル・マンションの新しい評価法
小林清周著・四六・ 208頁・定価1700円

空調設備のトラブル50 建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著・四六・ 224頁・定価1800円

衛生設備のトラブル50 建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著・四六・ 224頁・定価1800円

〈目録進呈〉

学芸出版社

〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL 075(343) 0 8 1 1

アルミ製外装パネルシステム

アルウィトラＡＴＡ

株式会社エービーシー商会アルウィトラ事業部

本社　東京都千代田区永田町２－12－14（〒100）　TEL 03－507－7194
大阪　大阪市淀川区西中島４－２－９（〒532）　TEL 06－305－1181

■はじめに

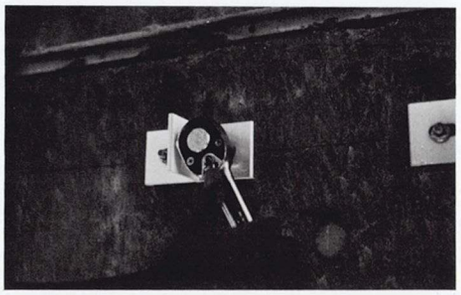
外壁金属製仕上げ材には、多くの材質・構法がありますが、工期もかかり、価格も一定ではありません。金属板自身の伸縮挙動、継手部のシーリングなどへの考慮も完璧ではありません。

アルウィトラＡＴＡシステムは、アルミニウム素材（押出型材、ロール成型材）を用い、外装パネルの完全なシステム化を実現しています。外装パネルに求められる熱・雨・風などへの対応は勿論、施工性・工期にも十分配慮した注目すべき外装パネルシステムです。

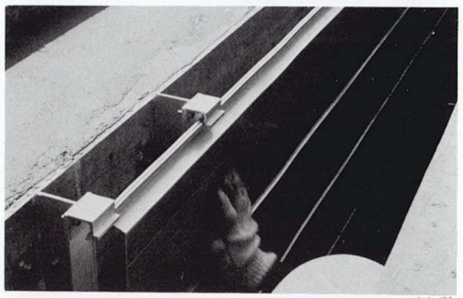
■特長

1)下地材から本体パネルまで、すべて規格化された工場成型品です。
2)温度変化によるパネルの伸縮や、躯体の挙動を吸収する可動、絶縁方式です。
3)パネル目地は独特のオープンジョイント方式を採用し、風による負荷が軽減されます。
4)構成部材が大幅に軽量化できます。（８kg／m²）
5)オープンジョイントにより、換気、蒸気放散が可能で、結露を防止します。
6)カラーコーディネイトが自由にできます。

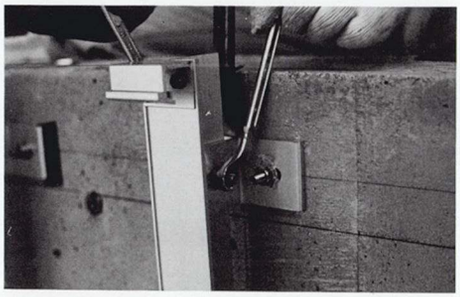
■工法



1)ブラケット（下地材）を躯体に固定する。



3)フェイシャ（仕上げ材）をプロフィールに嵌合させる。

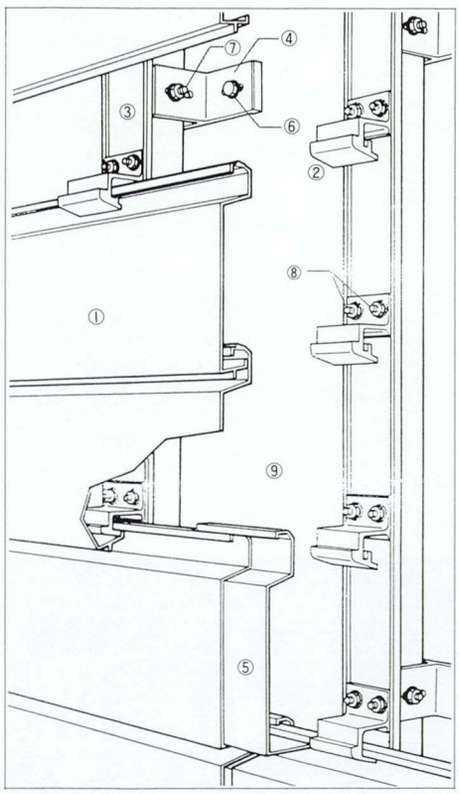


2)プロフィール（方立）をブラケットにステンレスボルト、ナットで固定する。



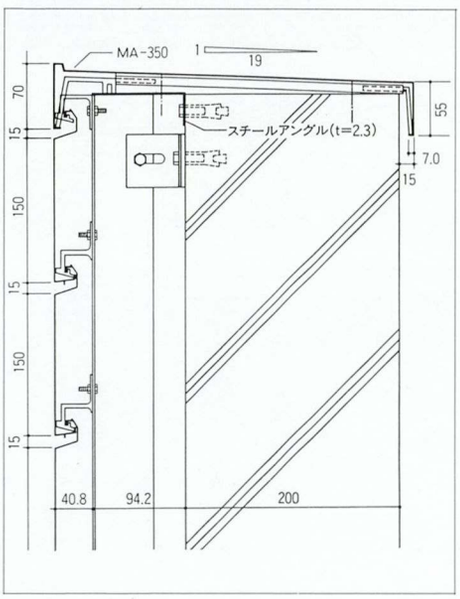
4)取り付け完了

取付概念図

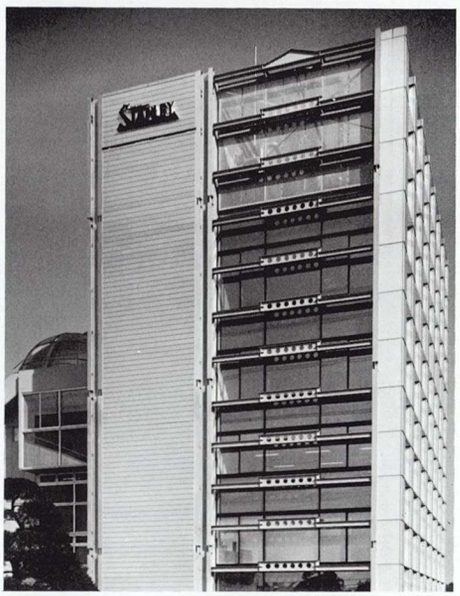


①フェイシャ（表面パネル）　⑥ステンレスボルト（M－10）
②ホルダー　⑦ステンレスボルト（φ８×25mm）
③プロフィル　⑧ステンレスボルト（φ６×20mm）
④ブラケット　⑨下地
⑤ジョイントプレート

標準納まり図



施工例



製品規格

タイプ	材質	表面処理	板厚 mm	標準ピッチmm	標準割付mm
１５０	アルミニウム合金押出型材	シルバーアルマイト	１．６	１６５	Ｌ＝3,000
２００	ＪＩＳ Ｈ 4100 Ａ6063Ｓ－Ｔ５	二次電解着色アクリル焼付	２．０	２１５	

建材委員／西川純一（昭和設計）

自記分光光度計

（積分球装置附属）

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…〒565 吹田市藤白台5－8－1
電　　話…(06) 872－0391
業務時間…平日：午前9：00～午後6：00
土曜日：午前9：00～正午

昭和60年度施設整備計画の一環として、このほど当試験所材料試験室にダブルビーム式自記分光光度計〔本体：㈱島津製作所製ＵＶ-240、パーソナルコンピューター：沖電気工業㈱製 if-800 model 30〕を導入しましたので、その概要を紹介します(**写真－1**参照)。

分光光度計の主な使用目的として①溶液の定量分析、②光学的特性の測定があり、その詳細を以下に示します。

1. 溶液の定量分析（吸光光度法）

物質に光を照射すると、その物質の分子構造に基づき特定の波長の光だけが吸収され、この光の吸収される強さは物質の濃度と比例します（ランベルト・ベールの法則)。この特性を利用して試料の濃度測定を行なうものです。本器では１～30の濃度既知試料を波長190nm～900nmの範囲において吸光度を測定し、その結果を直線一次回帰線として自動作成します。一例としてチタン溶液の濃度測定結果を**図－1**に示します。

参考規格：JIS K 0101「工業用水試験方法」他

2. 光学的特性の測定（積分球装置使用）

物質に照射された光は受光面に当った後、反射される光、吸収される光、透過する光に分かれます。これにより反射率(色度)、透過率、濁度等の測定が行なえます。

主な測定例としては、

１）塗材、塗装鋼板等の表面色の測定。更に劣化外力(促進暴露、塩水噴霧など）を与えた後の色差（色の変化）測定。

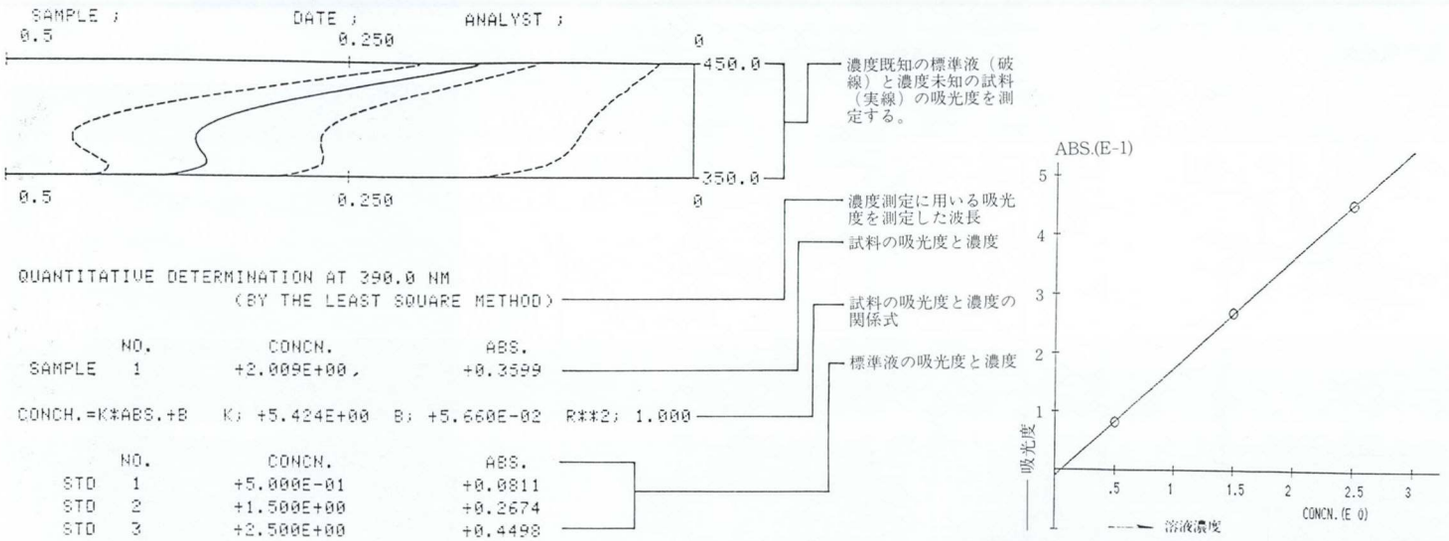
２）プラスチック、ガラス等の透過率、曇り度、黄度等の測定。更に劣化外力（表面摩耗など）を与えた後の測定値の低下率測定。

３）ボード類、コンクリート等に塗装された塗材の溶出による、溶液の濁度測定。

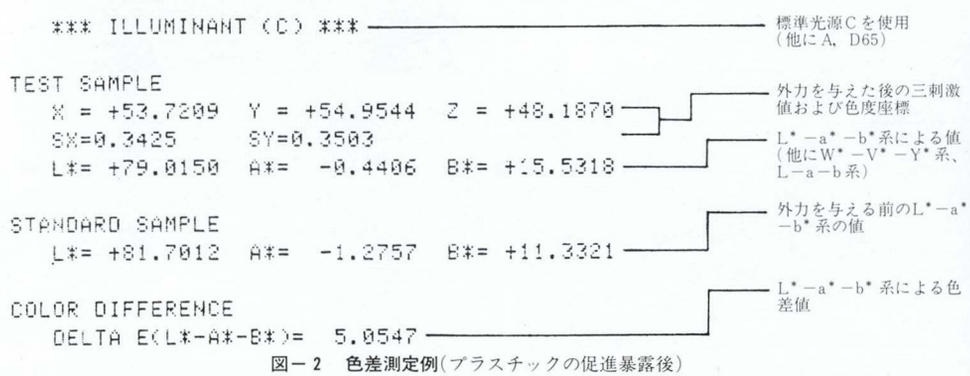
等が可能です。ただし、積分球を使用して固体の測定を行なう場合は、試料の最大寸法が縦70㎜×横50㎜×厚さ5㎜となります。プラスチックの促進暴路前後の色差測定例を**図－2**に示します。

参考規格：JIS K 7105「プラスチックの光学的特性試験方法」
JIS Z 8730「色差表示方法」他

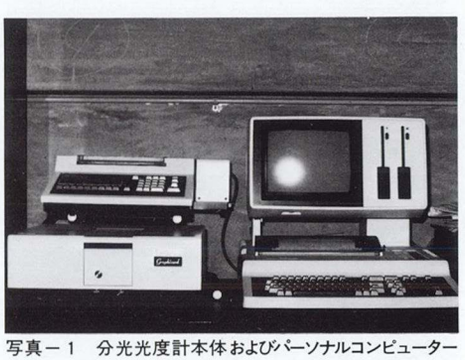
（材料試験室　河津龍大）



図－1　溶液（チタン）濃度測定例



図－2　色差測定例(プラスチックの促進暴露後)



写真－1　分光光度計本体およびパーソナルコンピューター

法令コーナー

編集委員会法令分科会

216

建築確認対象法令の基準および範囲

—建築確認事務の迅速化のために—

建築行政の適切な運用、とりわけ建築確認事務の迅速化については、昨年7月22日の臨時行政改革推進審議会の『行政改革の推進方策に関する答申』で建築確認手続きの迅速化として指摘されていた。この答申を受けて、同年9月24日、政府は『当面の行政改革の具体化方策について』閣議決定を行い、その中で『建築確認審査については法定期間を遵守するため、書類不備等の不適合通知の活用及び確認時の審査対象法令・事項の明確化など、審査手続の効率化、迅速化の措置を講ずる』こととした。本年3月28日、建設省より、建築確認対象法令について、その基準および範囲が整理され、特定行政庁に通知された。

1．建築確認対象法令の基準

(1) 制度の趣旨および目的が建築基準法の趣旨および目的と異ならないこと。
(2) 具体的な技術的基準であること。
(3) 裁量性の少ないものであること。
(4) 原則として、営業許可、公物管理上の許可等に係るものではないこと。

2．建築確認対象法令の範囲

(1) 消防法第9条およびこれに基づく市町村の条例（火災発生の虞れのある設備の取り締まり）、同法第15条およびこれに基づく危険物の規制に関する政令第39条（映画上映の規制）並びに同法第17条から第17条3まで、これらに基づく同法施行令第6条から第34条の4まで、および市町村の条例（消防用設備等の設置義務および基準）
(2) 屋外広告物法第6条およびこれに基づく都道府県の条例（広告物等の制限）
(3) 港湾法第40条第1項およびこれに基づく地方公共団体の条例（分区内の規制）
(4) 官公庁施設の建設等に関する法律第7条（国の庁舎の構造等）
(5) 高圧ガス取締法第24条およびこれに基づく一般高圧ガス保安規制第73条（家庭用設備の設置等の基準）
(6) ガス事業法第40条の2第2項およびこれに基づく同法施行規則第85条（消費機器の技術基準の適合）
(7) 駐車場法第11条およびこれに基づく同法施行令第6条から第15条まで（路外駐車場の構造および設備の基準）、同法第20条およびこれに基づく地方公共団体の条例（建築物の新築または増築の場合の駐車施設の附置）並びに同法20条の2およびこれに基づく地方公共団体の条例（建築物の用途変更の場合の駐車施設の附置）
(8) 水道法第16条およびこれに基づく同法施行令第4条（給水装置の構造および材質）
(9) 下水道法第10条およびこれに基づく同法施行令第8条（公共下水道排水区域内の排水設備の設置等）並びに同法第30条およびこれに基づく同法施行令第22条（都市下水路に接続する特定排水施設の構造）
(10) 電気事業法第67条第1項およびこれに基づく電気設備に関する技術基準を定める省令（電気工作物の技術基準の適合）
(11) 流通業務市街地の整備に関する法律第5条（流通業務地区内の規制）
(12) 液化石油ガスの保安の確保および取引の適正化に関する法律第36条第1項およびこれに基づく同法施行規則第38条（消費設備の技術基準の適合）
(13) 都市計画法第29条（開発行為の許可）、同法第37条（建築制限等）、同法第41条（建築物の敷地面積に対する建築面積の割合等）、同法第42条（開発許可を受けた土地における建築等の制限）、同法第43条（開発許可を受けた土地以外の土地における建築等の制限）、同法第53条（都市計画施設等の区域内における建築の規制）および同法附則第4項（開発行為の規制等の特例）
(14) 急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律第14条第2項およびこれに基づく同法施行令第3条（急傾斜地崩壊防止工事の施行の基準）
(15) 特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法第5条およびこれに基づく同法施行令第5条および第6条（航空機騒音障害防止地区および航空機騒音障害防止特別地区内における建築の制限等）
(16) 自転車の安全利用の促進および自転車駐車場の整備に関する法律第5条第3項およびこれに基づく地方公共団体の条例（自転車駐車対策の総合的推進）
(17) 浄化槽法第13条（浄化槽の型式の認定）

なお、(13)および(11)に掲げる都市計画法および流通業務市街地に関する法律の規定の適合性の審査に当たっては、以下の取り扱いとする。

① 建築基準法施行規則第1条第7項に定めるとおり、(13)および(11)に掲げる規定に適合することを証する書面を添付することは、建築確認申請の受理要件である。

② 建築主事は、施行規則第1条第7項に規定されているかどうか、または、当該書面の添付が不要とされている場合にあっては、都市計画等担当部局の判断が真に存在するかどうかを審査するにとどまり、当該書面等に示された都市計画等担当部局の判断の適法不適法まで審査するものではない。

③ なお、昨今、施行規則第1条第7項第3号に規定する特定行政庁の規則を制定しないまま、同項に規定する書面を不要とする取り扱いを行い、法的紛争等を招いている例も見受けられるが、同項に規定する書面を不要とする取り扱いを行う場合には、確認申請書には施行規則等1条第7項に規定する書面は添えることを要しない旨の特定行政庁の規則を制定すること。

3．建築確認の審査および検査

建築確認に当たって、建築主事は確認申請書に明示された建築確認対象法令、事項について、直接確認するか、または他部局への合議のいずれかの方法で審査を行い、工事完了時の検査は、目視等により判定できる範囲で行う。

4．対象法令以外の関係法令の取り扱い

今回、対象法令とならなかった関係法令の取り扱いについては、建築主事は必要に応じ、関係部局との連絡調整を図るとともに、確認申請者に対して他法令の許可を受ける必要性等について指導を行い、建築確認事務の迅速化を図る。

（大阪府建築部建築指導課　押川兼宏）

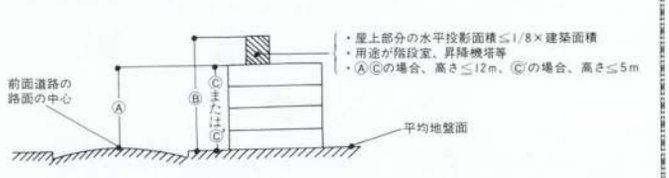
用語解説

間違いやすい用語（その2）

建築物の高さ

一口に「建築物の高さ」といっても、その測定する長さは、条文により若干異なっている。一覧表にすると、つぎのとおりである。

「建築物の高さ」の内容	条　文	測定する長さ
避雷針設備設置が義務づけられる高さ	33条	Ⓑ
第1種住居専用地域内の高さの限度	55条1項、2項	Ⓒ′
道路斜線制限に関する高さ	56条1項1号	Ⓐ
隣地斜線制限に関する高さ	56条1項2号	Ⓒ
北側斜線制限に関する高さ	56条1項3号	Ⓑ
日影規制区域外から規制を受けることとなる高さ	56条の2　4項	Ⓒ′
日影規制対象区域内の高さ	別表第3(3)の2,3	Ⓒ′
高度地区内の高さ（北側の隣地等との関係の限度の場合に限る）	58条	Ⓑ
その他の場合の高さ	—	Ⓒ



住宅性能の維持・保全

吉山耕成

住宅性能の維持・保全の概念には、住宅をはじめ団地内の道路、公園等の共用部分や、集会所、運動施設の共同施設まで含まれており、つぎのように区分されています。

① 団地内の住宅、施設等の日常、定期的な保守点検
② 住宅等の老朽化に伴う経常修繕、計画修繕
③ 居住者退去後の資産保全のための空家修繕
④ 住宅等の機能更新のための改良
⑤ 自転車置場や遊び場の整備を行う団地の環境整備
⑥ 火災やガス爆発等の事故が発生した場合の復旧工事と台風、その他の自然災害の防止、復旧工事

今回は、特殊ケースの⑥を除く住宅性能の維持・保全業務について、その具体的な内容を紹介いたします。

1．保守点検

住宅、設備、附帯施設や公園等について、常にその状態を把握するために、

㋑ 管理主任等による団地の巡回点検
㋺ 巡回点検班による巡回点検
㋩ 昇降機の保守管理

等を行っています。これの中心をなすものが、㋺で挙げた巡回点検です。

この制度は、あらかじめ定められている点検の標準周期により、年間を通して継続的に公団の関連会社である㈱団地サービスに委託して行っています。

体制は、建築、土木・造園、機械、電気、消防設備等の業務区分別に、それぞれの業務担当者が、巡回班を構成の上、巡回点検車を使用して点検を行っています。巡回点検班は、建築基準法または消防法に定められている点検方法のほかに、点検対象について外観観察、打診、測定等によって点検を行っています。

これらの点検調査結果は、つぎにご紹介します経常修繕、計画修繕の基礎資料となっています。

関西支社管内では、現在約50人の人員および約20台の車を使用して保守点検業務に当たっています。

2．経常修繕、計画修繕

経常修繕は、日常の巡回点検等の報告に基づき実施するもので、比較的小規模な工事のものをいいます。たとえば、小規模な雨漏れの補修、外壁モルタルの亀裂、浮きの補修や遊び場ブランコの部分的な修繕があります。

計画修繕は、予め定められている修繕周期を標準として実施するもので、工事は比較的大規模なものになります。修繕周期は、対象部位によりさまざまで、2年～25年の周期が設定されており、また同じ部位であっても団地の立地等によって変わることもあります。たとえば海岸地区や工場地区とその他の地域とでは、鉄部の劣化状態は異なりますので、劣化の状態を十分調査した上で修繕を実施しております。

修繕部位は、全部で約30項目にも達していますが、そのうち主要なものは、建築では屋根防水層、外壁、ＰＣ目地、ＯＰ塗り鉄部、設備では給水管、雑排水管、照明器具、テレビ受信設備、土木・造園では道路、通路、遊戯施設、汚水管があります。

その中でも外壁の修繕面積は膨大な量で、たとえば香里団地（昭和33年～昭和42年管理開始 4,881戸）の外壁面積は約280,000㎡、東豊中第2団地（昭和41年管理開始1,403戸）の外壁面積は約88,000㎡です。甲子園球場のグランド面積が14,700㎡ですから、香里団地では甲子園球場の19倍、東豊中第2団地では同じく甲子園球場の6倍分の修繕を行う勘定になります。

関西支社は、最近の実績として年間約 8,000戸の外壁修繕を行っています。

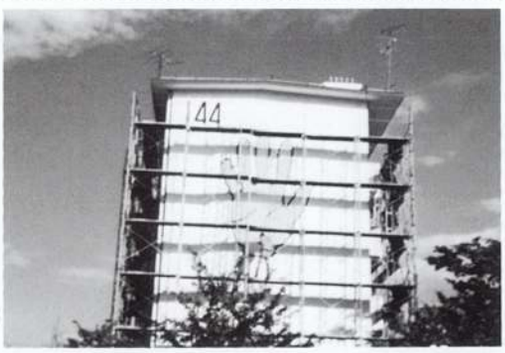


写真-1
外壁修繕工事中の東豊中第2団地



写真-2
外壁修繕が完了した東豊中第2団地

住宅・都市整備公団協力業者（ＰＲ）

総合建設業・不動産事業
株式会社 鴻 池 組
取締役社長 鴻 池 一 季
本社・大阪本店 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地 電話06-244-3500

限りない未来への挑戦
大 日 本 土 木
取締役社長 田 口 栄
本 店 岐阜市宇佐南1丁目6番8号 電話0582-72-3141
東京本社 東京都新宿区市ヶ谷田町2の35 電話 03-268-5511
大阪支店 大阪市北区堂島2丁目2番2号 近鉄堂島ビル 電話 06-341-5931

つぎに大量の修繕を行う部位は、鉄部のＯＰ塗りです。修繕周期は３～６年を標準として設定されており、年間約70,000戸の修繕を行っています。

外壁の修繕費と鉄部ＯＰ塗り修繕費を合わせると計画修繕費の４割強を占めております。

外壁の修繕が完了すると、団地がリフレッシュされ、見違えるように美しくなり、居住者の方々には歓迎されています。（**写真－１、２**参照）

３．空家修繕

この空家修繕の概念には、賃貸住宅の居住者が転出した住宅に、汚れ、破損した個所があって、後から入居される方の居住に支障があるときや、公団として資産保全上必要と認められるときに行う原状回復のための修繕と、居住水準の向上に伴い住宅の質的向上を図るための改良があります。

管理戸数の増加に伴い逐年増加の傾向にありますが、その時々の社会、経済状勢が微妙に関わり、変化が表れています。また発生時期は、転勤とか学校の休暇時期である７、８月および年度末に集中しています。

空家の修繕の費用負担は、公団の負担によるものと居住者の負担によるものとに区分することができます。

公団の負担によるものは、居住者の退去時において後から入居される方の居住に支障を起こさないようにするための自然損耗等について実施する修繕と、これと合わせてホーロー浴槽の設置、壁面のクロス張り、浴室壁面のタイル張り等を行う改良があります。改良の程度は、家賃の改定と連動しており、一律ではありません。

居住者の負担によるものは、賃貸借契約書で定めているものとしては、畳、ふすま、浴槽等の修繕義務と、壁の落書き、床のタバコによるこげ跡等居住者の故意または過失による原状回復義務があります。

空家修繕費は、空家住戸の増加および改良工事の増加に伴い上昇し、近年では計画修繕費と同規模の予算が必要となっています。

４．改良

住宅には、居住水準の向上に伴い初期の性能以上に向上させたり、新しい機能を付加させたりすることが必要となります。

改良は、修繕の領域を超える著しい性能の向上や、耐用年数の延長をはかる工事をいいます。具体的には、結露の防止、テレビ受信設備の改良、ＵＨＦ受信設備の改良、さらに大規模かつ家賃の改定を伴うものとして、テラス住宅の増築（昭和52年～昭和56年まで実施したが以降は中止）、賃貸倉庫の新設、２戸１改造、模様替え、施設の増・改築・建て替えがあります。

２戸１改造は、遠隔地のため応募率の低い団地で実施していますが、２ＤＫ２戸を１戸に改造した場合80～90m²の大型住宅となるため、遠隔地であるにもかかわらず好評を得ています。（２戸１改造については、すまいづくり講座12<本誌昭和60年４月号>を参照）模様替えは、２ＤＫの住宅を１ＬＤＫとするケースがあります。住様式の洋風化に対応した改良として、ヤング層から好評を得ています。

５．団地環境整備

公団住宅において、住環境とりわけ公園や緑および子供の遊び場の整備水準は、一般に供給されている住宅を大きく引きはなして評価されています。公団では、さらに住み良い街づくりを目標に住環境の整備を進めていますが、それはつぎのような基準のもとに行っています。

㈠　団地間の不均衡の是正……植栽、園地施設、遊戯施設など、団地建設年次により整備水準に顕著な較差のみられる施設の新設および増設

㈡　居住者のニーズへの対応……自転車置場、運動施設など、多くの団地から居住者等の要望として共通的にあがってくる施設の新設および増設

㈢　居住性の向上……道路、通路、歩道の拡幅あるいは新設や増設、駐車場の増設など屋外の居住性、安全性の確保に必要な施設の整備

この団地環境整備は、従来若干計画性に欠けて実施していたので、昭和54年度から計画性、総合性をもたせるために「総合的団地環境整備」と名づけて再スタートしました。

実施方法は、

①　対象団地の整備水準の把握……駐車場、自転車置場、広場、プレイロット等の現状の水準を調査の上把握

②　整備水準の調査を基礎とした環境整備の中・長期計画の立案

③　対象団地の当面の整備目標の設定および整備計画図の作成

④　団地居住者へ整備計画の提示

となっています。

この総合的団地環境整備の関西支社における具体例としては、京都市の観月橋団地（昭和37年管理開始 540戸）があり、昭和58年度から駐車場の増設、自転車置場の増設、遊び場の整備、歩道の整備、植栽を行いました。この団地は先に紹介しました計画修繕による外壁修繕も完了しており、団地の環境整備工事が完了して、みた目にも美しく、団地環境上も一段とすばらしい団地に生まれ変わっております。（**写真－３**参照）



写真-3　総合整備の完了した観月橋団地

信用と技術の総合建設業
鉄建建設株式会社大阪支店
常務取締役支店長　谷内与一
〒541 大阪市東区瓦町4丁目56番地 瓦町K・Tビル　電話06－201－1881

総合建設業
株式会社　水間組
取締役社長　水間義雄
大阪市都島区東野田町１－１－４　電話06－352－3121(代)



けんちくの眼

東　孝光
大阪大学工学部教授

山田耕蔵
大阪府建築部建築指導課長

高田昇
COM計画研究所代表

井上司郎
松村組取締役副社長

正月号から6月号まで上記の4氏が担当

身の廻りからのみどりと水辺

久し振りに大阪の古い街なかを歩いてみた。私が設計のなかで追い求めている、内部を連結するスリット空間のルーツが、少年時代に過ごした大阪の町家の路地空間のなかにあった、と気付いたからだ。そして——あった、あった！　谷町から上本町にかけての古い町家地区のなかに、人間的なスケールの路地空間が今でも立派に息づいていた。また、阿倍野や住吉あたりの戦前からの借家街もまだ辛うじて残っていて、小径や近隣に開きかつ閉じる都市住宅の大切な手法を教えてくれている。

そこで気付いたことの一つは、狭いスペースを利用して人々がみどりをいつくしみ、小さな鉢植えや樹木を身の廻りに育てていることだ。個人の庭が乏しいことが、却ってみどりを共用の路地空間に出し、近隣と共に楽しんでいる、その姿が示唆的だ。みどりや水辺の重要性が再認識されるようになってきたが、大切なことは、みどりや水辺がそれ自体で心をなごませてくれるだけでなく、それが自然に都市空間をつなぎ、人々に共に安らぐという出会いと連帯の機会を与えてくれることではなかろうか。個から出て、個に支えられたみどりや水辺が、自然な形で都市空間のなかに拡がっていく、そのための現代的な方策を探っていきたいと希う。

（T・A）

まちづくりと電柱

先日の新聞に日本の国際収支の黒字分をもって、電線の地中化を計るべきだとの意見が出された、このことは国民の考へが都市の街路に無数に張りめぐらされた電線と電柱をなんとかしなければと思いだしたことにほかならない、建築主達は今まで電気の供給に対してはさして気を使うことも費用を使うこともなかった。水道は仲々引けない所でも電気は架線を延長する形ですぐに供給されて来たからである。しかしこれが街の景観と道の実用幅員を大きく低下させている要因である。

1875年(明治８年)パリの北駅で世界初のアーク灯が輝いた時架線が使われたが、その２年後にはすでに配電線は地下溝に埋められたとある。その１年後エジソンの白熱ランプが生まれた時、エジソンは同時に地下ケーブルを開発し送電線の地中化を説いている。これは1882年(明治15年)ロンドンの街で採用された。パリは市内において架線方式を一切認めぬ法律を、1898年(明治31年)に作っている。そのために費用がかかることを承知でまちの景観を優先させたとある。日本においては京都で明治28年に市電が走ったそうだが、その折に架線による景観喪失までは論ぜられていなかったらしい、現在日本の都市で架線のない場所はごく一部しかない、埋設には高い費用を伴うからであるし、それ故に共同溝作りはほとんど進んでいない。日本でもパリのように必要と思われる場所には架線を認めぬ法律が作れないものか。

（K・Y）

町並み再生型の建築活動

都市の個性化とか、ユニークタウンづくり、デザインの地域性、といったことが話題にはずいぶんのぼるようになったが、私たちの目に映る町並みは、一層画一化への道をつっ走るばかりのように見受けられる。そんな思いを強くしていたところ、大阪・平野町に再会した。もう二十数年ぶりだろうか、でも平野らしい表情やにおいがいたるところに残っており、ほっとさせられた。平野は環濠都市であり、自由都市であった歴史を今も引きつぎ、十三口と呼ばれるかつての町の入口には、今も地蔵堂がちゃんと建っている。町の周囲をめぐらした濠の跡が残り、町家や社寺が街角の景観にアクセントをつけている。夏祭りのだんじりも健在だ。そんな平野に新しいまちづくりの息吹きが数年前から強まっている。平野の歴史を生かし、平野らしさを失わない町への模索だ。そのきっかけは廃線になったチンチン電車の大正駅舎の保存運動であり、低層の町家群の中で突然計画されたマンション建設に対する景観協約運動であった。そのような出来事が、そこに住む人たちの関心をまちづくりに向けさせたのだろう。住む人の思いをしっかりと受け止めた、町並み再生型の新しい建築活動に挑戦する技術者の役割が問われている。

（S・T）

ホテル・ビル火災に思う

ホテル・ビル・旅館・住宅・山林など、じつによく火災が発生する。最近の火災の特徴は火災警報装置が作動しない、火のまわりが早い、新建材の煙・ガスが多量に発生し、大勢の人が一度に死亡するケースが多い。大きい犠牲の出る度に消防法規が論ぜられ、規制がきびしくなってゆく。

煙草や調理のちょっとした煙でも警報装置は敏感に作動するのに電源のスイッチの切られていることが多い。酔客や誤操作によるけたたましいベルの音に眼をさまし、肝を冷した後で間違いと分ると腹がたつ。たびたび誤操作がおこると客がホテルを信用しなくなるので、ホテル側も「自己規制」する。利用する側も寛容さが必要である。又新建材・内装材についても、有毒ガスや煙の発生しない不燃性の建材の開発にもつと力を注ぐべきではないのか。更にこれらの火災発生に輪をかけているのが「物を大切にしない風潮」である。使い捨ての思想が後片付けや整理整頓をなおざりにし、煙草のポイ捨てが火の不始末につながる。緑を大切にしようと言いながら毎年、広面積の山林を灰にし、ビル・住宅が火災で人命とともに失われてゆく。いくら消防法規を厳しくし、設備を完備しても建物を使う人の心掛け次第で生かされもするし、滅びてもゆく。建築はあくまでも人のためのものである。

（S・I）

特集

自治体営繕と公共建築



大阪府庁舎周辺整備基本構想完成予想図

かつて、公官庁営繕は自ずからの手を動かすことによって公共建築を創り出していくことが多かった。その過程の中で建築界の要として技術・文化上の指導的役割りを果してきた。その主旨を今日、受け継ぎながらも現在では内容や性格を次第に変えてきているのが実状である。要因は公共建築のもつ意味やあり方が異なってきたことにもあろう。また民間の技術力の充実も見逃せない。さらには行政組織の内容も従来とは比べようもなく大きく拡がっていることも否めない。こうした動向の中で、官公庁営繕の将来や公共建築のあり方が一般では注目されているにもかかわらず、営繕内部の実態や内容は案外と知られていないのが実際ではなかろうか。

本号では「自治体営繕と公共建築」と題して、今後の自治体営繕の行方に注目し、その役割、歴史、実態、問題点、動向など多角度から取り上げ、合わせて公共建築のあり方について論考してみた。

長い「建築と社会」の歴史の中でも自治体営繕を特集としてとり上げるのは初めてといってもよいだろう。いささか内容は広範囲にわたり、的をしぼり切れなかったきらいもあるが、この特集が今後の自治体営繕並びに公共建築のあり方を考える上での一参考資料となれば幸甚である。　（加藤　力）

作　品

兵庫県公館
上郡町庁舎
ファインプラザ大阪大阪府立障害者交流センター
三木市文化会館
大正区コミニュティセンター
芦屋市立上宮川文化センター
なにわ会館公立学校共済組合大阪宿泊所
アゼリアハウス・吹田市営千里山住宅

座談会

自治体営繕と公共建築の将来像

見学レポート

内なる空間の時

自治体作品ユニーク事例

1.保存と修景「兵庫県公館」
2.自主設計の手法「サンパレスひらかた」
3.地域の話題づくり「神戸市立農業公園」
4.滋賀方式―コンペ「滋賀県立近代美術館」
5.市民参加方式「八尾市文化会館」
6.再開発への試み「あべのベルタ」
7.民間活動の導入「埼玉県産業文化センター」

公共建築作品年表

自治体営繕の動向アンケート

ニュース

1.うだつの町並みと脇町立図書館
2.アゼリアハウス吹田市営千里山住宅
3.アカミズハウス坊津町松ヶ迫公営住宅
4.筑波研究学園都市の公共建築
5.「営繕部利用の手引」

本号特集編集幹事　加藤　力／溝口寿孝／吉羽逸郎／北条　誠／本多友常／西川純一／中井　進／広田和正／北村　潤／水川尚彦

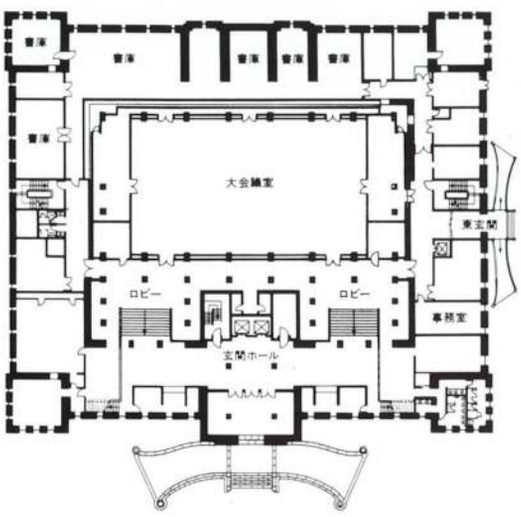
兵庫県公館

設計監理　兵庫県都市住宅部営繕課

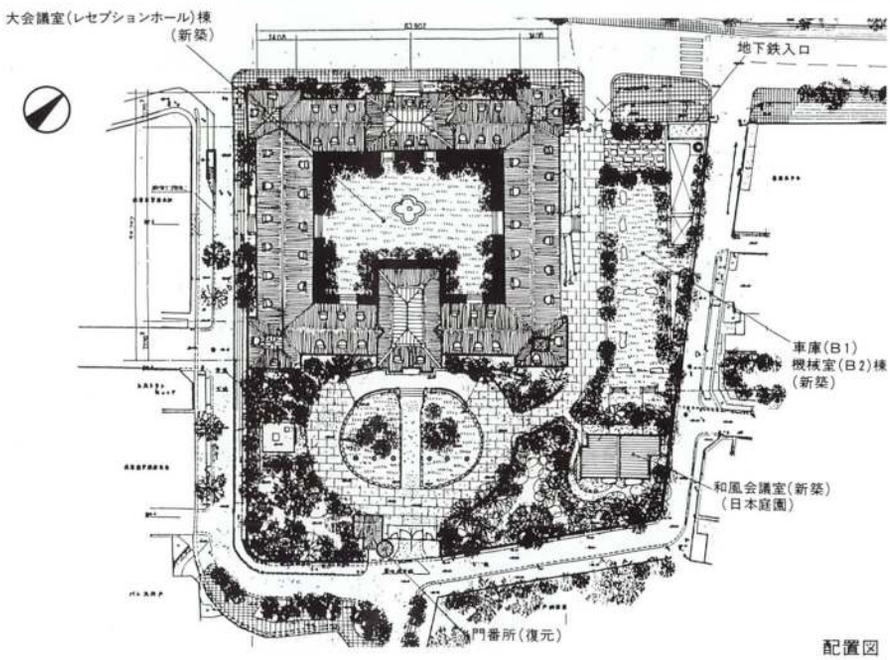
施　　工　竹中工務店・熊田工務店特別共同企業体



全景



1階平面図　1：1000



配置図

撮影　島　修一

所 在 地　神戸市中央区下山手通４丁目４番１号
敷地面積　８,８４４㎡
建築面積　４,６７１.８８㎡門番所/和風会議室棟を含む
延床面積　９,６５１.４２㎡
構造規模　ＲＣ、Ｂ２、３Ｆ
工　　期　昭和58年６月～昭和60年４月
最 寄 駅　国鉄東海道本線、阪神電鉄/元町駅

当建物（旧南庁舎）は建築家山口半六が兵庫県庁舎として設計し、明治35年に竣工した近世フランスルネッサンス様式の代表的作品であり、県政のモニュメントとして、県民から親しまれてきたものである。

この度、県の迎賓館、県政資料館の機能をもつ兵庫県公館として保存再生した。

１階及び３階を迎賓館部門、２階を県政資料館部門とし、各部門のアプローチを分離した。

外観は現状保存し、煉瓦壁を鉄筋コンクリートで補強、窓桟の形状、唐草模様、外周柵の門番所、等を建設当時に復元、南側中央の屋根を曲面マンサード状の屋根に復元した。

内部室内意匠については、外観と出来るだけ調和した雰囲気を目指し、建設当時の正庁、知事室、議場の写真や、現存する京都府庁舎（明治37年）等を参考にした。

腰壁は木製羽目板貼、壁はプラスターまたは布貼、天井は岩綿吸音板または布貼等とし、扉、階段手摺等についても明治に近づけ、家具調度、照明器具等を含めて全体に調和のとれたクラシック調とした。

基調となる色はうす紫と白とし、木と石の素材色を配し格調高い上品な感じを目指している。

外部環境については、都市の中のささやかな憩の場として雑木の森をつくり、周辺の県民オアシスやプロムナードの環境と一体となって、全県全土公園化構想のひとつのモデル、あるいは市街地における拠点となるよう計画した。

（兵庫県都市住宅部営繕課）


南東外観


特別室


１階ロビー

上郡町庁舎

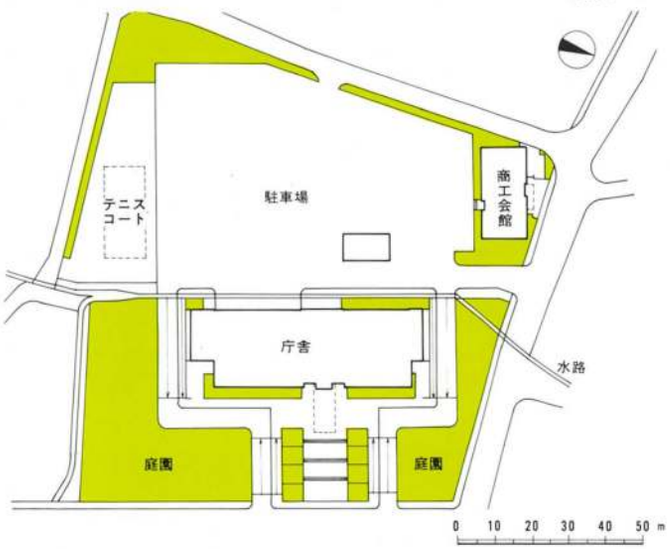
設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　熊谷組



町民ホール



2階事務室



撮影　島　修一

電　　気　近畿電気工事・六興電気JV
給排水衛生　三機工業・大阪電気暖房・水交社JV

所 在 地　兵庫県赤穂郡上郡町大持
敷地面積　15,247.94㎡
建築面積　1,516.94㎡
延床面積　5,145.38㎡
構造規模　RC、一部SRC、4Ｆ
工　　期　昭和60年3月～昭和61年5月
最 寄 駅　国鉄山陽本線上郡駅

仕上
外装　外　壁　磁器タイル
　　サッシ　アルミＡＰ焼付
内装　事務室　床　塩ビタイル(450□)
　　壁　ペイント仕上
　　天井　岩綿吸音板
　　特別室　床　ウールカーペット
　　壁　練付化粧合板
　　天井　岩綿吸音板

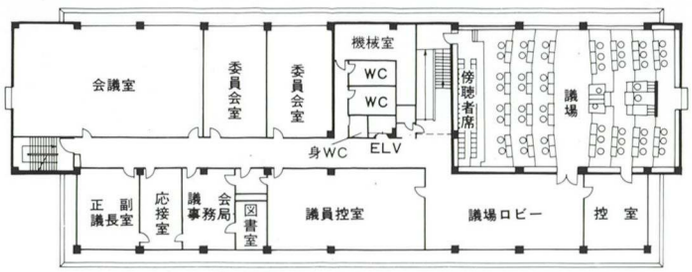
人々の生活を料理にたとえれば、建築は料理を盛る器ということになる。よい料理にはそれに相応しい器が用いられるべきであり、器もその持味を生かして使われてこそ美しい。
料理と器は、このように一体の関係にあるものだが、さかのぼれば「初めに料理ありき」であり、そこに盛られる中味が何であるか分らないことには、目的に合った器は作れない。時には、豊かな実績に基づいたおまかせ定食を、上等な器で提供されることもあるようだが、やはりその地・その時の素材を生かしたメニュー作りをすることが、よい器作りにつながる。
庁舎の計画に際してのメニュー作りは、多様化・高度化する行政需要に対処し、そのまちの地域性・歴史性をも加味した、住民サービスのための機構作りをすることである。そうして、それらが十分に機能を発揮できる内容をもった施設の計画と、周辺環境の整備を行うことが、器作りということになる。
鮎の千種川で知られる上郡町の場合、呈示されたメニューは変化に富んだもので、たとえばバイキングであった。
そこで我々は、丈夫で、おおらかで、多用性のある大皿を提案することにした。4枚重ねのこの大皿は、1,200M²/Fというもっとも使い易い大きさと、中廊下タイプの癖のない形をもっている。また、その色合などについても、飽のこない、親しみのもてるものが採用された。
配置については、意見の別れるところであったが、正面性を大切にし、現在の場所にセットされた。
ステーキを和食器で食べる今日、この庁舎が皆のアイデアで、うまく使い・住みこなされることを期待している。

（安井建築設計事務所／八木俊樹）



北東外観


議場



4階平面図



2階平面図

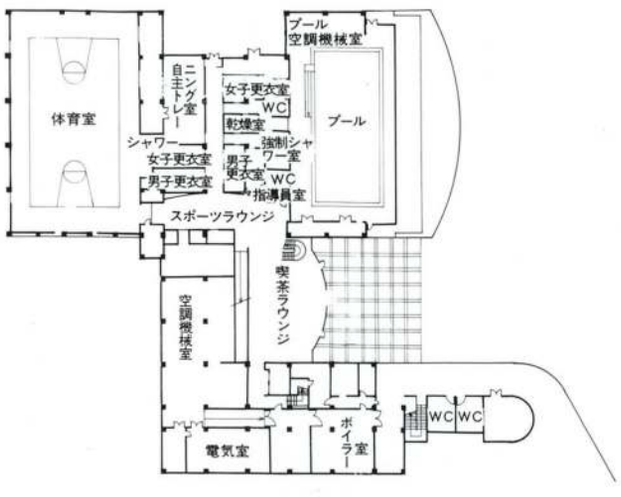
ファインプラザ大阪　大阪府立障害者交流促進センター

設計監理　大阪府建築部営繕室　大阪府建設監理協会　日本設計事務所

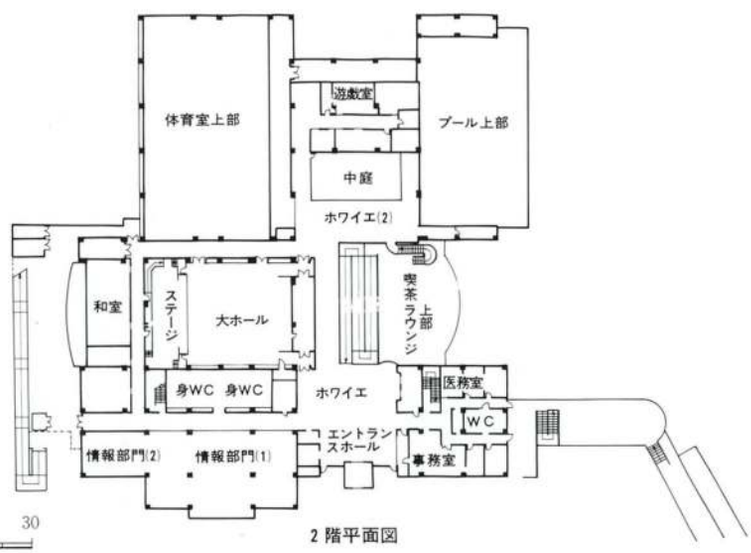
施　　工　飛島建設・森本組建設共同企業体



北よりみる



1 階平面図



2 階平面図

0　10　20　30

撮影　朝日写真公社

電気　四国電気工事　関電興業
空調　不二熱学工業　大成温調工業
衛生　カンダン

所在地　大阪府堺市城山台５丁１番２号
敷地面積　36,192㎡
建築面積　5,700㎡
延床面積　8,344㎡
構造規模　ＳＲＣ、３Ｆ
工　期　昭和59年10月～昭和61年２月
最寄駅　泉北高速鉄道光明池駅

仕上げ
外部仕上　屋　根　耐候性鋼板瓦棒葺
　　外　壁　磁器質２丁掛タイル貼
　　サッシ　アルミ製電解着色
　　スチール、フッ素焼付
　　外　構　コンクリート洗い出し平板
内部仕上（一般）　床　ＰＶＣシート貼
　　壁　ＥＰ塗
　　天井　岩綿吸音板

このセンターは昭和56年の国際障害者年を契機に、障害者の社会参加を促進し、広く人々との交流を図るふれあいの場として、泉北ニュータウン光明池地区において整備を進める障害者福祉エリアの中心施設として建設したものである。

閑静で緑に囲まれた環境の中にある本敷地に、障害者の文化・スポース・レクリェーション活動などに必要な施設を機能的に配置している。建物は１階を屋外のスポーツ施設との関連をもたせたスポーツ系のフロア、２階を情報部門や相談部門といった本施設の特徴のある部門を配置したフロア、３階を会議・研修のフロアとし、階毎に特徴をもたせ、安全でわかり易い空間構成としている。エントランスホールは敷地の高低差を利用して２階に設け、１階にある喫茶ラウンジと吹き抜けで空間的につなげることにより、１階を含めた施設の構成をわかりやすいものとし、吹き抜け部分にはスポーツ大会開催時などの車いすの利用者の集中を考えて、スロープを設けている。

外観は障害者の方々の活動の拠点として「大きな館」をイメージした屋根を架け、周辺環境との調和を図りながら全体として端正で暖かみが感じられるようにしている。障害者福祉エリア内には、このセンターの他に、国立身体障害者職業訓練校並びに堺市立心身障害児通園施設を整備する予定であるが、これらの施設の整備が早期に行なわれ、本エリアが福祉ネットワークの一つの核として機能することを心から願っている。

（大阪府建築部営繕室）

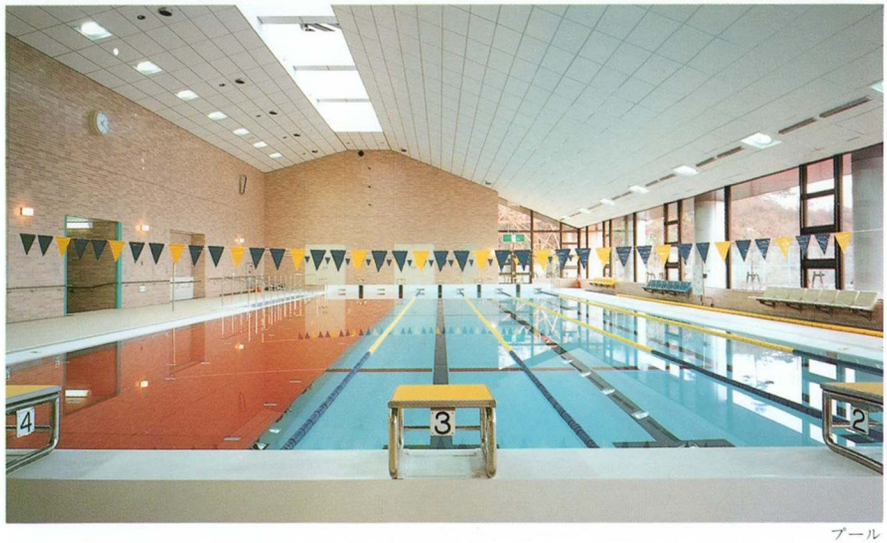

喫茶ラウンジ

主な協力業者

タイル	藤本タイル	東大阪市高井田本通４－１－２	TEL 06-783-1151
造作	築柴木材工業	京都市中京区西ノ京小倉町10	TEL 075-811-6171
製作金物	三興金属	大阪市阿倍野区阪南町４－13－１	TEL 06-624-1201
鋼製建具	エコー産業	大阪市北区茶屋町18－21	TEL 06-375-1701
アルミ建具	日本軽金属	吹田市江坂町１－17－14	TEL 06-330-7571
鋼製屋根	ヤマキ工業	大阪市淀川区西三国１－８－14	TEL 06-394-1416


航空写真


中庭（夜景）



プール

三木市文化会館

設計監理　三木市建設部建築課　東畑建築事務所

施　　工　清水建設・高階組・門建設共同企業体



コンサート中の大ホール

仕上

外部　屋根　天然スレート葺

　　壁　コンクリート打放し　弾性吹付タイル

　　一部花崗石バーナー仕上

内部　大ホール　床　カーペット

　　壁　焼器質タイル

　　天井　FRGボードの上クロスAeP

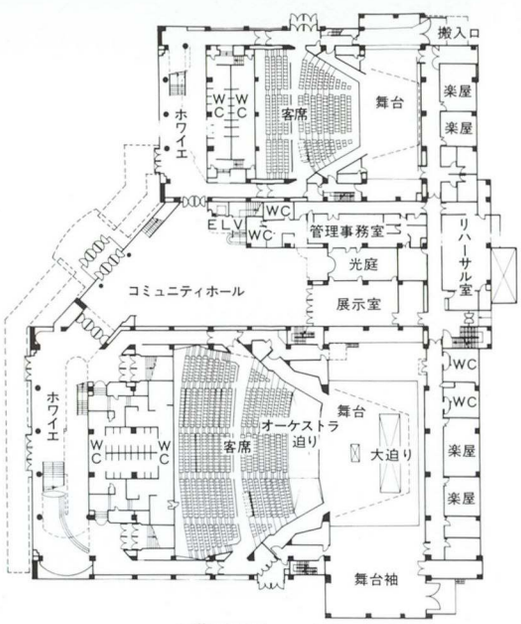
　　小ホール　床　カーペット

　　壁　天然木化粧合板

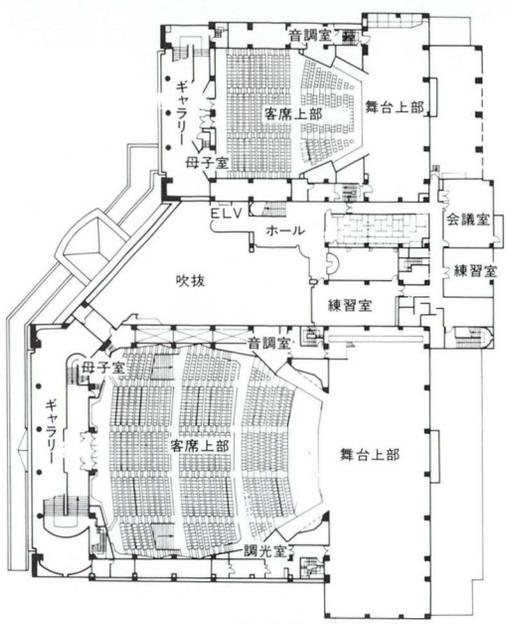
　　天井　硅カル板クロスAeP



配置図　1：1500



1階平面図



2階平面図

撮影　島　修一

空　　調　新菱冷熱工業
電　　気　日本電設工業・三木電気商会ＪＶ
舞台照明　龍電社
舞台機構　三精輸送機
舞台音響　松下電器産業兵庫特機営業所

所 在 地　兵庫県三木市福井字高野1937
敷地面積　13,321㎡
建築面積　5,321㎡
延床面積　8,198㎡
構造規模　ＲＣ、舞台部ＳＲＣ、屋根Ｓ、Ｂ１、３Ｆ
工　　期　昭和59年６月～昭和61年３月
最 寄 駅　神戸電鉄三木駅
客 席 数　大ホール 1,302席　小ホール 539席

敷地は、従来の三木市街と新しい住宅地として、発展を続けている志染、緑ヶ丘地区とのちょうど中間の小高い丘陵地に位置し、建物はコミュニティ施設を中央に、大小ホールを配し市民広場をエントランス部に設け、４つの中心機能を明快に組合わせた、機能性の高い一体使用と、独立使用に対応できるようゾーニングされている。


大ホールホワイエ

外部に直接面した大小ホールホワイエは、旧市街を望み、内外空間を一体化させ市民と文化の融合を生み出す、かなめとなるよう、またコミュニティホールは、展示室と中庭に面し、必要に応じ、ロビーの延長空間ともなり、各種イベントスペースの多種使用によって、空間を創造的に、また有効に使用できるフレキシブルなゾーンとして構成されている。

大小ホールは客席の均質性を高めるワンスロープ形式を採用し、大ホールに対しては、多目的用途に対応できうるよう残響可変装置を天井面と壁面に設置、天井面に対してはシーリングブースを上下手間に直接音に対し反射、吸音すべく昇降式パネルを、また壁面に対しては、拡散音を吸音させ、ホールインテリアをも可変できるよう、電動昇降式タペストリーを、設置している。

残響可変値としては空席時1.4～2.0秒の目標値の0.6秒が得られている。かなものの町三木市の文化交流の場、また市民が集う憩いの場として、今日もホールより奏でる槌うつひびきが、みなぎの里にこだまする。

（東畑建築事務所／本持一博）


北西よりみる


小ホール


コミュニティホール

大正区コミュニティセンター

設　　計　大阪市都市整備局営繕部　創造社
監　　理　大阪市都市整備局営繕部
施　　工　福井組・真鍋工務店建設共同企業体



南面外観

撮影　黒田青厳

所 在 地　大阪市大正区千島２丁目６番15号
敷地面積　2,661㎡
建築面積　783㎡
延床面積　2,521㎡
構造規模　ＲＣ、４Ｆ
工　　期　昭和60年３月～昭和61年３月
最 寄 駅　大阪環状線大正駅南約２km

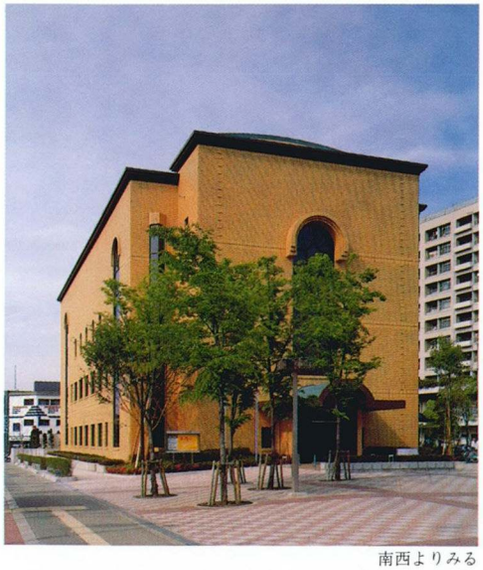
仕上げ
外部　屋根　銅板(ｱ)0.35緑青仕上（瓦棒葺及び一文字葺）
　　外壁　炉器質二丁掛タイル（密着工法）

大正区における土地区画整理事業の収束を迎えるに当り、土地区画整理事業及び区政50周年を記念して建設されたもので、記念ホール・会館・図書館を併設した複合施設である。敷地は大正区の中心地域に位置する千島公園に隣接し、すでに区合同庁舎及び体育館等が建設済の地域にある。こうした絶好な環境と景観を背景に当敷地南側１／３に整備済の噴水広場に面してアプローチを取り、さらに利用者の便を考慮して、区合同庁舎や市バス停留所との動線が短かくなる様建物配置を行った。この建物を区のシンボル的建築物とし、格調高く品位あるものとすべく、長方体の壁面は二丁掛タイル仕上、ヴォールト状の屋根は緑青銅板葺とし、カーテンウォール及びカラーサッシ等の開口部をシンメトリーな形に配置した。

１階に蔵書数18,000冊の図書館と土地区画整理関係の展示室を設け、玄関ホールと一体となって当施設の顔となる様配置した。２階には各種の会合や趣味の集いなど多様な利用に対応できる会議室６と和室１を設けている。また３階には、講演、映画、音楽、おさらい会等多目的に利用できる。約300人収容の客席（移動席）と75㎡の舞台を設け、音響設備及び照明設備を完備している。

この建物及び広場がコミュニティ活動の拠点として、多数に利用される事を切望します。

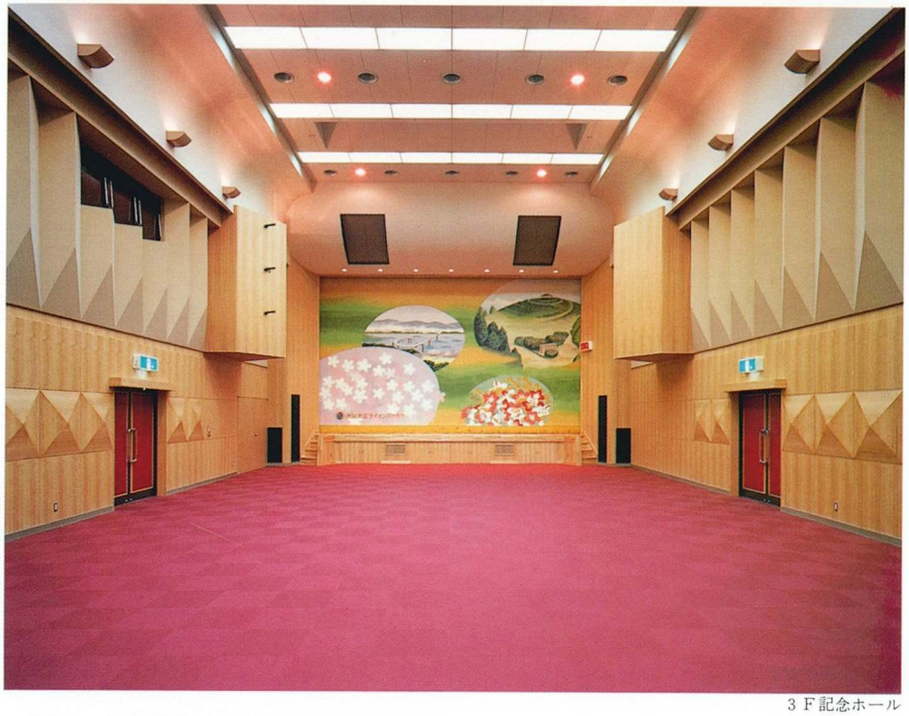
（大阪市都市整備局営繕部）



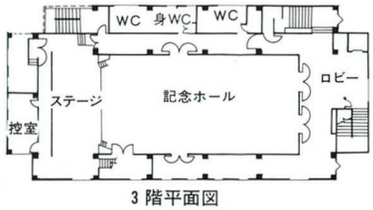
南西よりみる



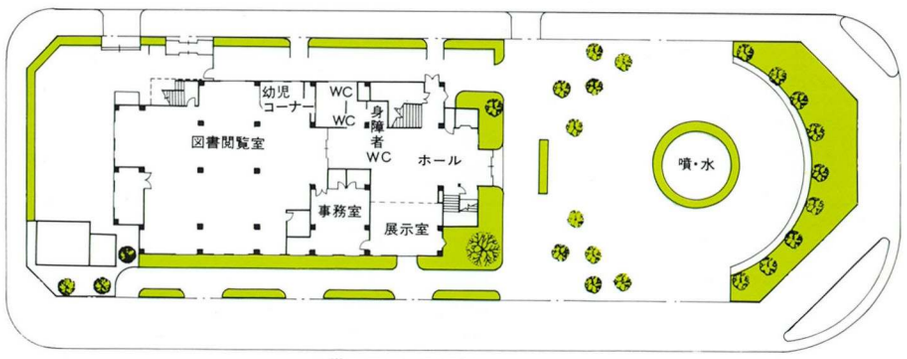
１Ｆホールより図書閲覧室をみる



３Ｆ記念ホール



３階平面図



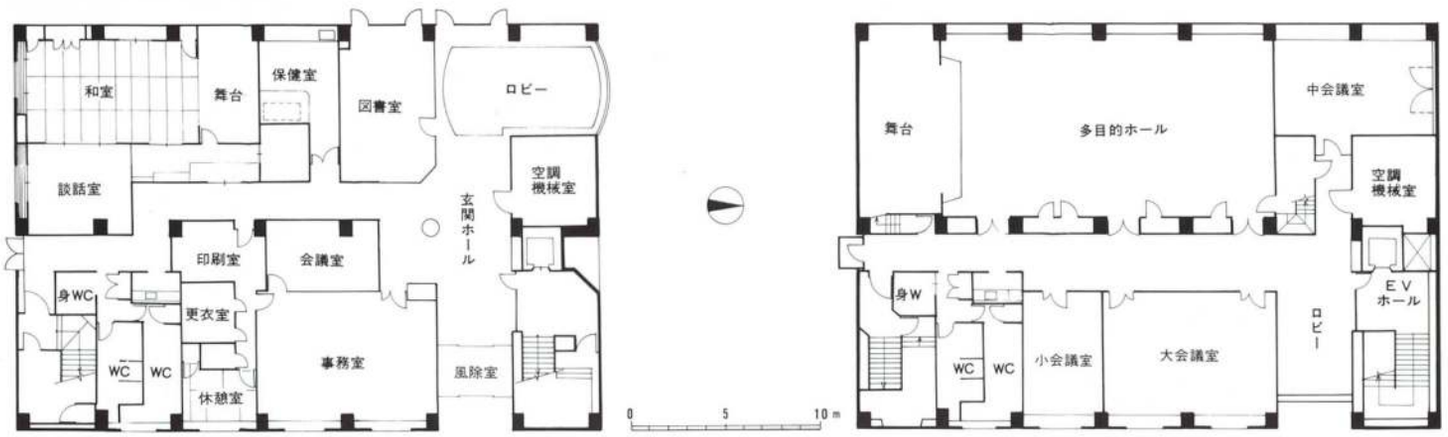
１階平面図・配置図

芦屋市立上宮川文化センター

設　　計　芦屋市建築課　昭和設計
監　　理　芦屋市改善事業課　昭和設計
施　　工　淺沼組・西本建設共同企業体



東面全景



1階平面図　　3階平面図

撮影　河野　豊

屋根工事　元旦ビューティ工業
タイル　INAX
ステンレスサッシ　旭サッシ工業
電気　不二電気
給排水衛生ガス・空調　大日冷機
昇降機　フジテック

仕上　外壁　無釉磁器質タイル貼(41×91)
屋根　着色アルミ板㎜0.8一文字葺
外部建具　SUS430　フタル酸樹脂エナメル塗装

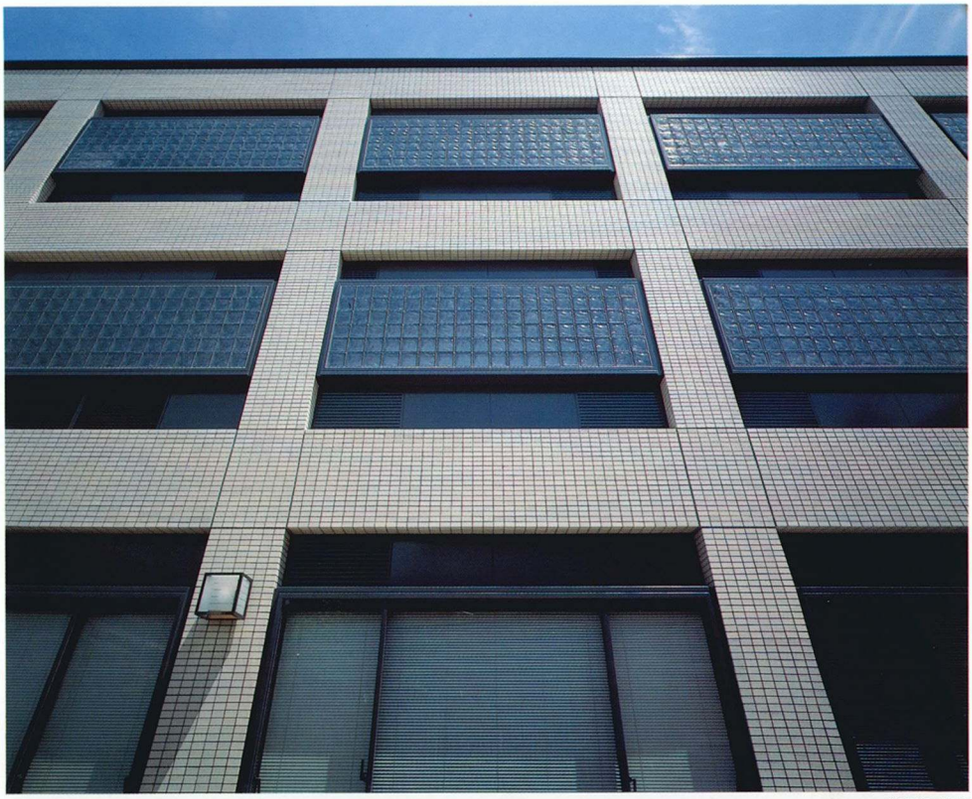
所在地　芦屋市上宮川町10番5号
敷地面積　1,040.00㎡
建築面積　613.88㎡
延床面積　1,947.97㎡
構造規模　RC、一部S、3F、一部4F
工期　昭和60年6月～昭和61年3月
最寄駅　東海道本線芦屋駅

阪神間の閑静な住宅都市。芦屋も近年、国鉄駅周辺を中心に次第にその様相を変貌しつつある。本施設は、駅北側で進む再開発と呼応するかの様に南側地区一帯の住環境整備の一環として従来からこの地にある老人憩いの家・隣保館に児童センターを加え、地域住民さらに市民の交流の場となり、文化活動の拠点となる各種の集会機能をもった複合文化センターとして建設された。

計画当初から、要求される諸機能を満たすためには、市街地の限られた敷地に高さ制限いっぱいとなるボリュームをいかにおさえ、新しく生まれ変わろうとする街と調和し、住民の生活に溶け込んでゆく建物をつくるかが、重要なテーマであった。

外壁は、異和感のない白とグレーのモノトーンでまとめ、軒高を低くおさえるために架けられたヴォールト屋根の曲面が、3階多目的ホールの天井デザインとなり連続するリブの梁間から降り注ぐ柔らかな光の演出を狙った。それぞれに目的の異なる各室の開口は、通常の窓という発想をすて、通風・採光・強制換気、排煙と機能分担された3段構成をとり、室の用途に応じて空調機器、作業台、収納などを集約して装置化されたユニットが柱・梁構成のフレームにはめ込まれる形とした。開口部の彫り込まれた陰影、整合性を保った壁面は、その圧迫感を幾分とも柔らげ、住民に親しいものになり得たと思っている。今後このセンターが、市民に愛され市民の手で新しい文化を育んでゆくことを願っている。

（昭和設計／内田善久）


西面見上げ


3階トップライト


3階多目的ホール

なにわ会館　公立学校共済組合大阪宿泊所

設計監理　東畑建築事務所

施　　工　錢高組（建築）

栗原工業（電気）

三機工業（機械）

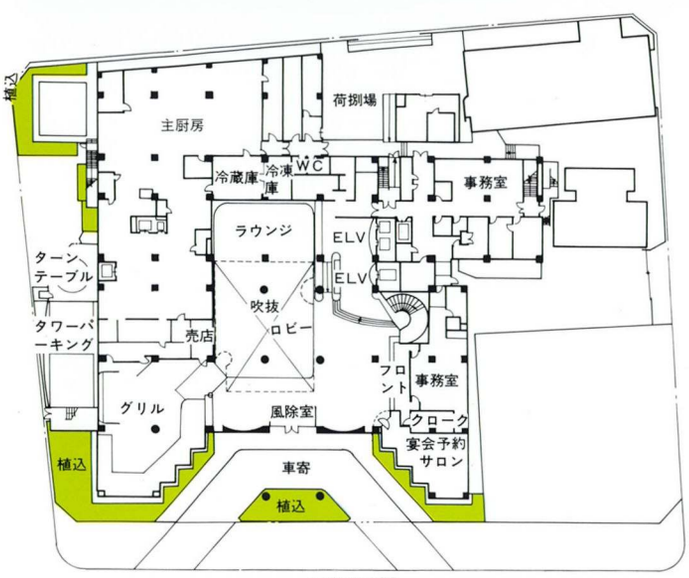


エントランスロビー

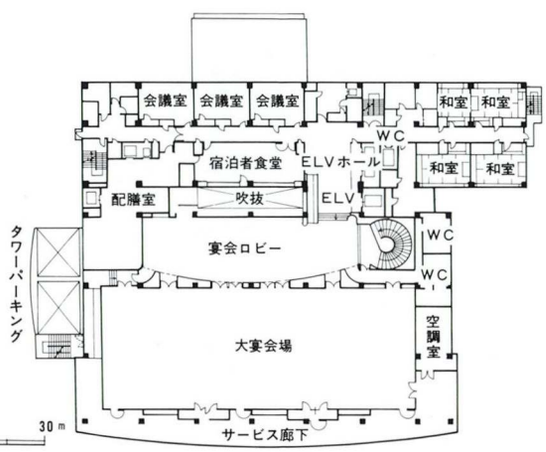
仕上げ　外　　装　二丁掛特殊山型タイル貼り

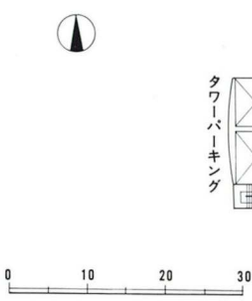
内　　装　床、大理石、カーペット

（ロビー）　壁、大理石



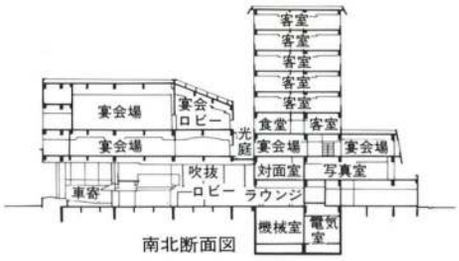
1階平面図





4階平面図

撮影　島　修一（全景を除く）



南北断面図

所 在 地　大阪市天王寺区石ヶ辻町19
敷地面積　4,496㎡
建築面積　2,904㎡
延床面積　14,969㎡
構造規模　SRC、B１F、９F
工　　期　昭和60年２月～昭和60年12月
最 寄 駅　地下鉄谷町九丁目

昭和43年に建てられた当会館は、とくに宴会場の狭隘化や、設備面の老朽化が目立ってきた為、顧客のニーズに応えるという主旨から、低層棟を解体撤去し、四階建を新築し、高層棟は、構造躯体を残し内装を一新している。ホテルのイメージを決定づける外観は、端正で品格のあるファサードをねらいとし、白色の二丁掛磁器質タイル張りの大きく湾曲した壁面と、シンメトリーに位置した二層吹抜けのカーテンウォールのガラス面とで構成されている。単純な形態の外観に、変化と表情を与える為、特殊山型タイルを採用し、天候・時刻、見る角度による特殊タイルの光と影の織りなす表情に〝落ち着きのある豊かな表情〟を見い出している。

エントランスロビーは、２層吹抜け空間となっており、天井のシャンデリアは、インテリアのデザインモチーフとして展開している〝波〟をイメージし、揺れ動く波に当る光の輝きを表現している。床には、大理石張の丸柱を中心に拡がりゆく波紋をデザイン化した、グリーンを基調色としたカーペットが敷きつめられ、壁のつややかな大理石に映り込むシャンデリアの輝きと共に華やかななかにも落着いた雰囲気を醸し出している。

この吹抜空間を中心として１階には、グリルを、２階には、茶室やバー及び結婚式場関係ロビーを配置し、ゆったりとしたらせん階段によって、３、４階の宴会場ロビーへと結ばれている。これらの空間は、波をイメージしてデザインされた壁クロスやカーペットで統一されると共に、間接光によるやさしい光を主として展開してゆくことにより、空間に全体としての連続感、一体感を持たすことを意図している。（東畑建築事務所／塘　伸夫）


全景


南西外観夜景


グリル「コックドール」


宴会ロビー

アゼリアハウス　吹田市営千里山住宅

設　　計　上田　篤十都市工房（基本）
　　小西設計（実施および監理）
施　　工　清水建設・田中組建設共同企業体



南東より十二支広場をみる

撮影　黒田青巌



南立面図



所 在 地　吹田市千里山月ケ丘２番
敷地面積　4,524.10㎡
建築面積　1,427.359㎡
延床面積　3,874.73㎡
構造規模　ＲＣ、３Ｆ
工　　期　昭和59年11月～昭和61年３月
最 寄 駅　阪急千里線千里山駅

仕上
住　棟　外壁　リシン吹付　バルコニー　ＶＰストライプ
集会所　外壁　コンクリート打放し　ＶＰストライプ
　　コーナ柱　ステンレス鏡面仕上

吹田市営千里山住宅は、大阪大学上田篤教授の御指導を受け設計を行った。敷地全体が、西下りの傾斜地であり、各施設はこの自然の傾斜を生かして、周辺の環境になじむように配慮した。

敷地中央南側に、団地の中心となる広場があるが、この広場は、各住棟へのアプローチの起点であり、さらに広場の中央に、吹田市の木であるくすのきをシンボルツリーとして植えた。隣接する公共空地には、十二支をデザインしたコンクリートパネルのモニュメントを設けて、ユニークなものとし、団地内外の人々の交流の場となる様に配慮した。

住棟は、周辺の住宅に圧迫感を与えない様に、３階建３棟で構成され、広場から枝の様に分れてレベルの変化する敷地内通路でつながり、広場を囲む形に配置してある。またどの住戸からも広場を望める様に雁行させ、さらに、敷地の傾斜に合せて半階づつレベルを変え変化に富んだ空間を形成している。また、屋根面のスカイラインを視覚的に連続させて、団地全体が一体感を持つようにまとめた。

住戸は、間口が狭く奥行きの長い平面であるが、３面に開口部を設けて、各住戸が独立住宅に近い開放性の高いプランとしている。今までの公営賃貸住宅にない、新しいイメージの団地である。

（小西設計）



東よりみる



南よりＡ棟をみる



全景



配置図

主な協力業者

電　　気	九星電機工業	吹田市垂水町１－21－21　TEL 06－385－1830
給排水衛生	江坂設備工業	吹田市豊津町23－１　TEL 06－385－1821
植　　栽	坂本造園	吹田市春日１－５－17　TEL 06－384－5840
モニュメント	前田商事屋外美術研究所	大阪市北区梅田1－1 大阪駅前ビル14Ｆ6号　TEL 06－343－0351

座談会

自治体営繕と公共建築の将来像

出席者

光安義光（元兵庫県営繕課長、現光安建築設計事務所）

恒成　恒（前大阪府建築部営繕室長、現大阪府住宅供給公社計画部長）

岡本行善（元芦屋市建設部建築課、現昭和設計代表取締役社長）

司会

巽　和夫（京都大学教授）

「個」から「面」の時代へ

巽（司会）　かつては官公庁建築というと、国や地方自治体の建築の中で主流であり、官公庁営繕部門は、大学をでた建築家のもっとも重要な職場でした。その後、状況が変わり、官公庁建築、公共建築よりも民間の建築にウェートがかかってきた。それにはいろいろな事情があります。しかし、そうかといって、官公庁営繕なり公共建築の役割が低くなっていくかというと、役割の比重は別としても、われわれの生活の中における建築の役割、その建築の役割の中での公共建築あるいは官公庁営繕の占める比重はかなり高いものであるべきで、これからも大いに頑張ってやっていただきたいという期待もあります。自治体営繕と公共建築の特集は今回が初めてということですが、それも、現状をあらわしているように思われます。

本日のテーマは「自治体営繕と公共建築の将来像」ということですので、現状がどうかということを踏まえて、将来どうあるべきかを考えていきたいのです。

初めに皆さんの自治体営繕や公共建築とのかかわりについて、それぞれのお立場でお話をいただき、その中から現状の問題点を引き出して検討し、その上で、将来はどういう方向に進むべきかを議論したいと思います。

かつては、官公庁建築がすなわち公共建築であって、それは官公庁営繕がやっていた。ところが最近は、公共建築と官公庁建築とは必ずしもイコールではなくて、公共建築はずいぶん幅が広く、多様になってきております。官公庁営繕というのも、かつての官公庁営繕といまのそれとはおそらく姿が違うだろうし、また公共建築を必ずしも官公庁が営繕を行うとは限らないという、複雑な関係があります。そのへんの両者の関係を解き明かす意味合いも、この座談会の中にあらわれてくれば幸いです。

そこでお一人ずつお伺いしたいのですが、光安さんは元兵庫県の営繕で活躍されておられました。兵庫県は自治体の営繕として非常にいい建物を建てておられます。内部で設計される率が高いとも聞いています。現在は建築設計事務所をやっておられます。両方のお立場を通して官公庁営繕のあり方についてお話をいただきたいのですが。

光安　私はかつて兵庫県の営繕課におりましたが、昔といまでは自治体営繕のあり方、性格が大幅に変わってしまっているという気がします。

官公庁営繕の将来というのは、そこからだけにとどまらない、もっと広い意味での市民のための建築という形で並列しているような気がいたします。そのような性格にすでに変わっています。もう一つ別な言葉でいうと、私は15～16年前の営繕課にいたわけで、その頃から営繕課の体質はどんどん変り始めています。どういうふうに変え始めているかというと、課の内部のことでいうと、兵庫県の場合は、技術員だけでは対応できない問題がたくさんでてきた。それは例えば、一営繕課内の技術者のあり方だけでなく、主務課と対応するために、技術専門員制度を取り入れてきたわけです。

10年ぐらいして、建築部とか建設部という名前は全部なくなって、都市住宅部になっています。もう一ついい方をかえると、私のいた時代までが「点」というか「個」の建築技術者の時代であり、それ以降は「群」の時代に入っているのじゃないか。さらにいい方をかえれば、「線」とか「面」とかの問題を解決していかなければならない時代に入っていると思います。ただ個人的には、やせがまんといえるかもしれませんが、別な意味で「個の時代」はまだ残っていると思います。ですが官公庁営繕という組織は、すでに〝死に体〟になっているのであって、例えば技術者がドライバーを持って修繕して回る時代は過ぎている。これははっきりいえると思います。巽先生が言われたように、元の官公庁の建築が日本中の技術を代表し、指導してきた時代は終った。ですから設計の対応も「個の設計」から「群」あるいは「面の設計」に変わってきている、こう思います。

いま、私がやせがまんだといった意味は、設計というのは、いくらコンピュータにかけたとしても、最後に残るものがあるわけです。100 人ぐらいの技術者がいても、これをとことんまで省略していくと、最後は所長と１人か２人の人間のところまで下りるわけです。そしてその設計事務所がなくなるかというと、これ以上はなくならない。それが個の設計者の強味だろうと、私は思っています。設計というのは個に頼らざるを得ない部分が必ずある。「面」とか「群」

の中で、最後に残るのは「個」なんだということをいいたいわけです。

メンテナンスを重視

巽　大阪府建築部営繕室で、現職としてやっておられる恒成さんはいかがですか。

恒成　私は一時住宅供給公社で住宅にもかかわらせていただきましたし、3年ほど私どもの都市整備局の都市整備課にもおりました。その時に、さきほど光安先生がおっしゃいました「面」的なというか、「群」というところまではいかなかったのですが、どちらかというと、公共建築サイドのまとめ方というのがあったわけです。私は最初の10年ほどは営繕におりまして、昔はほとんど自分のところで設計をしておりましたから、単体的な、作品的な要素というのが多かったわけです。

官公庁営繕の中には、行政の目的を形にしていくということが一つあったと思いますが、一方では、最近でてきておりますように、面的な要素ということになってくると、かなり要素が複雑になってくるということがあります。だから、それをまとめていくということは、やはり民間の設計事務所のいろんなお考えをまとめていくというか、住民の方との間にたってそれを形にしていく。目的と景観的なものが最終的には形としてでてきますので、それをどうまとめていくか。私どものこれからの営繕というのは、たとえ単体的な要素があっても以前は、府の場合ですと、しょっちゅう民間の方が使われるということでなくて、機能的に割り切りやすいというか、かなりまとをしぼりやすかったのですが、最近はそうでなく、「サンパレスひらかた」のように民間の方も使われる官公庁営繕の建物もふえている。そうなると、一般の方がどんなふうに使われるかという問題があります。

それと、私どもでは主管課ですが、用地の手配から運営の問題がでてきます。そうなってくるとこれからは、メンテナンスといいますか、その建物がどう使われていくかということを深く理解して、それをまとめていく。メンテナンスの中には、何年ぐらい有効に使えるかという問題があります。できるだけ経済的に使いたいということと、最近は民間の施設とのバランス的なものがあります。例えば、結婚式場なんかを公的な機関でやっていても、何年かすると模様替えをしたりするわけで、そういうこともあらかじめ織り込んでおくことも必要だと思います。

それと景観的なことが問題になってくると、これは大阪府の一つの方針ですが、緑をできるだけ多く取り入れていくということ。また潤いを取り入れるということで、壁画とか彫刻とかいろいろありますが、そういうものも建物に取り込んでいく。そうなると、建築の中に、そういう部門の専門家の方の参加をいただくことがでてくると思います。ですから民間の設計事務所にお願いする場合も、できるだけそういうことを織り込んでいただいて、建築というものを総合的に見ていただくことが必要ではないか。それから自治体営繕がいままでどちらかというと、一律的な行き方をしていたわけですが、これからは地域の特性を深くつかんで、それをあらわすようにしていきたい。そのためには、かなり主体性をもった取り組み方が必要になってくると思います。主体性をもつためには、自分で設計なり建築というのを全般的に把握しなければいけない。

大阪府の場合、内部で設計をしていたのですが、非常に建築の仕事がふえて、委託が主流となり、行政的に対応しなければいけないということで、設計担当も3年ぐらいで代っていました。そのためにそこまでの経験がどうしてもできないということがあり、5年～6年、最近では7年の方もありますが、ある程度の年月をかけないといけないということがあります。組織と同時に、そういう担当している人の経験ももってもらえるような対応が必要になってくる。

一方では、公共建築という立場もありますので、公共建築的にも対応していくために、民間の方とお互いに主体性をもって議論をする中で、公共建築の一つの行き方がでてくるのではないか。民間活力ということがでてきましたが、まだ事例が新しいので、はっきりとはでませんが、それだけに私どもサイドの主体性を固めていくためにも、経験をふやしていかなければいけませんし、地域の特性をつかむためにはかなり幅広く、また深く掘り下げていかなければいけないと思います。

「営繕」は設計の原点

巽　つぎに昭和設計の岡本さんに公共建築に携わる建築事務所としての立場からお願いします。

岡本　私は戦後、小さな設計事務所に勤めておりましたが、たまたま芦屋市の求人があり入ったわけです。当時は戦後のどさくさで、とりあえずは住宅とか学校の量的な充足が必要な時代でした。当時われわれがいた役所というのは、設計事務所の延長のような雰囲気で楽しく仕事した記憶があります。昭和32年に辞めまして、設計事務所を始めて現在に至っているわけです。設計事務所の立場で、営繕ご担当の方からいうと発注者に対する受注者という立場ですから、自治体営繕に対していろいろお聞きいただきたいこともございます。そのあたり失礼な事を申し上げるかもしれませんがなにとぞよろしくお願いします。

じつは、「営繕」という言葉は、イメージとしてかなり古い感じがしまして、私もこの言葉にはひっかかるんですが、しかしよく考えてみると、何か手作り的な、職人気質的な、また、「繕」という字のごとく単なるつくろうというよりも、最終的には善を目指しているような意味もあり、そういうことで、「営繕」というのは設計の原点に触れるような語感があるような気がしています。ただし、それは、設計界の内部の受け取り方で、一般社会あるいはお役所内においては、最近のそういう言葉に対する評価は定まらないのじゃないかと思っています。さきほども、主務課とか主管課というお話がありましたが、結局、営繕行政の予算を握っているところは営繕課以外であるという行政の形があります。そういうことで、予算を自由に組み替えたり、重点の置きどころをかえたりするような力といいますか、発言力が官公庁営繕の中にどの程度あるのか。あるいは、そういうことに対して、改善の努力がどの程度されているのかという疑問をいつも感じるわけです。今後公共建築をよくするためのエネルギーをもつためには、そのへんを解決していただきたいと思っております。学校建築とか住宅建築については一学校は教育委員会、住宅にはそれぞれ住宅予算があるようですが、営繕だけがたまたまそういう予算構成になっているということを、ちょっと疑問に思っております。

戦後かなり経つわけですが、昭和30年以降、私が事務所を始めた



岡本行善氏

時期とたまたま一致した形で、経済の高度成長を遂げてきたわけですが、それと並行して官公庁の事業発注もふえ、そういう中から設計の外注も大きなテーマになってきたわけです。いまから30年位前は、われわれ受注者からみると、仕事の量と設計者の量はバランスがとれていて、現在のような過当競争はなかったのですが、それがオイルショックあるいはその後の独禁法にからむ公正取引委員会との軋轢（あつれき）などもあり、設計事務所自身がもっていた業務報酬規定を廃棄する、あるいはコンペの基準も廃棄するという不幸な事態が起こりました。経済の停滞期とそういうことが重なり、受注者側である設計事務所は、ここ10年来非常な不況にあるわけです。入札問題も実態調査をした数字がありますが、大阪府下を見ても、かなりの自治体が設計入札をやっていて、それに対して手の打ちようがない。それを黙認するわけではないんですが、大半の事務所がそれに参加せざるを得ないという困った面もでてきております。そういう発注形態の問題点が公共建築の質にどのように影響するだろうかという危惧を秘かに感じているわけで、そういう中で本当に設計というのができるのだろうかと憂慮している次第です。こういう事態を改善しない限り、長期的には公共建築の質に悪影響を及ぼすだろうと危惧の念をもっております。

それから、自治体営繕の設計組織も時代の流れから、最近は変わってきております。昔のような強いタテ型の組織じゃなく、かなり自由度をもったチーム編成のような組織になさっておられることは、われわれも重々承知しております。そういう組織こそ、設計組織のあり方だと思います。民間の事務所も、組織の大小にかかわらず個人の能力を最大限に押し出し、個人が顕在化する、組織が個人をバックアップする。情報の管理とかコンピュータの利用の問題とか、共通の大きな問題については組織がバックアップして、個人の能力を最大限に引き出すということ。組織のあり方も、タテ型でなく、水平展開するような組織。個人個人を生かしながら全体が活性化していく。また個人と個人もうまく協力し、協調しあってものごとを進めていくという組織の姿が、今後の設計組織の望ましい姿ではなかろうかと考えています。

営繕組織もそういう方向で進められているということで、今後ともわれわれ民間側は役所に対しての協力者という立場にあるわけですが、ときたま役所によっては、下請的な見方で接しられるケースもあり、また設計料の算定基礎も単純な賃金的な計算をなされるケースもあり、民間の設計事務所の肝心なノウハウを活用されないところもあったり、そういう設計事務所の使い方はかえって損ではないかという気がしております。

いずれにしても、いい公共建築をつくるためには、官民の組織同士の問題、あるいは受注者からみれば、報酬の問題とか、あるいはコンペなんかを行われる場合には、公正な審査というふうに、いろんな問題が残されているような気がしております。いい建築を作るためには、企画とか調査とか、そのあたりの位置づけがあとあとすべてを方向づけるような気がしておりまして、とくに私ども企画力の充実ということを大きな課題にしております。そうはいっても、民間側の企画力とか調査力といった肝心のソフトの評価があまりなされていないのが残念なわけです。

巽　いま一通りお三方からお話を伺いましたが、やはり官公庁営繕と公共建築ということを区別して話を進めた方がすっきりするように思いますので、まずは「官公庁営繕」がどういう問題を抱えており、どういうふうにしていったらいいかということについてお話し願い、そのあと「公共建築」に移っていきたいと思います。

さきほどの光安さんのお話では、「官公庁営繕は死に体である」という厳しいご発言がありましたが、そのへんの話を詳しく伺いたいのです。かつて「設計組織論」が盛んであった時代があります。いまもそういう問題はあるわけですが、設計組織には３つのタイプがあります。

一つは建築主に属している設計組織、つぎに独立の設計組織、それから施工者に属している設計組織、この３つのタイプがある。それぞれ特徴があって、建築主に属しているのは、建築主が自分で必要とする建築内容について、自分で設計するわけですから、建築の必要にフィットした建物ができやすい、こういう特徴があります。それから独立の設計組織は、フリーにデザインすることができて、その点で個性的な設計がしやすい。また施工者に属しているものは施工とのつながりがあるために、施工上都合よく、あるいは建築技術の開発と結びついた設計がしやすい、こういう特徴がある。こうした特性はいわば建前論でして、実態はいろいろな問題があるわけです。

官公庁営繕というのは、建築主に属する設計組織の代表的なもので、しかも個別には建設省とか各省庁、地方自治体、これを官公庁営繕というひとまとめで考えますと、ものすごく大きな量になる。そして、日本の近代化の中で、官公庁建築が果たしてきた役割りは大きく、それに官公庁営繕がつねにイニシアチブをとってこられたわけですね。それが現在、官公庁営繕は「死に体」になってきている原因はどこにあるのでしょうか。

官公庁営繕は〝死に体〟

光安　いま私が「官公庁営繕は死に体だ」といったことですが、強いていいますと、それは兵庫県の営繕課の技師に申し上げたことだと考えていただくのが適切だと思います。一番いい例が、保存と修景の兵庫県公館です。これなどは明らかに単体をやっていることで、兵庫県の技術者がここで十分技術を習練しているわけですね。こういうことばかりに営繕課の技師が目を向けていたらだめなんだと。もう時代は変わっているんだということを申し上げているわけです。ですから都市住宅部となったのも、「都市」という概念の中で仕事をしなければ、単体というのは生きないということです。それともう一つ、官公庁営繕に対応して、官公庁建築といった方がわかりやすいかも知れませんが、それがもっている特徴があるんです。


光安義光氏

一つは必ず目立つ場所、主要な道路に面して建てるから、必ず周辺に影響を与えるということ。ですから心して設計しなければいけないということです。もう一つは、官公庁建築というのは、技術の指標になるということ。例えば施工者の方からいうと、官公庁建築をやったということが、社会的な信用度を増すわけで、そういうことも技術者が自覚する必要があるわけです。ですから、大阪とか神戸とか、こういう都会でやっている施工者の一流はそんなことは考えないでしょうけど、そこから少し下がったところの業者にとれば、官公庁建築をやるかやらないかは、大変なことだと思います。

また、単体建築でもメイン・ストリートに面している建物は、周辺に影響を与えていくわけですから、街並みの問題、緑化の問題がでてくると思います。とくに兵庫県の場合はそういう組織体がまだでき上がっていない。兵庫県はよそよりいつも遅れているんです。例えば設備課をつくるために、私が兵庫県に入ってから30年もかかっている。神戸市なんかの方が非常に進んでいる。

それから、逆に進んでいる点もあるんです。どういうことかというと、いまのように、設計監理、設備課がなかったということが、現在のように高度に技術が発達した時代に対応できたと思うんです。どういう意味かというと、建物を発注すると、設備関係者からは分離発注してくれというわけです。私にいわせると、なるほど建築工事が高度でない場合は、分離発注が適切だと思っています。これは責任の範囲が、役所の人間でも割に持ちやすいんです。ところが高度の建物の場合は、分離発注してはいけないというのが、私の考え方で、施工と監理の命令系統が二本建てになっているのを一本化にした方が、いい建物ができるという考え方です。そういう意味で、神戸市とか大阪府のような組織になっていなかったのがよかったのじゃないか。一本化したために仕事の命令系統がすっきりして、監理が行き届いたと思うんです。

設計外注のメカニズム

巽　いまの光安さんのお話では官公庁営繕が死に体だというのは、兵庫県の技師に対していってるんだということでしたが、それは遠慮しておっしゃられているのだろうと思います。おそらく「死に体」というのはおおえない。それが証拠に、外注が非常にふえている。こういう状況が官公庁営繕をますます衰微させていっているのですが、外注に依存するのは、それなりに理由があってのことでしょう。そのへんの外注依存のメカニズムはどう理解したらいいかということで、恒成さんいかがでしょうか。

恒成　決して依存ということでなくやむを得ずやっているのです。本来的には私どもで全部やりたいということです。その点で最近難しいと思うのは、内部設計ということで、我々の技術的な蓄積なり経験をしたいということで、自治体営繕として何をするかというのは、最終的には財政とのからみがあって、いままでは年間に、一般営繕として、庁舎関係とか警察関係が３～４件ありました。それが最近１つとか２つ。それも大きな規模ですと、最初から委託にだすんですが、係として担当できるぐらいのものは、中でやるという決定をすると、設計事務所の仕事はなくなるという事態がでてまいります。一方では、いままで外部委託をだしていた関係から、設計事務所としたら、官公庁の仕事は当然営業の対象になりますし、そういった中でどちらサイドにやるかというと、我々としては内部（自主）設計に回さざるを得ない。そうかといって、病院とかも中でやるかというと、これは時間的なことや技術者の問題で、委託をせざるを得ないということになってくると思います。

私どもでどうしても自由にならないものは予算的なものです。官公庁で設計をやる場合に、技術者サイドとしての行政に対するかかわり方があるのではないかということで、予算の規模は小さいんですが、59年から、「ポケット・パーク」という名称でいっておりますが、既設の庁舎の場合敷地が広くて、緑も植えてないという場合に敷地の一部を生かして広場をつくり、府民の方が休憩できる場所をつくる。私どもで施設を調べて候補を２、３あげて財政と直接接渉をして営繕に予算をつけてもらう方法をやっております。また、身体障害者が使われるための改装工事というのがあるんですが、それを始めたのは民生部ですが、実際予算でとる場合には、営繕サイドにつけてもらうこともいままでやってきました。それは61年度で一応終わりになりますが、５年間、年間６千万ずつ営繕サイドに予算をつけてもらうということをやってきました。それともう一つ、できるだけ企画面に私どもの技術面を生かせないかということで、保全については営繕サイドでかなり予算をつけてもらっておりまして、保全の予算は年間２億ぐらいあるんですが、それを全部営繕につけてもらっています。ただ執行は、私ども外郭団体の大阪府建設監理協会に委託をしておりますが、計画配分については、私どもサイドで担当いたしております。それと同時に、府の施設について約400近く全部調査をして、どういう業者が工事をやったということはもちろん、監理状況も記録したカルテをつくり、その施設の耐用年数がきた場合に、どういう施設をつくればいいかということを提案していく。これはまだ実現しておりませんが、そういった面でのわれわれサイドからの提案を考えているわけです。

それとさきほど光安先生がおっしゃったことと関連しますが、大阪府の場合、分離発注が多くて設備も電気、空調、衛生と分離発注しています。総合的に監理をすれば、建物の質の面も担保できると思いますが、私どもが保全をやりますので、分離発注をしても、あとのフォローができるということもあると思います。

巽　設計の外注化傾向が、非常に進んできているのですが、これは仕事が多くなってきているからやむを得ず外注されているのか、それとも内部の技術的な力が不足しているために、外注に頼らざるを得ないのか、あるいはそのほかの財政上の理由などがあるのか、いかがでしょうか。

恒成　これはやはり仕事がふえてきて、やむを得ずということですね。



恒成　恒氏

巽　いま大阪府の場合、外注率はどのくらいですか。

恒成　大阪府の場合、70～80%あります。

巽　それは実施設計ですか。

恒成　そうです。

巽　基本設計は？

恒成　基本設計はほとんど中です。

巽　そうすると、実施設計が70～80%ということは、内部では20～30%しかやっていないということですね。それで内部は手一ぱいですか？

恒成　そうです。設計をやりながら委託した仕事について主管課との打合せ調整、周辺住民への説明などを行いますので、業務量がふえるわけです。ですからそれも専門化して、内部設計だけと、委託専門の係をつくったらどうかと思うんですが、それでは技術者が片寄ってしまう。設計した人でないと、どう仕事を進めるのかわからない、変化する条件に柔軟な対応が難しいということもありますので、そういうことをせざるを得ないわけです。

巽　技術者数と仕事量の関係でいうと、仕事量はずいぶんふえているんですか。

恒成　それは、つぎの年の予算により技術者数は増減するのですが、内部設計・内部監理の予定とも関連しています。

巽　その場合も外注に依存することが前提になっての計算ですか。

恒成　中で全部やるとなると、相当な人数が必要ですから、そこまではふやしてもらえないですね。

巽　外注がいいとか悪いということは別にして、外注することについての営繕としての考え方ですね。こういう仕事は中ですべきで、こういう仕事は外にだすのがいいという、ポリシーのようなものはあるんですか。

恒成　中で設計をする場合は、行政として重要であると思われる場所とか利用のされ方をするものは、私どもで担当するということです。そうはいっても、大規模なものはそういうわけにもいきませんので、外部へお願いすることになるんですが、その際には私どもの経験したことをお伝えできるということはあります。例えば、養護学校とか老人ホームとか民生関係の施設は、中でやれるものは中でやる。委託をする場合でも、ある程度私どもの考えを生かしていただくということでやっております。

巽　70～80%が外注ということになると、ある見方をすれば、いっそのこと100%外注にしたらどうかという考えも一面でてくるのではないか。また逆からすれば、それほど多くのものを外注に頼るのはおかしいじゃないか。もっと内部でやったらどうか。そういうことでは営繕としての使命を果たしていないじゃないかという意見もありえますが、そのあたりはどのように整理されていますか。

恒成　全部外注したらどうかという意見に対しては、全部したところで自治体サイドの見方というのはどうしても残ってくる。工事の発注をしようと思えば、きちっと積算をせざるを得ない。積算をきちっとするためには、仕様書をきちっと整理しておかなければならないということで、設計もきちっとする必要がある。それに工事の監理や検査があり、これは自治体の職員が行う様になっていますので、どこかでかかわらざるを得ない。これは図面を見ているだけではわからなくて、やはり自分で図面を書いて、積算、工事監理をやっておかないと、実務には対応できないということです。われわれとしては中でやるのが理想ですが、人員の問題もあり、そうはいきません。

巽　岡本さん、設計をお受けになる立場で、設計技術、施工技術の進歩に対して、どのようにうまく対応できるかという観点で設計事務所の立場からいかがですか。昔は官公庁の設計というのは万全で、民間を指導する立場にありましたが、いまは逆の場合もあり得ますからねえ。そのへんで何かお感じになることはありますか。

岡本　たいへん難しい問題ですが、お役所が外注されるのは、独立した設計組織のみにだしていただいている事は重要であり、責任を痛感しています。われわれとしては計画意図に充分応え、新たな提案も含めてご協力申し上げるということです。受注先が一々チェックされなければならないというのは外注先として落第じゃないかと思います。事務所内部できちっとチェックして、その上でお出しするというのが当然の姿勢で、特にトータル的なチェックを厳重に行うべきだと考えます。民間の場合は工事監理もしますから、その段階でチェックをし、軌道修正をする余地があるわけですが、役所の場合は公共工事特有のきまりがあり、設計の内容や積算にしても、完全なものをお出しし、信頼関係をベースにして仕事をしているわけです。

お役所に中には、設計期間が短いから民間の力をかりてスケジュールを強行される場合もあります。そういう時でも何とか間に合わさないといけませんので、かなり無理をして進めるのですが、えてしてそういう時はミスが発生しがちです。やはり設計期間は充分とまでといいませんが最小限は必要ですね。

市民のニーズと営繕行政

巽　官公庁営繕は難しい点が多々あると思いますが、これからの官公庁営繕を積極的に生かす方法、生きる方法をさぐってみたいと思うんです。さきほど恒成さんは企画面に技術を生かす方向を考えたり、予算を直接営繕の方でとってきて、それを使うようにしていると。あるいは建物のメンテナンスを考えている。これらはみんな積極的な方向だと思います。私も官公庁営繕が官公庁という建築主の設計組織の立場であるということから、やはり積極策として、企画的なことに進むのがいいのじゃないかと考えています。官公庁営繕というのは「営繕行政」といわれるように、行政の一環です。営繕行政は市民や府民の建築需要をどうとらえて、これを建築というものに組織立てていくとか、あるいは空間づくりをしていくとかという問題なのです。そういう意味で、設計そのものは外注してもかまわない。どういうものをつくるかとか、それをつくるためにどう



巽　和夫氏

お金を調達して、どう組織化していくかというあたりに、これからの官公庁営繕の行く道があるのじゃないでしょうか。その点は恒成さんは、どのようにお考えですか。

恒成　営繕は行政だということをいわれましたが、確かにそういう面で、一般的に求められている需要をうまく企画なりにまとめていくのは、行政と同じことだと思うんです。ただ、そこまでは、われわれとしていままで深く考えたことはなかったんですが、これからは必要と思います。特にこれからは、都市とのかかわりの中で、「面の問題」が非常に大きな要素になると思われます。

私どもにとって非常にありがたいのは、岸知事が建築に対して理解をもたれていて、建物について意見や適切な評価をいただけるということです。私どもとしても企画面にまでかかわっていくということになると、技術プラス企画力がたいへん必要になってくると思います。

巽　さきほど光安さんもおっしゃいましたが官公庁営繕で必ずでてくるのが「主管課」ということです。主管課が予算をとってきて、それが営繕に回ってくるプロセスが宿命的に営繕が常に従属的な立場に立たざるを得ない原因になっている。この宿命を大きく変えるのは難しいかもしれませんが、逆にいうと、営繕がその立場に甘んじている側面もないではない。主管課の予算を待っているのじゃなく、もっと直接に民生的な需要とか、文化、教育に関する建築の需要とか、市民のニーズを直接調査して、こういう需要があるからこんな建物を建てたらどうかということをむしろ主管課の方にもちかける。あるいは双方の需要をつなぎあわせて、一つの複合共同建築を建てるとか、あるいはそこに民間の施設を乗せて地価の高さを吸収させてしまうとか、戦略的に構想をたくましくしてやるのがよい。公有地の使い方について、仲人役のようなことをするとか、もって行き方によっていろいろ展開の方向がみいだせるのじゃないかと思うんですが、光安さん、そのへんのことについては、いかがお考えですか。

光安　いまおっしゃった中で注目をしなきゃいけないのは、「営繕行政」ということです。この言葉は、われわれの仲間も時々使うんです。しかし、営繕行政という言葉を使っても、この実態を誰も適確にとらえていないのです。予算を営繕がもったらいいじゃないかということがあって、それをやっているのは、横浜かどこか一つあります。それ以外のところは全然だめなんです。おっしゃるようなことを調査、企画、立案してという話ですが、例えば農村とか漁村の生活環境をどうするかという問題がありますよね。それにもっと営繕の技師が入り込まないとだめなんだということをいう者も、少数ですがいるわけです。ですから、いまのままだと、単体設計の技術者、いわゆる個人技術の練磨に終始しているんです。いまおっしゃった営繕行政的な視点をもたないとだめだということです。さらにいえば、さきほども出ました都市的な面のものの見方をもった技術者が養成されていかないといけないと思うんです。

逆にもう一つ一いい点をいいますと、外注の問題です。外注の問題の基本形は、技術者個人の研修という形からいうと、兵庫県の場合、私がいい過ぎたきらいもあるんですが、実際には外注はほとんどしていない。これは予算がないせいもあります。それと外注をしないということは、やさしいのはだし、難しいのはこの中でやりなさい、なぜそんなことをいってるかというと「個の問題」です。例えば昭和設計にいる人と、兵庫県にいる人と、どちらが技術が上かというと、個々にはどっちが上でもないんです。同じ年に卒業した者が分かれて入ってきているだけなんです。課の内部の問題として見た時、やさしいものだけを中でやると、1年足らずで習熟した人間ができ、難しいのを部屋の中で誰かやりますと、いつまでたっても、技術の向上が課の中ではかられているんです。ですから活気がでてくるんですね。私がいる時には、このことを強調し過ぎたこともあって、いまはほとんど外注していない。ですから、私も兵庫県から計画をもらったことはありません。（笑い）

もう一つ「個の問題」で私が強調したいのは、われわれは知事の付託に応えているという自覚が要るということです。市民会館でもいいし、学校でもいいけれども、知事がこういうものを建てたいといっている。それは、県の中で一番新しいものをやっているという自覚があるということです。ですから個の問題はいくらでもできるんですが、営繕行政という視点はまったく途絶えている。「将来像」ということでいえば、私は、この「営繕行政」ということばの定義と、それを密着させる何らかの方法だと思います。

巽　「営繕」ということばが何か古くさくて、消極的なイメージがあるので、もう少し積極的なイメージにして、新しい営繕行政という名に値する空間づくり、街づくりの仕事をしていくのがこれからの方向じゃないでしょうか。

光安　ほんとうにそうですね。「営繕行政」ということばの意味を定着させたらいいと思うんです。そうすると、技術者がさっき恒成さんがいわれたように、知事と直結できるんです。いまは知事と直結できないんです。私はたまたま、県庁舎をやったということで知事に直結できまして、そのときはやりやすかったですねえ。

公共建築の新しい試み

巽　香川県など建築に熱心な知事さんがおられるところはいいものをつくられます。香川県の建築課長だった山本忠司さんなんかは、新しいタイプの公営住宅をつくっておられましたねえ。

つぎに「公共建築」の話を進めたいと思います。公共建築の中には官公庁建築も含みますが、「官公庁建築」という言葉でイメージするのは、官公庁の庁舎とかで、行政の組織が直接自分が使うための建物というイメージが強いですね。いまの公共建築というとそれだけでなく、市民や府民が使う建物というところに比重が移ってきていると思うんです。これからの公共建築で何が伸びそうかというアンケートの中でも、「教育文化施設」という答がありましたが、これも時代を反映していると思います。また、新しい試みもいろい

ろでてきております。そうなってくると、これは官公庁営繕が担当するのか、民間の事務所がやるのかは別にして公共建築というジャンルがあって、それがこれからの建築の重要な役割になるのじゃないかと思います。この点について、最近のご経験なども踏まえて、岡本さん、いかがでしょうか。

岡本　いまおっしゃいましたように、確かに公共建築の範囲は非常に拡がってきております。しかし基本的には、住民サービスのための建物ということで、私どもでも設計量の約半分は、この種の建築です。とくに最近新しく登場してきている建物は、コミュニティ・センターですね。最近も図書館、保健所、福祉施設を一つの敷地の中に、それぞれの機能を独立させながらつくるという計画がございました。そういうものが今後ふえてくると思います。用地の手当とかスケジュールももう少しゆとりをもってやられる方が、いいものができるのではないかという気がしています。

それと少し規模の大きな公共建築になると、設計入札を避け、簡易なコンペ方式が最近はふえてきています。ところが、実際の費用は人件費ですから、かなりかかりますね。とてもそれだけの参加報酬は与えられないので時には、所員教育の一環としてやるようなつもりで参加しております。コンペのよりよい方法を団体などで研究しており、いま設計界の一つの大きな問題になっております。そういうことで最近は、プロポーザル方式といいますか、提案する側からいうと負担の少ない方法で、アイデアを主に審査しようとして、提案図書をなるべく簡略に、パースも着色しない、とか図面枚数も制限するという方式がふえてきております。基本的なコンセプト、構想づくりは専門家が見れば、いいか悪いか充分判定がつくと思いますし、設計者選定方式としては、より進んだ方法だと思っています。

巽　恒成さんいかがでしょうか、最近の公共建築の動向につきまして……。

恒成　規模的に確かにそうしたものがでてくるでしょう。これからは民生、衛生、教育などの行政要素を複合的に同じ建物の中に組み込んでいくということが出てくると思います。当然この場合には、公共サイドだけでなく、民間サイドの考え方もかなり入れていただいて進めることが、よりよい建物になってくると思うんです。それで、設計事務所を決めさせていただく場合の決め方は、公共的な建築の場合には、いろんな中でより適したものを建築の中に生かしていただく面から、数社からご提案いただくことも出てくると思います。一番いいのは確かに指名協議なりで、報酬もきちっとお支払いできればいいんですが、予算の面とかで制約もあるので、設計事務所の方にもあまりご負担のかからないような方式、しかも適格に選ばれる方式を考えたいと思っているんです。

巽　公共建築の中で、市民の利用する建築ということになると、建築の企画設計に当っても、住民の意見を取り入れていかないといけない方向がでてくると思うんです。また建築主も、従来は公共建築というと、地方自治体や国が所有し、管理するというのが多かったのですが、例えばコーポラティブ・ハウジングのようなことをイメージすると、地域の住民の共同体が自分たちのために建てるような建物も、公共的な意味あいをもつ建物になります。事実、コーポラティブ・ハウジングに住宅都市整備公団が関与しているのは、公共的な意味合いをもって関与しているわけですから、従来のように、「公共建築か民間建築か」ということでなく、中間的な公共性をもった建築、所有、利用、管理の形態も中間的な形態のものがいろいろ出てきそうな気がします。先進事例などを見ていると、そういうことが感じられます。そしてそれが、地域の生活の核として発展して、地域景観を形成していく。建築物が面的な広がりの中でどう機能するかという、広い視野の中で建築をつくっていく。そういう時代になってくるのじゃないか。そういう意味では、公共建築の果たす役割はたいへん大きいと思います。

武蔵野市が８つに分かれている地区それぞれに、コミュニティセンターを建てる計画をした時に、敷地をどこにするか、どういうものを建てるか、地区の住民が集まって協議会をつくった。それに対して市役所は技術的援助と金は出すけれども、区民会館をどういう内容にするかは、市民が決めるというやり方で、実際に建物をつくられた実例もあります。地区によって敷地の大きさも形も、建物の性格も全部違うわけですね。従来のこの種の建物はともすれば画一的になってあまり使われないことも多いのですが、これは市民自身の発意で作られたものですから、非常によく使われています。それを知ってたいへん感銘を受けたのですが、この事例などはこれからの公共建築の一つのあり方を示唆しています。建物というのは、建ててからの使われ方が大事で、物的にいうとメンテナンスの話になりますが、ソフトの面でいうと、運営の話から、中をどういうふうにさらによくしていくかということですね。これからの公共建築は、市民のための建築であって、役所はそれの企画とアイデアとお金を出して応援していく役割、そういう空間を組織していく役割になっていくのがよいのではなかろうか。そうなれば官公庁営繕の立場も積極的になってきて公共建築もより発展していくに違いありません。

今日は、お三方のそれぞれのご経験に基づいて、たいへん貴重な、しかも実のある内容のお話をいただき、ほんとうにありがとうございました。

昭和61年３月29日　於日本建築協会会議室

傍聴者　編集幹事　加藤　力　吉羽逸郎　北条　誠　西川純一　中井　進　北村　潤



インテックス大阪



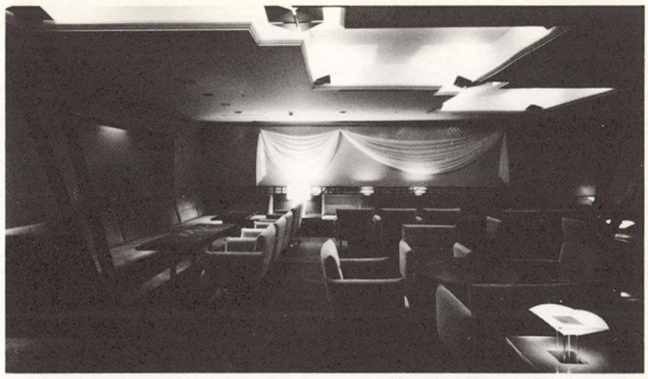
ポートアイランド・スポーツセンター（奥）　ポートアイランドホール（手前）

●公共建築作品見学レポート

内なる空間の時代

なにわ会館のインテリアに寄せて――

加藤　力



なにわ会館バー「ダフィーネ」

インテリアのブームだという。要因はさておき、インテリアへの一般の関心はかなりの昂りである。女性・若者向け雑誌にはインテリアの記事が載せられて、内なる空間の室礼の愉しみをいとも簡単そうに明示してくれる時代になった。一般、専門とわず、さまざまなインテリア情報が飛びかい、巷ではインテリア学校はどこも大流行である。東京だけでもインテリア学校と名のつくものが50校以上もあると聞く。正確な数字でつかめないところがブームといわれる由縁であろう。短大などでもインテリアコースの増設・新設が相次ぎ、インテリアと名がつけば学生はどうやら確保できるらしい。お茶、お花の時代から、いまやインテリアの時代となった。ブームで需要はあっても、しかし、その内状はうすら寒い。

ともあれ、ブームは単に一方的に造られるだけのものではない。必然と必要とによって熟成し、火がつけられる。

時が変じ、いま空間の質を内に求める時代になったのだ。

＊　　＊

従来、インテリアは建物の一部、あるいはそのものでありながら、建築の分野では一段低く見られ、軽んぜられ、手を抜かれる風潮にあった。外観は立派でも、その内なる空間はどうにもお粗末な建物が多かった。特に戦後の公共的建築物にその手が多かった。建物の内側に金かけるなどはもっての他、贅沢とみなされていた時代であった。実用本位、管理安易、質素美徳の精神が貫かれて、それはそれで筋が通っていた。時代のニーズが反映されていたからである。ところが昨今、いささか事情が異なってきた。インテリアへの関心が高まって、空間の贅沢さを一般の人々も知るようになった。あるいは内なる空間の夢に手がとどく時代になったといい換えたほうが正確かもしれない。

こうなると社会のニーズを反映すべき公共的建築物もその対応に迫られる。公共建築物のみならず一般の建物も対応を余儀なくされる。とくに高度成長期に、もうすぐ鼻の先に質の時代の予感がありながらも性急さに攻まられて生み出された建物に、今この対応が必要となった。

公立学校共済組合「なにわ会館」は昭和43年に建てられ、この度、内装一新、改装・増築された建物である。宿泊施設に結婚式場・宴会場が加わったものである。蒼古一新、次なるエピソードが印象を端的に物語る。改装工事中に各地に散らばっていた従業員が戻るなり、〝まるでホテル以上だ！〟と感嘆の声をあたという。ひと頃、共済の建物といえば、健康的ではあるものの、どこか雑然として古く酸えた臭いが染みついていたものだった。ところがここではそうした陶然とした眺望はなく、華やかで賑やか、あたたかくもある光の質に充された空間があった。

テーマは浪速にちなんで波である。床、壁、照明にうねりや波形が大きく流れ、小さく散りばめられて波打っている。特色の一つに建築化された光がある。ある箇所でそれは列柱をみせ、あるいは帯や面や点となって流れていく。時に壁の素材を映し出し、軽やかに撥ね、薄ボンヤリと空間の行方を追っていく。もう一つの仕掛は随所に仕込まれた造形物である。小林正和、浜谷あきお等の手による造形が、視線の行きつくところ、留りをねらって空間と一体化し、場所に膨らみをもたらしている。

ブライダル空間とは、人生一度のハレの舞台である。場所に応じ常に人に語りかけていなければならない。ささやき続けなければならない。無口であっては疎気なく、空間の亢りが大胆さはあっても、人を打ち負かすようでは強すぎる。空間の余波があとになって体のどこかで燻っているような微妙な感触が必要だ。それには機敏で繊細なかけ引きが居る。媚びて、媚びて、媚びきってもどこか萎えた冷たさが必要だ。華やかではあるが、しみじみとした感情のつたう空間が求められる。言葉のうえでは易しいが、空間の仕掛けはまさにきわどく難かしい。

ここでは重厚さと軽さ、大胆さと繊細さ、あたたかさと切なさが相互に入り混って、さまざまな要素で構成されているものの、基本をわきまえている。空間の言葉は冗舌であるが、喋りすぎるところで一歩踏みとどまり、言葉を選び、慎んでいる。客室にあっても、そこいらのホテルよりもずーと豊かなホスピタリティーのある設計となっている。

＊　　＊

なにわ会館の改装をみて、いま時は、内なる空間の充実を求める時期に入ったことを、つくづくと思う。建物の内にもようやく一般の人の目が向けられる時代になったと。インテリアとは内からの発想で造られる。内なる空間の発想とは結局、使うものからの要求である。インテリアの時代とは、建物がようやくより人々の身近なものとして定着しはじめた証明でもあろう。あるいは言葉を替えれば、高いところで構えていた建築が、ようやくこの時期、ひとの側にすり寄らざるを得なくなったともいえよう。

内なる空間へのアプローチは、空間をつくるものであれば誰しもが、簡単に手をつけ、こなせそうに思う。事実、手をつけるがそうそう容易に手の内に入ってこない。摑んだと思う先から逃げていく。本気になって手をつけたが最後、内なる空間への旅は最限もなく深みに沈んでいく。

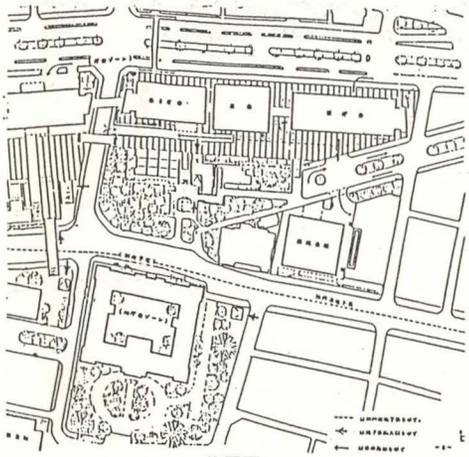
空間が内に向かう時代にあって、設計者にとっては当分のあいだ、精進鏤骨の時代が続く。

（京都工芸繊維大学・住環境学　かとうつとむ）

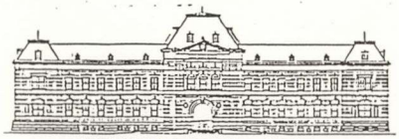
●自治体作品ユニーク事例 1

保存と修景

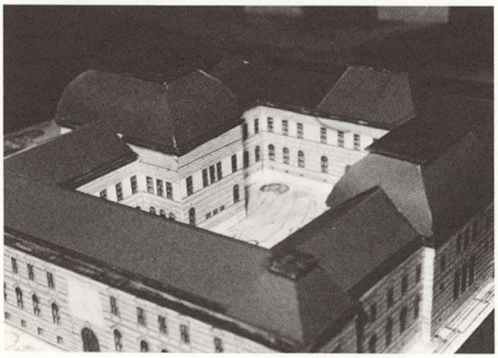
兵庫県公館（兵庫県都市住宅部営繕課）



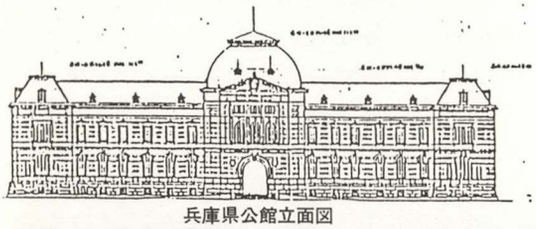
位置図



兵庫県庁南庁舎時代の立面図



完成予想模型写真



兵庫県公館立面図

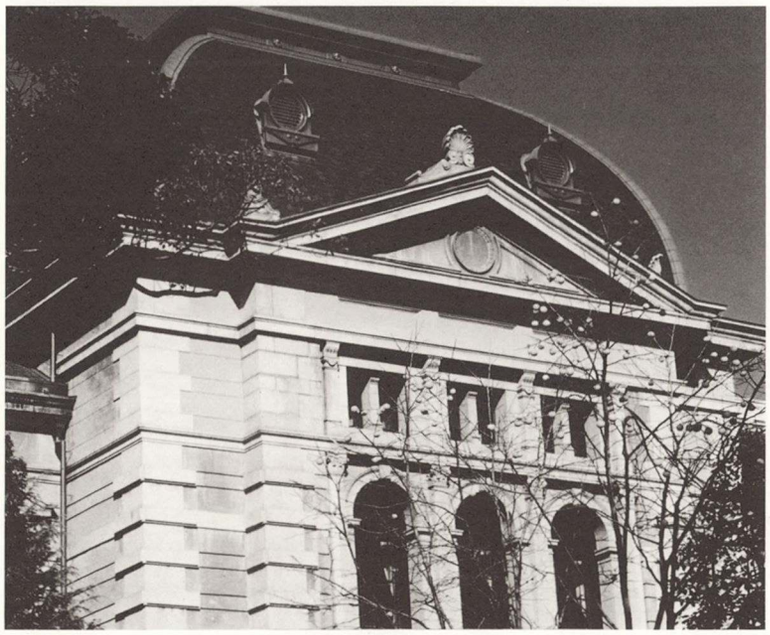


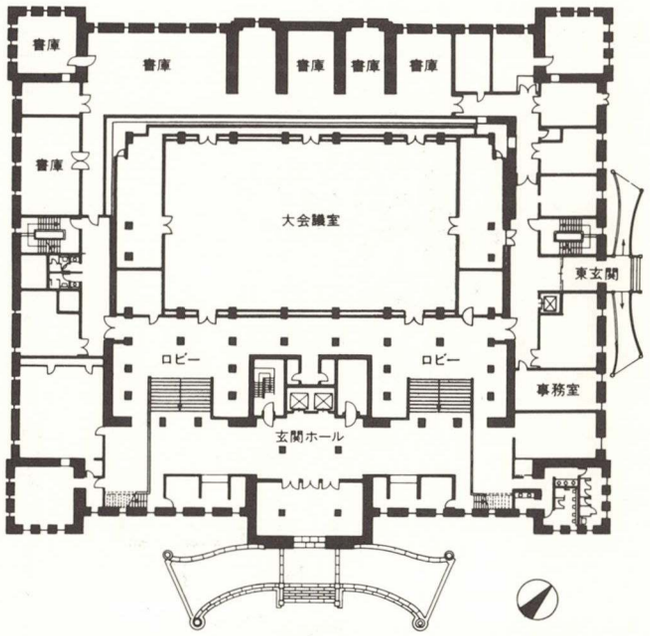
兵庫県公館全景

設計プロセス	設計	工事	経緯
		53	11.（本庁舎周辺整備協議会）
	本庁舎周辺整備計画		
	耐力度調査	54	（本庁舎周辺整備計画書作成） 南庁舎、構造耐力度調査（委託）
	現況調査	55	8．南庁舎現況調査（委託） 移転、活用方法の検討 各方面からの「現地保存」要望
	保存決定	56	8．南庁舎「迎賓館、県政資料館」として、保存、改築決定
	基本計画	57	3．南庁舎保存、利用計画について 有識者・県民アンケート実施 南庁舎保存、利用構想懇話会 （建築　上田篤氏、嶋田勝次氏）
	基本設計		11．都市住宅部長説明 12．設計会議〈部門内〉 知事、副知事説明 基本設計完了
	実施設計（意匠） 構造	58	1．実施設計着手 構造委託 2．予算内示 5．工事発注、県議会承認 6．工事契約、工事着手
	設計監理 外構計画 実施設計	本体工事 外構工事	
		59	内装、仕上等、知事、副知事説明（数回）
		60	2．「公館」名称決定 3．工事完了

設計監理　兵庫県都市住宅部営繕課
所 在 地　神戸市中央区下山手通４丁目４番１号
敷地面積　8,844 ㎡
建築面積　4,671.88㎡　門番所／和風会議室棟を含む
延床面積　9,651.42㎡　同上
構造規模　RC、B２、３F
工　　期　昭和58年６月～昭和60年４月
最 寄 駅　国鉄東海道本線、阪神電鉄／元町駅

事例選考理由
近年、歴史的な建築物のリノベーションが増えている中で、自治体営繕が、単独で、設計から監理までを一貫して仕事をし、成功した例は、この兵庫県営繕が、はじめてである。


兵庫県公館のディテール



１階平面図

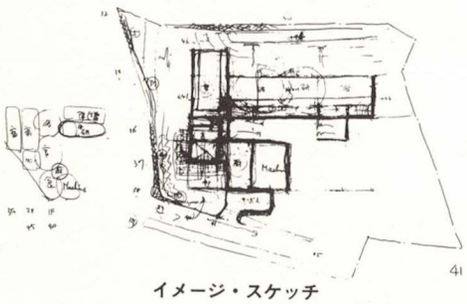
案内パンフレットに、坂井県知事のあいさつとして、「このたび、建物の美しさと歴史的意義に心ひかれる多くの県民の期待にこたえ、明治期の文化遺産である南庁舎を改築保存し、迎賓館部門と県政資料館の二つをかね備えた〝兵庫県公館〟として整備することに致しました」とある。
この建物は、明治の初期にフランスで教育をうけ、それ故に辰野金吾を頂点とする中央の建築界からは、異端の建築家とみなされた山口半六の遺作となった重要な作品である。ながらく優雅で壮厳なたたずまいを見せていた、この県庁舎も、戦災により内部とドーム状の屋根を失い、その後マンサード屋根が乗せられ、当初の姿とは異ったものになっていた。
新庁舎が完成してから、南庁舎と名をかえ、補助的な機能しか果さなくなったが、昭和56年１月、毎日新聞にオペラハウスとして改修するか、移転するかという記事が出てから、我然、県民の耳目を集めることになる。「神戸の建築を考える会」が発足し、日本建築学会もシンポジウムを開催するなど、保存への気運が盛りあがってくる。そしてその年の８月には、このような建築物としては、最も望ましい現地保存の方針が決定された。改修工事を始めるにあたって、県内の知識人・文化人からのアンケートをもとにして、基本計画をすすめるという確かな手順と方法がとられてきた。
設計を担当したのは、兵庫県都市住宅部営繕課の門内秀裕課長補佐をチーフとする、本庁舎周辺整備担当チームである。このプロジェクトをコンペにするかどうか、提案はあったが県営繕の過去の実績と伝統が、文句なしに、自らの手で行うことになった大きな理由である。
基本設計には一年ほど時間をかけた。コンセプトは、できる限り、創建当初の姿に戻すということである。正面のドームを再建し、中庭部分には、大会議室を新たに設けた。が、問題は内部であった。戦災でまったく焼失してしまったために、その意匠の手懸りは、わずかに残った写真と、現存する他の近代建築を実測することであった。ただ、この段階で多くの時間をかけられたことは、あるいは、県営繕だからとれた方法かもしれない。いずれにせよ、１年の準備期間をとった上で、実施設計はわずか４ヶ月足らずという。これは県営繕の持つ実力をうかがわせるに充分である。
保存の手法としては、外壁をすべて化粧として扱い、内側に新たな躯体をつくるという、同志社ハリス館などと同じ方法をとっている。例えば、現行基準法に合致させる為に、ドーム屋根を置屋根として、その下に床スラブを新設したが、屋根裏にははいれないようにしなくてはならないとか、意匠は明治であるのに、設備的には、現代が要求する性能をもたせなくてはならず、いかに調和させるか、また隠してしまうかなど、苦労話は尽きない。そして、昭和60年３月にようやく、その威容を再び人々の前にあらわすのである。
正面玄関から、ホールへ入ると、ロビーの床が下って大会議室へつながっていく。天井が高いのは実に気持が良い。その高さを利用して中２階にちょっとしたスペースをとって、ブリッジで結んでいて、空間の変化を楽しむことができる。手摺、扉のパディメント、天井の繰形、腰羽目、すべてが、試行錯誤の上に決められた、明治の躍動する息吹を感じされる意匠である。
改修工事が完了して、一般公開された日、お年寄りが、じっとたたずんで、なつかしげにまわりを見ていたという話を聞いた時、このプロジェクトが成功裏に終ったという想いを強くした。白いフェンスに、クスノキの木もれ日がふりそそぎ、北隣にあるレンガの栄光教会とともに、とても良い景観を生み出している。これから、営繕という言葉が本来もっている仕事が増えていく傾向にある中で、ここでもまた、兵庫県営繕課は先駆的な役割を果したのである。

（文責　大林組建築設計第二部　広田和正）

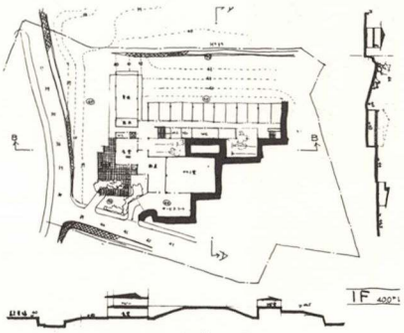
●自治体作品ユニーク事例 2

自主設計の手法

サンパレスひらかた（大阪府建築部営繕室）



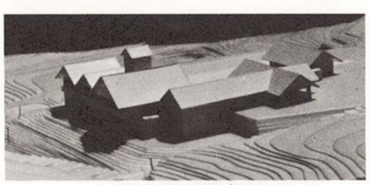
イメージ・スケッチ



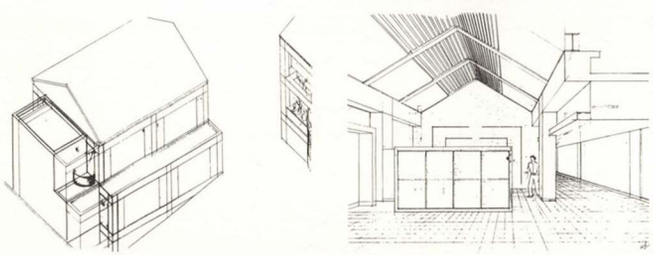
エスキース



エスキース



スタディモデル



実施設計段階のスケッチ



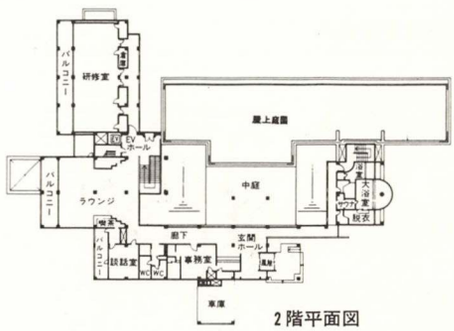
展示用模型

設計プロセス	設計	工事	経緯
		53	8　北河内７市長連名で要望
		55	3　府議会で早期建設質問
		57	10　近畿財務局土地譲渡手続開始
	基本設計　6案	58	2＊基本設計着手
			5＊最終案固まる、模型１/200２つにて検討
			6＊営繕室長説明・基本設計案決定 ＊労働部基本設計案了解
	撤去工事設計		7＊地元府会議員、地元市長会へ説明
	造成設計・申請		7＊財政課補正予算ヒアリング 財政課と最終規模予算の調整
			8＊エレベーション最検討
			9＊模型1/100による検討
			9＊知事・副知事説明
	構造設計・積算		9＊実施設計着手（２ケ月半）
			10　土地売買契約
	実施設計（意匠内部）		10－９月府議会にて工事予算議決
	監理（敷地造成）	敷地造成工事	11＊積算着手
	植栽設計		12＊敷地造成工事着工
	サイン設計		12＊展示用模型（専門業者へ発注）
		59	2＊本体工事契約府議会承認
	常駐監理（内部）	くい工事	
		本体工事	
		外構追加	
		植栽	
		60	3　竣工

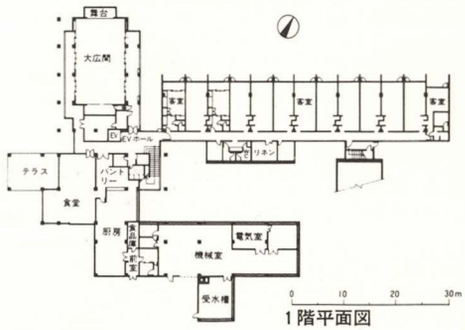
所 在 地　枚方市藤阪東町１丁目2277番２
敷地面積　9,296㎡
建築面積　2,151㎡
延床面積　3,072㎡
構造規模　RC、２Ｆ(一部１Ｆ)、小屋組Ｓ
工　　期　昭和58年12月～昭和60年３月
最 寄 駅　国鉄片町線藤阪駅

事例選考理由
基本計画の段階から、実施設計に至る工程をすべて独力で遂行することによって、技術力の向上を目指すと同時に、質の高いスタンダードレベルを設定することに目が向けられている。


サンパレスひらかた(中庭より西をみる)



2階平面図



1階平面図

大阪府営繕室では、自主設計による創作活動を通して、質の高い作品を生み出すことをひとつのモデルケースとして位置づけている。140名の人員を擁する営繕室は、学校・住宅をはじめとして膨大な仕事量をこなさなくてはならず、大半の時間は発注業務に忙殺されてしまう。それでも質の高い公共建築を多く世に創り出していくためには、少ない時間を見つけてでも設計力を強化しておく必要に迫られている。

その方法のひとつが自主設計であり、基本設計の段階から詳細設計を経て実施設計に至るまでの全工程を、独自の力で遂行するプロジェクトをもっている。こうすることによって技術力の向上を目指し、行政内部での説得力はもちろん、設計委託の際にも選定の確かな目を養おうとする壮大な目的への一貫だ。

枚方市の丘陵地、王仁公園に隣接する敷地に建てられた保養施設「サンパレスひらかた」も自主設計として完成したもののひとつであり、現在の営繕室がもっている力と意欲を見せている。

このプロジェクトが成功した背景には、積極的な問題意識に裏打ちされていることはもちろんだが、いくつかの必要条件が揃ったことが挙げられる。逆にいえば、それらの条件を創り出して行くことが今後の課題でもあるわけだ。

その前提として設計者の能力が問題になることはいうまでもない。個人の能力に負うところが大きな設計では、十分なメンバーが揃っており人間関係としてのチームワークがとれていることが必須の条件となる。その上で、それらの人々が営繕として設計のできる体制が保証されていなくてはならない。サンパレスひらかたの場合、係長＋主査＋係員５名というチームで、そのうち３年以上の経験者が３人居たことが幸いした。このことは、修練の期間を長く要する設計活動においては、短いサイクルの人事移動がありすぎるのは適切とはいえないことを意味しているようだ。

設計体制と同時に重要なことは、発注側に立って施設の監理・運営をする主管課との信頼関係が築き上げられていなければならない。保養施設としては、先例があったために、各プロセスにおいて、経験を生かすことが、できたのも良い結果への遠因になっているようだ。

サンパレスひらかたの場合、基本設計完了後に予算要求ができたため、設計上適確な方針を打ち出すことができた点も見逃すことができない。土地の譲渡手続から基本設計を経て、各関係者への説明、了解を取り付ける作業の円滑な決定プロセスは、自主設計の根幹をなすだけに重要なポイントとなっている。その工程に応じて、照明デザイン、植栽、サインの各ジャンルの専門家を起用し、最後まで内部監理を行っていくというトータルコーディネーションが功を奏している。

このような自主設計の活動から得られた経験は、着実に大阪府営繕室の財産として蓄積され、民間をリードしていく際のエネルギー源となっている。ともすれば依託業務に時間をさかれ、業務処理に気を取られてしまいがちな組織の中において、わずかな時間を見つけながらも、質の高い作品を創り出すことによって、活性化をこころみていることの波及効果は、計り知れないものがある。自主設計として創られることは、スタンダードのレベルが設定されることであり、そのレベルが高ければ高いほど、依託業務内容への水準も上げられることになるからだ。

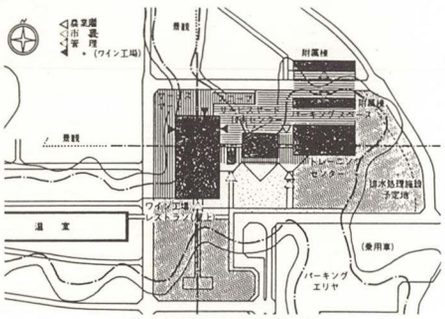
このような姿勢が保たれ続けていく中で創り出されていく公共建築が、新しい時代をどう切り開いていくか、今後を楽しみにしておきたい。

（文責　竹中工務店設計部　本多友常）

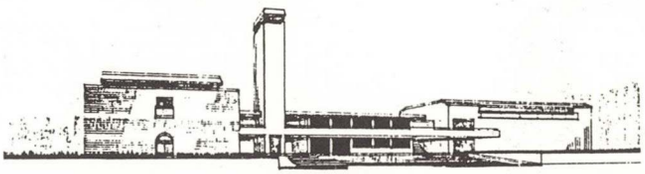
●自治体作品ユニーク事例 3

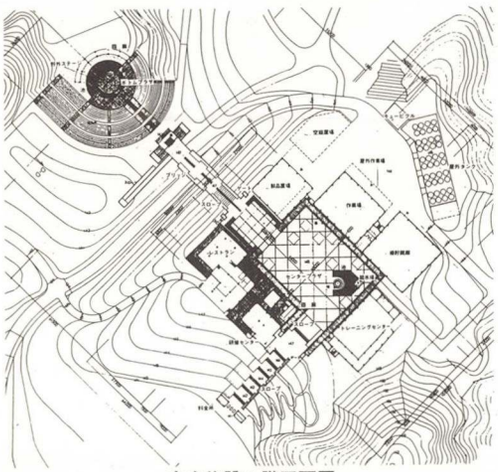
地域の話題づくり

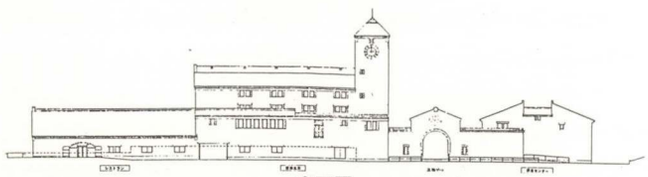
神戸市立農業公園（神戸市住宅局営繕部営繕課）

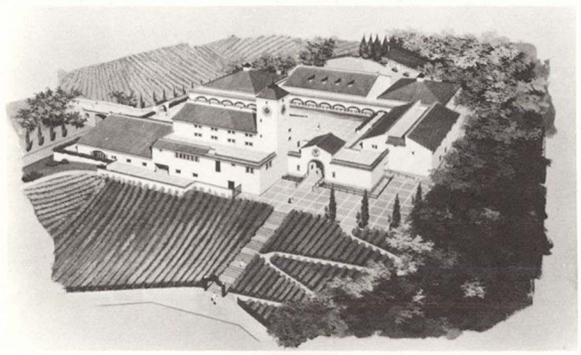


中央施設平面計画試案


中央施設構想図


中央施設 1 階平面図


立面図


完成予想図

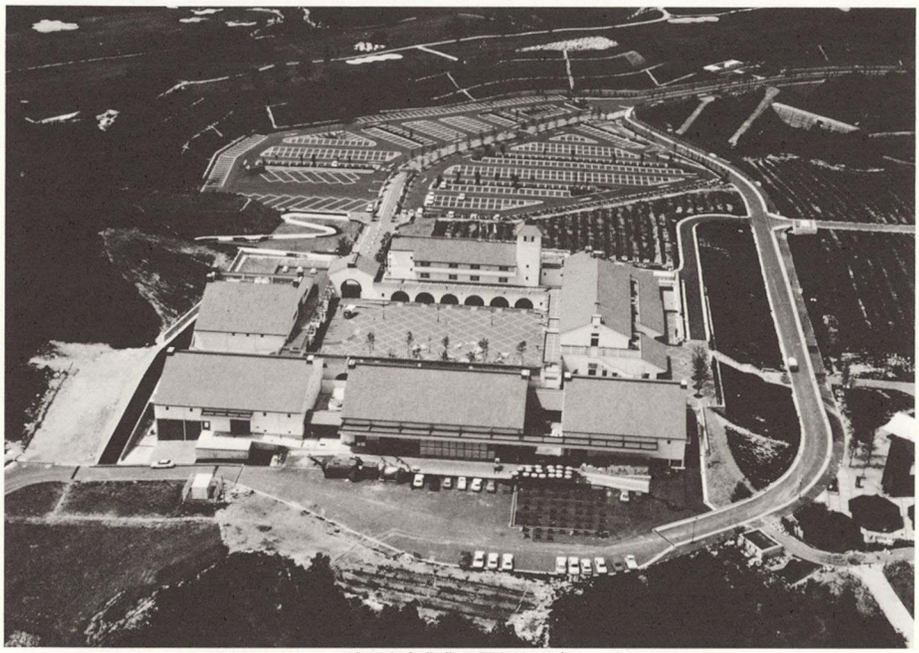
設計プロセス	設計	工事	経緯
	基本構想	51	10 新、神戸市総合基本計画 「自然休養村の建設」 「市民に親しまれる農業」
		52	7 神戸市農業基本計画（農政局）
		53	1 用地調査（第 1 回） 7 市長、北海道・池田市の調査指示 8 池田町のワイン事業調査
		54	3 農業公園基本構想決定 4 地元説明（第 1 回） 5 用地調査開始（第 2 回） 7 神戸ワイン農業公園推進本部設置 10 地元説明（第 2 回）
	基本設計および改訂	55	1 用地取得手続（大阪営林局）開始 6＊基本設計着手 特定地区農業構造改善計画地区の指定受ける ワイン醸造の試験製造免許取得 9＊神戸市農業公園調査設計及び施設基本設計・報告書作製 11 地元自治会へ基本設計の説明 (2) 造成基本設計着手
	造成設計	56	3＊神戸市農業公園調査設計及び施設基本設計概要報告書作製 4 地元自治会へ造成計画説明 8 地元自治会と造成工事に伴う覚書調印 10＊農業公園ワイン工場その他新築工事の内、基本設計改訂業務報告書 神戸市農業公園施設基本設計報告書提出 11 造成工事着工（第 1 期） (5)＊基本設計改訂及実施設計着手
	実施設計	57	4＊農業公園修景計画の検討 6 造成工事完成 9＊農産物処理加工施設（ワイン工場）その他（原水槽）新築工事着工 10 造成工事（第 2 期）着工 12＊学童農園管理用施設着工
		58	1＊観察用花卉温室着工 7 ワイン工場開所式 9＊本館研修センター、農業体験実習館ワインレストランの工事着工
		59	3 造成工事の内、芝生広場、駐車場完成 4＊ワイン製品館、ゲート着工 6＊野外バーベキュー広場、展望台着工 7＊炭焼場、野外ステージ着工 9＊ワイン熟成館着工 10 農業公園竣工オープン 10＊登窯着工
		60	7＊陶芸館着工（10完成）

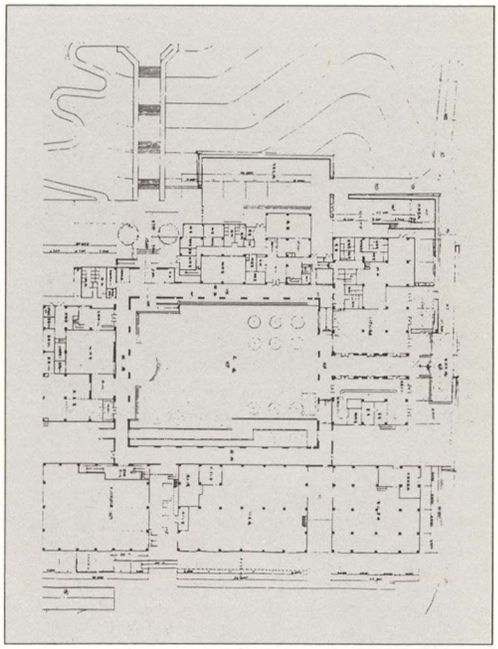
造成工事(1)
建設(1)
造成工事(2)
(2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)

実施設計（委託）
工事監理（内部）
サイン計画（委託）
家具設計 → 委託

設計監理　神戸市住宅局営繕部営繕課　浦辺建築事務所
所 在 地　神戸市西区押部谷町高和字性海寺山1557番
敷地面積　310,000 ㎡
建築面積　8,419.75㎡
延床面積　10,710.28㎡
構造規模　RC1（4棟）、RC1・B1、RC2（4棟）、RC3・P2、S1（7棟）、W1（3棟）
工　　期　昭和57年9月～昭和59年10月
最 寄 駅　神戸市営地下鉄「学園都市」駅下車神戸市営バス西神ニュータウン内、狩場台5丁目停留所より送迎用バス有

事例選考理由
神戸市農業公園は、市民レジャーと農業振興をむすびつけたユニークな施設づくりである。今後の施設運営のあり方によっては、興味深い展開ができそうである。


神戸市立農業公園航空写真


1階平面図

〝都市経営のこうべ〟が「神戸ワイン」をつくり、「農業公園」を開園させた。この農業公園は、「神戸市農業基本計画」にもとづき、その拠点施設として建設された。計画の目的は、①農業者の研修、健康増進、レクリエーション拠点づくりと、園芸・果樹等農業技術の研究、指導拠点の整備、②加工用ブドウ栽培とワイン醸造施設の整備、③以上を活用した市民レクリエーション施設の整備の3点である。公園の中心施設であるワイン城は、熟成館・工場館・製品館・レストランホテル館・本館兼研修館・農業体験実習館とからなり、これらが、中央広場をかこむコリドーによって連結されている。中南欧風のイメージでまとめられ、白い外壁とオレンジ色のスパニッシュ瓦は、周囲の緑の中で、ひときわ明るくかがやいている。

コリドーとシャトー（ワイン城）が、最終の基本イメージとなっているが、計画の途中経過資料を見ると、当初は、ワイン工場・技術センター・体育館を並列につなぎ、それをとりまくように、温室・広場・果樹園等が配置されて、「農業振興」がその主要目的の施設構成となっている。他公共自治体の類似施設、あるいは民間企業のワイナリーの見学をふまえ、なんとか神戸市独自のものをめざしていこうとする作業がつづけられ、基本設計時には、最終イメージの原点となるものができあがってきている。すなわち、施設構成（工場・ホテル・レストラン・研修施設等）、デザイン上のキーワード（コリドー・プラザ・シャトー・白い外壁とオレンジの瓦）がそのイメージを形態化してきている。これらのキーワードを模索する作業が、営繕部と農政局とのキャッチボールによっておこなわれ、その後、最終設計時には、メインアプローチ部のデザイン上の整理・塔の位置の変更などを経て、現在の形にいたっている。設計作業だけでなく現場監理上も、数回の発注作業や、数多い請負業者の調整等、多くの苦労があったと思われる。

発注者は、神戸市農政局。基本構想段階は、農政局サイドでまとめ上げ、それをうけて営繕部が、基本・実施設計をまとめるというすすめ方になっている。いずれの段階でも、神戸市主導のもとに、民間事務所に作業依頼をしている。この程度の規模のものでは、ごく一般的なすすめ方であり、特殊な事例ではない。ただし、市のメインプロジェクトのひとつであること、時間的制約があったことにより、通常の事務処理ルートだけでなく、発注者側からトップダウンによる強いイニシアチブが発揮されるなど、事業推進への熱意は相当のものであったようだ。

昭和52年7月に農業基本計画が策定され、昭和55年6月までの3年を基本構想に、昭和56年5月までの1年を基本設計、昭和57年6月までの1年を実施設計にあてるというスケジュールは、官庁ならではのペースである。その間、基本設計の改訂等を含みながら、農政局と営繕部の打合がおこなわれた。このような長期計画の場合、計画途上で人事異動があり、発注者サイド、営繕部サイド共苦労があったようである。図面作業等は、民間事務所がおこない、むしろ計画をまとめあげるトータルプランナーとしての立場が強調されているように見受けられた。庁内での意見調整、予算調整、各種補助金対象部の本省との接渉等、内外の調整事項の処理等の内容は、民間事務所の仕事のすすめ方とは、また異なった要素が数多くある。

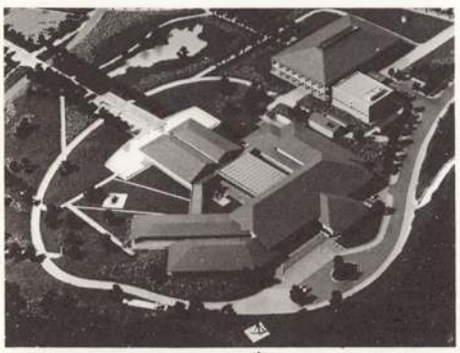
営繕部内でも、これからは、基本構想の段階から、プロジェクトに参加するべきだという意見が出ていると聞く。営繕部の立場から、基本構想時に、様々なアドバイスができるのではないか、その結果、仕事がスムーズに流れ、最終的には良い建築へつながっていくのではないかという発想である。最近、そのような形態へ対応するべく組織変更がおこなわれたとのことであり、今後の活動がさらに広くなっていくと思われる。

（文責　安井建築設計事務所　水川尚彦）

●自治体作品ユニーク事例 4

滋賀方式―コンペ

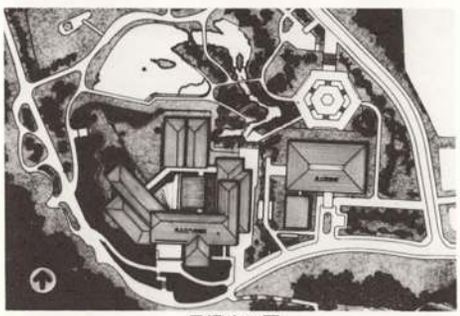
滋賀県立近代美術館(滋賀県土木部建築課)



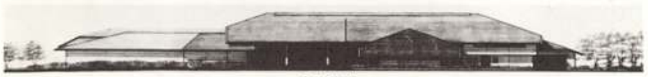
コンペ案



配置図



屋根伏せ図



立面図



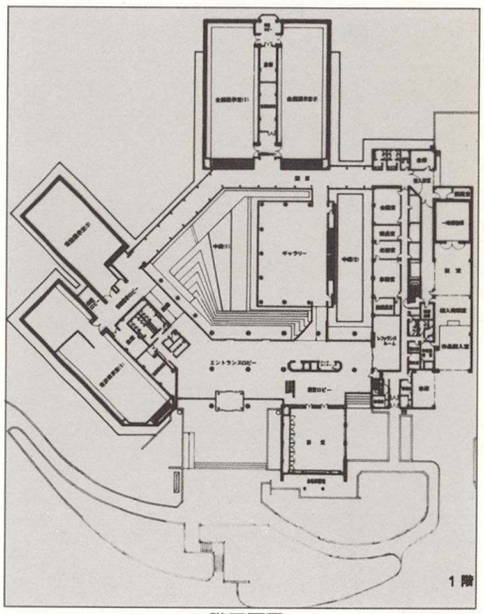
中庭

設計プロセス	企画・設計	工　事	経　緯
	調査委員会	54	5　美術館建設調査委員会設置
			基本的性格、主な事業について検討
			11「建設についての報告書」
	建設委員会	55	3　美術館整備基金設置（条例）
			5　美術館建設委員会設置
			基本計画について審議・検討
	ヒアリング		設計事務所８社ヒアリング（13社検討→８社）
	設計競技審査会	56	1　指名設計競技参加事務所３社決定
			指名設計競技審査会設置
			設計競技要領を審査決定
	設計競技		3　指名設計競技発注
	開設準備室		4　美術館開設準備室設置
			6　指名設計競技設計図書提出
			審査会において当選案（日建設計）決定
			7　指名設計競技審査結果公開
			8　日建設計に設計委託
	実施設計		11　実施設計完了
		57	2　工事入札
	監理	くい工事	3　発注、着工
		本体工事	
		外構工事	
		58	10　竣工（工期19ヶ月）
		59	8　開館

設計監理　滋賀県土木部建築課　日建設計
所 在 地　大津市瀬田南大萱町1740－1（文化ゾーン内）
敷地面積　18,288.8㎡
建築面積　6,772.7㎡
延床面積　8,544.4㎡
構造規模　ＲＣ、一部Ｓ、Ｂ１、２Ｆ
工　　期　昭和57年３月～昭和58年10月
最 寄 駅　国鉄東海道線瀬田駅

事例選考理由
入札による設計発注を行なわず、「滋賀方式」とよばれる独自の指名設計競技で、次々とレベルの高い公共施設をつくりだす、その方式の典型ともいえる滋賀県立近代美術館のプロセスに着目した。


滋賀県立近代美術館全景



1階平面図

「滋賀方式」と評価の高い滋賀県の指名設計競技方式は、すでに昭和52年からはじめられ、これまでに十数件の施設が建設され、その独自な方式は各方面からも注目され、自治体からの問合せも数多いという。滋賀県では、建築工事の設計監理については入札を一切やらず、学校など通常的なものは滋賀県設計監理事業協同組合に発注し、創造性を必要とするものについては、指名コンペ方式を積極的に活用して設計者選定を行っている。この指名コンペ方式では、ヒアリングからコンペの２段階方式、コンペ発注段階での知事との直接討議、充実した審査委員会、参加報酬引き上げの努力などいくつかの独特の方法があげられる。これらは、武村正義知事の理解はもとより、この方式をはじめた、当時の建築課長である本城博一審議員の熱意と努力に負うところが大きい。

この「滋賀方式」の成功した典型例である県立近代美術館のケースでは、まず建設委員会で13社の設計事務所が検討され、それを８社に絞り、ヒアリングを実施した。ヒアリングの狙いは、事務所の担当者を知ることに加えて、発注側の意図を直接伝え、その意見を聞くという直接的な関係の中で良い建物をつくる方向を目ざすことにあった、と本城氏はいう。ヒアリングの結果、いずれに決まってもよいレベルとして３社に絞りコンペを発注する。この段階でも、各設計事務所の担当者に知事室へ集まってもらい、知事と直接討議を行い、また、実施設計段階においても設計者と知事が、途中に２回話合いを行った。こうした発注者と設計者の直接的な信頼関係の中で、知事の「自然環境とともに」との考え方をよく表現するべく、設計がすすめられた。本城氏は、「結果としても安心できるものとなった」と語る。コンペの審査委員会もまた万全を計るため、村野藤吾氏、芦原義信氏、浦辺鎮太郎氏など一流スタッフをそろえ、さらに要項検討の段階で、現地で知事と話合いをもったという。

この美術館の成功の要因として、発注者の明確な意図の伝達とともに、もうひとつ見落せないのは、早い時点での実際の運営スタッフによる開設準備室の設置があげられる。ともすれば公共施設の建設では発注スタッフと運営スタッフの意図の違いが問題を生じやすいが、この場合は早くから運営スタッフを導入し、その運営スタッフよりのシビアな要求を、設計者が豊富な経験の中で受けとめる「いきのあった」設計作業が良い結果を生み、またスタッフの人間的なつきあいが生きた設計として、「コンペの心くばりも効果を生んだ」という。

本城氏は、コンペで残る問題点は、参加報酬であるという。ヒアリングで数社に絞ることも、１社あたりの報酬をできるだけ高くという考え方であるが、「アイデアを買うことは高くつく」ことを、氏は議員や上層部へ何度も足を運んで説得し、その結果、段階的には参加報酬は増えてはいるが、まだまだ不足であり、「今後とも参加報酬をどう説得し、増やしてゆくかが課題である」という。

美術館の後も、琵琶湖研究所、県立カルチャーセンターなど次々と「滋賀方式」による建設がすすんでいるが、創造性を求められるものについては将来もこの方式を続けてゆく方向であり、今後に予定されている歴史博物館や琵琶湖博物館などについては、この方式を一歩進めて新しいコンペ方式を確立することも考えていると本城氏はいう。また、市町村のレベルにも拡がりをみせている滋賀方式をさらに定着させていきたいともいう。

知事、本城氏などの努力で定着した「滋賀方式」の展開が、今後の公共建築の設計のあり方に示唆するところは大きい。

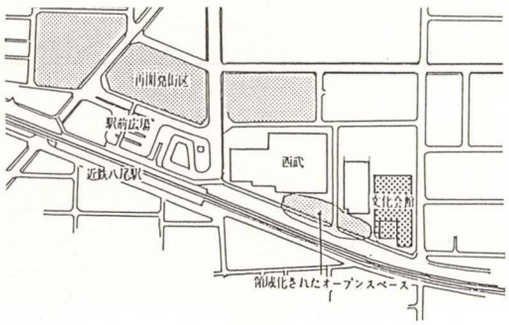
（文責　編集委員　中井　進）

●自治体作品ユニーク事例 5

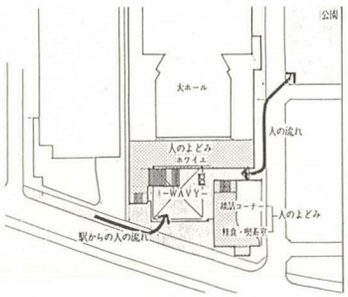
市民参加方式

八尾市文化会館（八尾市庁舎文化会館準備室）

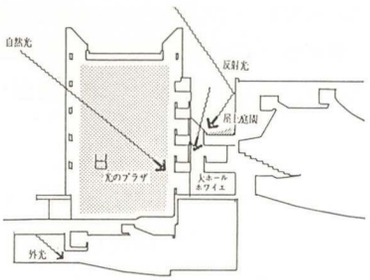
設計プロセス



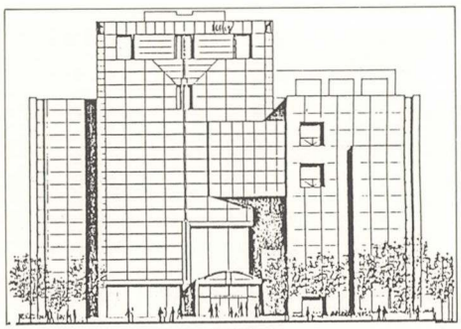
位置図



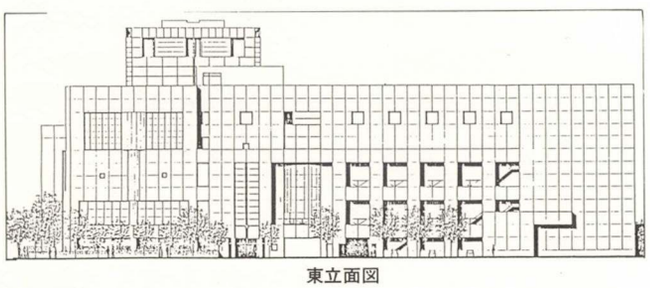
動線図



自然光と緑の概念



南立面図



東立面図

企画・設計

八尾市庁舎文化会館建設調査特別委員会（議会）

素案作成

構想案

指名設計競技実施

計画案決定

基本設計

実施設計

技術専門懇話会（音響・照明・舞台関係など）

工事

工事（予定）

経緯

59　7　第1回庁舎・文化会館建設調査特別委員会

60　6　市民文化会議第1回
第11回特別委員会（光町2用地に決定）
7　市民アンケート
市民文化会議第2回
市民文化会議第3回
8　提案募集
市民文化会議第4回
音響などの技術コンサルタント委託
9　建設市民委員会第1回開催
11　同　上　第2回開催
12　同　上　第3回開催
同　上　第4回開催（構想案の完成）
第15回特別委員会（構想案の承認）

61　1　コンペ説明会
（10社）
2　応募案提案
（7社）
4　コンペ発表
市建設計画案決定

基本設計

実施設計

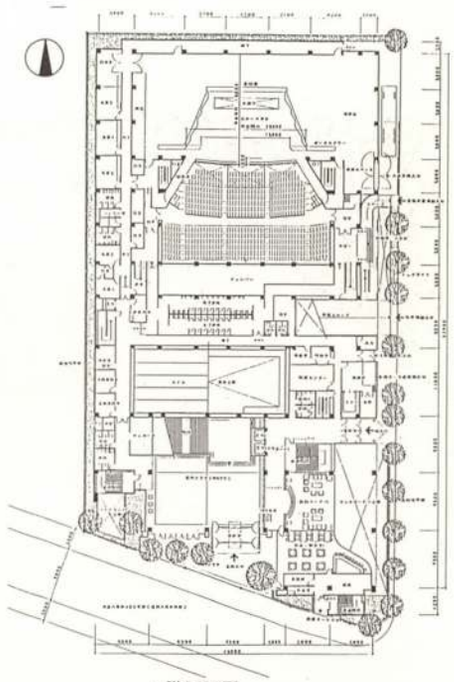
61　年内　着工予定

63　オープン予定

所 在 地　八尾市光町２丁目40番地
敷地面積　4,689.69㎡
建築面積　3,962.60㎡
延床面積　11,971.80㎡
構造規模　ＳＲＣ、一部Ｓ、Ｂ２、５Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和61年～昭和63年（予定）
最 寄 駅　近鉄大阪線八尾駅

事例選考理由
公共施設の建設・運営における市民参加は各地で試みられているが、その方法はまだ確立されていない。しかし今後一層要求されるであろう市民参加の１例として八尾市を取り上げる。


完成予想図


１階平面図

公共施設の建設に当っては、市民参加は自明の理と考えられるが、その実現はなかなか難しいようである。積極的に市民参加を目指した八尾市のケースをご紹介したい。

八尾市では、定住魅力のあるまちづくりのため「文化の振興」を重要課題の一つとした。

「(仮称）八尾市文化会館建設基本構想」によると、「文化会館の建設にあたっては、その建設課程を重視し、多様な市民の要求をまとめ、より高い次元へと発展させていくことを心がけた。……文化の担い手である市民が主体的に文化施策に参画し、文化会館を足場に創造豊かに活動することによって、文化会館の機能が十分に発揮されるとともに、市民と市民、市民と行政のネットワークづくりが図られるものと考える。その観点から文化会館建設基本構想の素案づくりの段階から市民のエネルギーを結集し、八尾という地域に根ざした市民に愛される文化会館づくりを目ざした」と唱われている。一般的に見て、このような考え方を実現させることには、行政サイドは消極的であったように思える。その理由としては、意見のまとめがうまくできるかまたそれに十分対応できるか、今まで行政は弱い立場で市民から突き上げられたり、振り回わされたという意識が潜在している事などによるだろう。

八尾の場合、市民参画の方策は、昭和60年６月に設置された「市民文化会議」によって具体化された。一般市民から公募によって選ばれた32名のメンバーと、３名の学識経験者によって構成され八尾の文化あるいは文化会館の施設内容や運営について４回にわたり討議された。又「市民文化会議」の開催と併行して市民アンケートや提案募集も行われた。市民アンケートは、無作為抽出による15歳以上の市民2094名に対して「八尾の文化振興について」あるいは「文化会館の建設計画について」市民の意向の把握がなされた。提案募集は、200名の市民から具体的な提案が寄せられた。

また、各ジャンルの文化関係専門家から随時ヒアリングを実施するなどして以上のすべてをまとめた文化会館建設構想素案が作られた。昭和60年９月に「文化会館建設市民委員会」が市民代表及び市民文化会議の委員の10名で組織され前述の素案について４回検討が行われた。このようにして作られた構想素案が議会で承認され次のステップへと進むことになる。庁舎文化会館建設準備室の担当者の話によると、市民参加は非常にうまく行ったそうである。「市民文化会議」や「文化会館建設市民委員会」のメンバーに行政側は入らず、市長以下オブザーバとして参加し、座長も委員から選ばれ自主的な運営にまかされた。話の内容もマクロからミクロなレベルまで広範にわたり、巾広く意見が聴取できたようだ。

昭和61年当初に計画案の指名コンペが実施され４月には当選案が決定になった。この審査は、行政、建築専門家による審査会で行われたが、これに関して新建築家技術者集団大阪支部より、市民投票による当選案の決定をしてはどうかとの要望書が出されたが、市民が計画図面をどの程度理解できるか、また、応募した建築家の方も中味ではなく、イメージスケッチで良否の判断をされてよいのかなどの問題もあり、審査会方式となったようだ。

今後61年度から基本設計、実施設計、工事と行われるが、基本設計段階から管理運営検討組織を設け、使い方を検討し施設づくりに反映したり、文化的イベントの施設を検討したりする予定である。

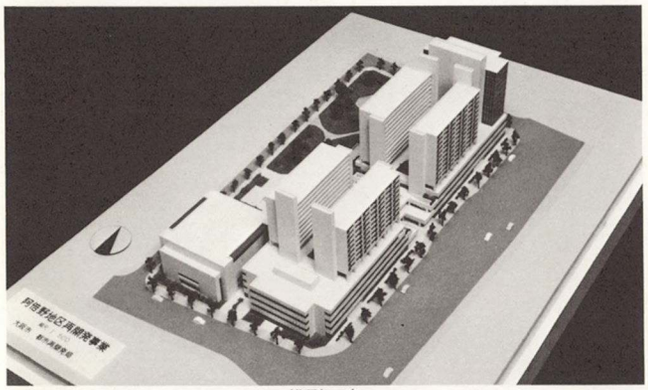
ハード（建物）作りには熱心であるが、ソフト（内容）がついていかないという従来からの文化施設の欠点を、八尾の場合は、明確なポリシーと手間をかける努力をすることにより、市民の信頼を獲得し、市民の主体性を打ち出すことに成功している。ただ、この場合でも誰れが決定するのか、どのようにして市民のコンセンサスを得るかは、今後の課題であろう。

（文責　大阪府建築部営繕室　吉羽逸郎）

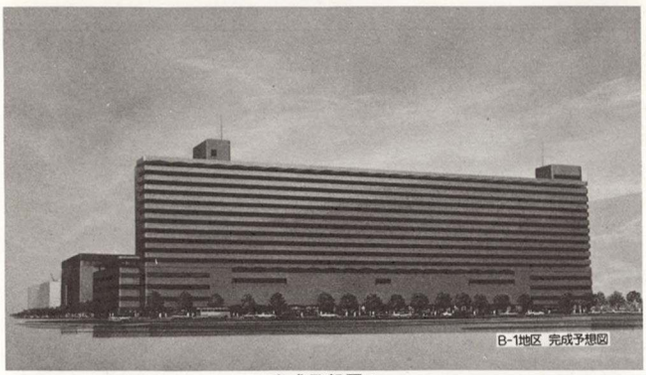
●自治体作品ユニーク事例 6

再開発への試み

阿倍野再開発B1棟(大阪市都市整備局)



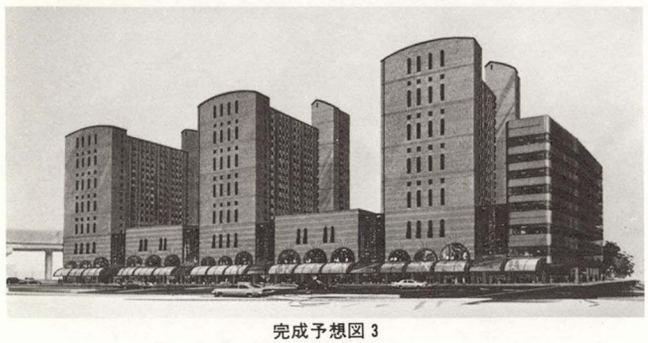
模型写真



完成予想図 1



完成予想図 2



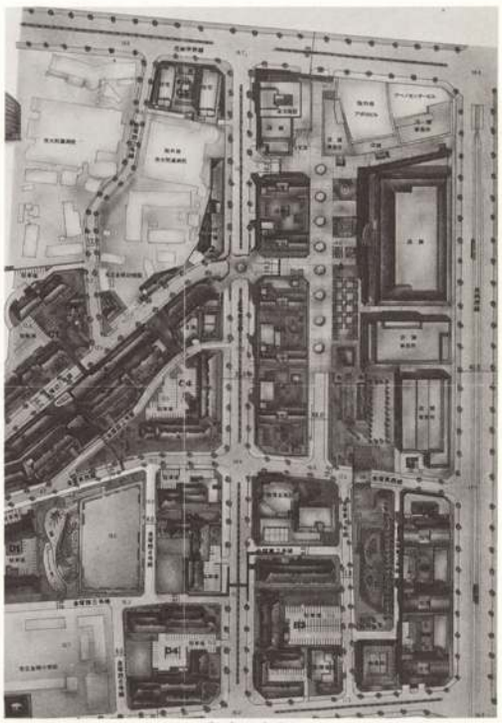
完成予想図 3

設計プロセス	企画・設計	工事	経緯
		39	地元選出議員団より、天王寺ターミナル周辺の市街地改造の促進要望。
		40	「阿倍野開発協議会」(阿倍野区住民有志)より、都市計画道路長柄堺線・尼崎平野線の早期拡幅、上町線地下化要望。
	基本構想	44	都市再開発法公布、事業採択される。阿倍野地区の基本構想(6ブロック案)を新聞発表。
		45	基本構想を再検討し、4ブロックとする。
		46	第1期都市計画予定区域をAブロックを中心とした12.7haとする。(この中にはB1地区は入っていない)
		48	第1期都市計画予定区域内の住民より、再開発反対の陳情書提出。
		49	B、C、Dブロックの一部計4町会から再開発促進の陳情書提出。
	基本計画	50	都市再開発法改正、第2種市街地再開発事業制度の導入。 B1地区基本計画作成 **(模型写真)** (工事を2期に分け1期工事分(南側)に地元権利者である病院を入居させるプラン。住宅は4階～14階で東向2棟、西向2棟。)
		51 9	B1地区C1地区とともに都市計画決定
	基本設計	52	基本設計(東面住宅) **完成予想図 1** (住宅を東向、一部南向として、屋上広場の面積を拡げた。病院は南側)
		53 8	事業計画決定
		54	基本設計の見直し **完成予想図 2** (住宅を南向3棟とし、病院を北側に入れ、商業施設を配置し易い計画とした。)
		55 6	事業計画の変更
		56 3	管理処分計画決定
		8	都市計画区域拡大 (西側に隣接するB2地区を都市計画区域に編入、病院を単独棟とした計画となる。)
	実施設計	57 3	事業計画変更(住宅17階、病院別棟) B1棟現在の案となる。 **完成予想図 3**
	常駐管理	病院棟工事	病院棟、B1棟着工(南側部分)
		58 3	病院棟竣工
		8	病院新ビルに入居 B1棟全面着工
		B1棟工事 59 12	事業計画の変更 (3階の北側を店舗→事務所に変更)
		60 11	地下鉄阿倍野駅との接続部分供用開始
		61 1	B1棟竣工

設計監理　大阪市都市整備局　大建設計　小西設計　昭和設計
所 在 地　大阪市阿倍野区阿倍野筋３－60
敷地面積　約 10,600㎡
建築面積　約　9,700㎡
延床面積　約101,200㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ４、17Ｆ、Ｐ３
工　　期　昭和57年３月～昭和61年１月
最 寄 駅　地下鉄谷町線阿倍野駅

事例選考理由
全国でも数少ない大規模再開発事業の例としてとりあげた。第２種市街地再開発事業制度（管理処分方式）による再開発事業の実践である。


航空写真


完成予想図

阿倍野再開発は大阪市が、大阪駅前再開発に次いで行う大型再開発事業である。敷地およそ28haを４つのブロックに分け、そのうちB1地区と称されるブロックがこのたび竣工した。阿倍野再開発事業の構想発表がなされたのが昭和44年、Ｂ１地区は昭和51年であるから、地区そのものに限っても10年という息の長い計画である。したがって大阪市の担当者もつぎつぎと変わっていく中で事業が進められる。おそらくこれを継続させるものが行政の〝意志〟とでも呼ぶべきものだろう。

大阪市は、都心的機能整備地区、環境改善地区、周辺整備地区という３種の再開発必要地区を定めている。阿倍野はその中で都心的機能整備地区と環境改善地区に位置づけられる。一方、関西新空港の開港をひかえて、ますます発展する、南大阪の玄関口としてふさわしいものとするためにも、大阪第２の交通の結節点である阿倍野ターミナルが選定されたものである。再開発事業の目的はあくまで都市整備にあり器としての建物はむしろ従の役割の感があるが、阿倍野Ｂ１地区では、コスト的にもデザイン的にも、かなり建物そのものに力を入れているようにみうけられた。

阿倍野再開発のマスタープランは計画地区のほぼ中央に南北に走る主道路と、それに直交する道路によって２つのゾーン、４つのブロックに分けられている。南北線の道路東側が主に商業を中心とした副都心ゾーン、西側は住宅ゾーンとしている。その中でＢ１地区は東南偶の商業ゾーンを形成する複合施設である。地下３・４階は駐車場、地下２階～３階は商店街、４階～17階が住宅という構成で、これに事務所棟と体育館、隣接して病院とほとんどすべての用途を有する。この地区だけでひとつの都市機能を満足していよう。

病院はこの地区の既存施設であり、入院されている方の移転計画によって計画が２転、３転している。基主計画着手が昭和50年、現在の形に決定されたのが昭和57年であり、その間に４種類の計画案が作られ、それぞれに大部の計画書がまとめられている。これに費やされたエネルギーは膨大なものであろう。

現在の案は、住宅を３棟南面させ、住宅棟の１階にあたる商業部分３階の屋上は住棟間に屋上広場を設け、子供達の遊び場に供している。住宅棟の妻面が並ぶ姿は、印象深いデザインである。３階迄は赤い花崗右張りとし、住宅の妻面の窓は３階分で一つのパターンを作り、３層を１層に見せる等、高さを強調しない配慮がうかがえる。そのためにスケール感の喪失が、建物に一種独特の雰囲気を与えているのではないだろうか。

色調は全体に赤系統の暖色系を用い、屋根の形態は丸みをおびさせ、大阪駅前再開発のシャープさに対し、暖かみのある街づくりをめざしている。

阿倍野再開発構想が発表されて、17年におよぶ期間を経てようやく、メインとなる施設が完成した。なお、Ｃ１－１地区では、住宅２棟と店舗１棟が完成し、Ｃ１－２地区・Ｄ地区では工事中であり、Ａ地区の着工は未定である。この様に長期に渡る事業の中で何人もの人が関わり続けていく中で、自治体営繕がこれをまとめあげていく役割の大きさを感じた。

このレポート作成にあたり、大阪市都市整備局阿倍野再開発事務所所長許斐國照氏ほか、ご関係の方々にご協力いただきありがとうございました。

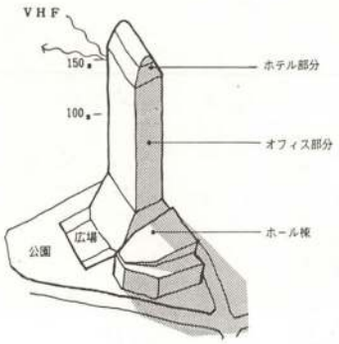
（文責　東畑建築事務所　北村　潤）

●自治体作品ユニーク事例 7

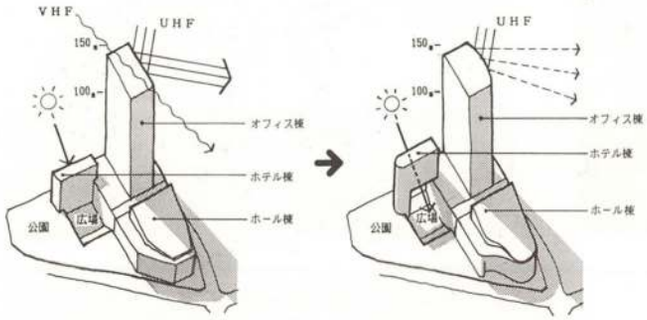
民間活力の導入

埼玉県産業文化センター(仮称)

設計プロセス



電波障害低減のためビル最上部のホテルを別棟とした。



広場への採光を確保し、かつ圧迫感をなくすためホテル棟の足元に大きな吹抜けを設けた。
西側外壁による電波反射を低減させるため曲面とした。



完成予定模型写真(1)



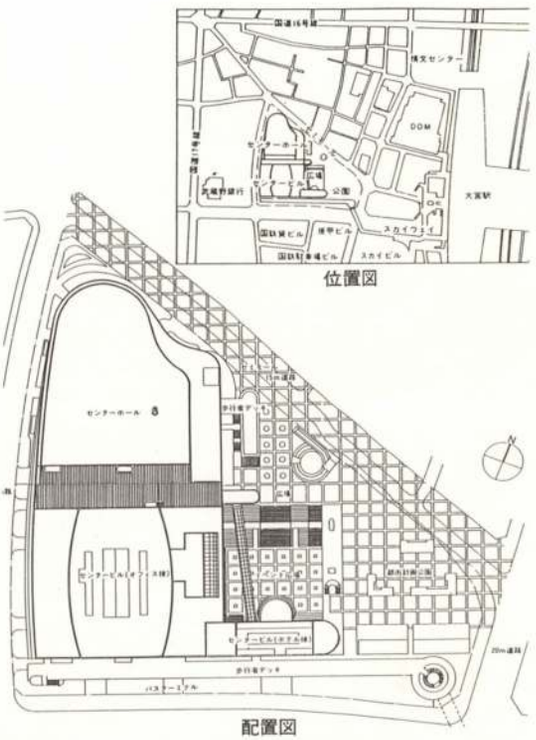
完成予定模型写真(2)

設計	工事	経緯
		51 8 商工3団体から商工会館建直しの陳情
		53 7 埼玉県産業振興センター(仮称)構想策定委員会設置
		10 埼玉県産業振興センター（仮称）構想〈15F案〉作成
		54 中期計画に位置付け（産業文化センターの建設）
		55 産業文化センター(仮称)構想研究会設置（文化機能の付加決定）
		56 3 埼玉県産業文化センター（仮称）構想案〈34F案〉作成
		6 建設場所大宮駅西口決定
		12 産業文化センター建設構想検討委員会設置
		57 2 埼玉県産業文化センター（仮称）建設構想（案）作成に関する調査報告書
		9 中枢都市圏構想（基本構想）に位置付け
		58 5 産業文化センター（仮称）建設構想決定
		8 産業文化センター（仮称）提案競技審査委員会設置
提案設計		59 3 産業文化センター（仮称）提案競技募集要綱配布開始
		8 応募提案書類受領
		10※営繕・設備課評価表作成
		11 産業文化センター（仮称）提案競技審査委員会から審査結果答申
		11 産業文化センター（仮称）建設の入選案及び事業主体予定者決定
基本設計 実施設計		60 3 ※営繕設備、基本設計協議
		5 基本協定締結
		10※実施設計完了
		11 建築確認済
		12 債務負担額の変更・県議会承認
（意匠内部）	山止め及びくい工事	61 1 本体工事着工　起工式
構造設計		3 売買契約・県議会承認
（積算）		
建築確認（申請）		
監理	本体工事	
常駐監理		
（敷地造成）		
	植栽外構工事	
		63 4 竣工・オープン

設計監理　日建設計
所 在 地　大宮市桜木町１丁目
敷地面積　17,489.83㎡
建築面積　12,049.66㎡
延床面積　131,400.04㎡
構造規模　ＳＲＣ、ＲＣ、Ｓ、Ｂ４、31Ｆ、Ｐ１他
工　　期　昭和61年１月～昭和63年４月予定
最 寄 駅　国鉄大宮駅

事例選考理由
街づくり、公共施設建設の手法として、民間活力の導入がいろいろな形で試みられている。複合機能による都市の活性化、民間資金力や経営ノウハウの活用等を目指した埼玉県の例を取り上げる。


完成予想図


位置図　配置図

―― 産業文化センター（仮称）の建設は、民間活力導入の代表といわれていますが、その手法と特徴はどういうところにありますか。

産業文化センター建設準備室　産業文化センターは県の中核都市を育成する「ＹＯＵ　ＡＮＤ　Ｉ構想(中枢都市圏構想)」のリーディングプロジェクトとして計画したものです。そのため、文化ホール、展示・見本市ホールなどの公共施設のほかに、民間企業の管理部門を集積するためのオフィスやこの地域に不足している都市機能である都市型ホテルなどの民間的な施設もあわせもった建物として計画しております。しかし、民間オフィス、都市型ホテルなどの民間的な施設の経営は、県または第三セクターが行っても健全な経営が難しいことから、民間のテナント誘致力、経営ノウハウなどを活用した方式を採用しております。

具体的には、県が所有する土地に、民間企業が自らの資金により建物の建設を行い、県は建物の完成後に公共施設として必要な部分を土地の権利譲渡と引換えに買取る方法、いわゆる「等価交換方式」を採用し、県と民間企業が建物を区分所有することにしております。この方式は、建物の民間部分の所有者である民間企業が、自らの責任でオフィスや都市型ホテルなどの管理・運営することになり、健全な経営が見込めるとともに、建物の建設に要する県の財政負担が軽減できる利点があります。

また、民間企業の選定にあたっては、民間企業の優れた企画力を生かすため、建設・経営等の具体的な事業計画を民間から公募し、最も優れた提案をした企業に、提案した計画に基づく建物の建設を行わせる、本格的な「提案競技方式」を採用しております。この方式は、①民間企業の選定に公平性が期せられること。②民間企業の経営する部分の計画が自ら計画したものであり、運営しやすい計画になること。③公共施設の計画に民間の企画力が活かせること。などの利点があります。

―― 民活ということが、もてはやされていますが、公共建築に携わる技術者にとって今後どのように対応していくべきだと考えておりますか。

産業文化センター建設準備室　結論からいいますと、一般の公共建物と同様設計・工事監理ともに積極的に携わるべきだと思います。「提案競技方式」を採用した産業文化センターの場合は、提案後、審査の下準備として営繕課・設備課の職員が、各案について県の要求している施設の内容が十分検討・配置されているかのチェックを行い、また、入選案決定後、提案の主旨を活かしながら、基本設計の修正・検討を加えていったわけです。その後商工部に産業文化センター建設準備室が開設され、建築・電気・機械の技術者を配属し、営繕課・設備課の応援をえて、日建設計と協議しながら実施設計を進めてきました。また、工事に関しましても、県発注の一般公共建築と同様に工事監理が出来るよう民間企業との協定に盛込んでおり、昭和61年度からは、７名の技術者が監理をすることになっています。いづれにしましても、民活を採用することは、県単独の施設ではないので、ある程度の制約を受けることになりますが、一方民間施設の多機能複合ビルと調和のとれた一体的な公共施設の整備が可能となり、形態的なシンボル性もさることながら、機能的なシンボル性の向上というメリットは大きいと思われ、今後このような手法は増えると予想されますので、この事業を通じて、技術者の立場として、民活の利点を活かしながらどう対応すべきか研究したいと思っています。

（文責　大阪府建築部営繕室　寺西興一）

公共建築作品年表

山形政昭
西川純一

かつての官庁建築という呼称でイメージされるものはかなり硬派で、敷居の高いもののようであったように思う。

しかし、戦後の官庁営繕の仕事はデモクラシーの中で、全く新しい道を歩んでいる。イデオロギー的表現を借りると、市民がこの時代の主役となったからだともいえるが、この時から官庁建築は公共建築へと名を変え、機能、表現を多様に展開してきた。

そのうえ、戦後の公共建築の果してきた役割は大きかった。戦争で大部分を失った国民の生活の復旧、水準の向上を果すために、公共住宅の開発、学校、公立病院の建設等が行われたことがその第一である。また、経済復興、さらにそれに続く高度経済成長の強力な牽引車でもあった。景気の落ちこんだ時期にはきまって公共事業の拡大が要求されることは、いまも同じである。そして新しい民主主義社会の具現化、市民の（国民の）生活文化創造の先導的な役割も、長い間公共建築が担ってきたといえる。

今日「民活」の声高く、ある意味で公共の役割まで民間事業が担える豊かな社会となったが、この時代に公共建築の目指すべきものは何か、過去を振り返りながら考えることも無駄なことではないだろう。

公共建築の年表をまとめるに当っては、まず建築界の大賞である建築学会賞およびＢＣＳ賞を受賞したものを網羅し、次に「建築ガイドブック」（1979年、新建築社刊）に記載されたものの中から、かなり恣意的に名の知られたものを選んだ。また、最近の作品については、筆者およびその仲間の知り得る範囲で加えたものである。

＊　　＊

公共建築の栄枯盛衰が年表に読み取れるならば面白いことであり、その動機づけとして根拠法令を拾い上げてみたが如何であろうか。

公共建築のエースはやはり庁舎、文化会館だろう。戦後いちはやく始まった庁舎の建設は、昭和28年（1953）の町村合併をきっかけに建築ブームとなり、昭和31年～48年の高度経済成長期にはピークをむかえた。文化会館も同様なブームを経験したが、オイルショックの昭和48年に一休止して以後、それまでの多目的ホール型から専用ホールへと性格を変えてきていることは、市民文化の「量から質へ」の成熟を示しているといえようか。

当然のことながら、公共建築の歴史は社会史を忠実に映している。1960年代は東京オリンピック（昭和39年）の開催されたスポーツ振興の時代であり、オリンピック施設だけでなく、各地で多くのスポーツ施設が建設された。

また、昭和43年（1968）に文化庁が設置されたころより、美術館、博物館、図書館等の文化施設の建設が急増し、1970年代の余暇の時代を迎える。

増大する余暇時間の過ごし方が問題視された70年代の年表上の特徴は、青少年の余暇施設、野外活動センターや少年自然の家の建設である。しかし、第２次オイルショックの昭和53年頃を境にこれらの施設が激減するのはなぜであろうか。

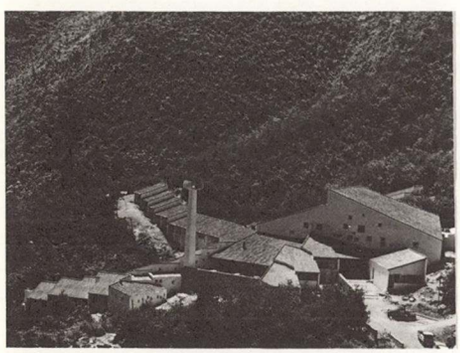
社会福祉施設にみるべきものが現れるのも70年代であるが、福祉行政の考え方はそれ以後に大きく変化し、受益者の応分負担が求められるようになった。高齢化社会の到来を目前にして、80年代の福祉施設には重点的な整備がみられる。

80年代にはいると、地方の時代といわれるようになり、地域主義が浸透するとともに各地で個性的な街づくりが叫ばれはじめる。その施策のひとつとして選ばれたのは、郷土の美術館、博物館の建設である。特に、博物館は千里の国立民族学博物館の成功が、新しいニーズを掘り起したものである。文化ホールとともに、ひとつひとつの施設に個性が求められるようになってきたのは、安定した豊かな時代性といえよう。

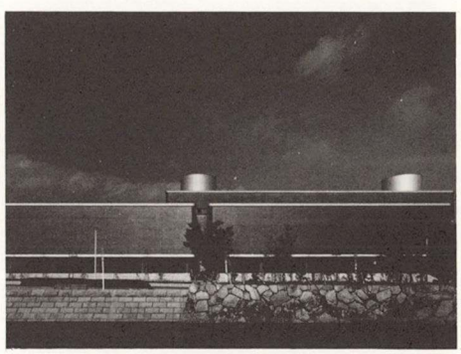
最近では、コンベンションシティをめざす大阪、神戸をはじめとして、大規模な催しの会場づくりが多くみられる。これらは近年よく使われるキャッチフレーズ「イベントの時代」を実践するものであろうが、新しい社会に向けて、公共建築の果たす役割がこれまで以上に問われることになるのだろう。

なお、この年表についてのご意見、ご批評をお聞かせ頂ければ幸いです。

（やまがた　まさあき　　大阪芸術大学講師
にしかわ　じゅんいち　昭和設計調査研究部）



大阪府総合青少年野外活動センター



国立民族学博物館　撮影　大橋富夫



大阪城ホール

1945 1950 1955 1960 1965 1970 1975 1980 1985

一般情勢

- 終戦から戦後へ
- 地方自治法公布
- 文化財保護法公布
- 朝鮮戦争
- 神武景気（'30年下期～'32年上期）
- ＮＨＫ、カラーテレビ実験局を開局
- 名神・東名高速道路全線開通
- 文化庁発足
- 東海道新幹線開業
- オリンピック東京大会
- 日本万国博開く
- 環境庁・国土庁発足
- 光化学スモッグ続発
- オイルショック
- 沖縄海洋博開幕
- 省エネルギー法案閣議決定
- ポートピア'81
- 科学万博開催
- ユニバーシアード神戸大会開催

建築界

- 建設省設置
- 第１回「建設白書」
- 住宅金融公庫発足
- 建築士法・建築基準法公布
- 一級建築士３,100 名免許
- 全日本建築士会発足
- 住宅審議会設置
- 日本住宅公団発足
- 住宅地区改良法公布
- 第１回ＢＣＳ賞（10作品）決定
- 建設省、住宅建設５ヵ年（'36～'40）計画
- 建築基準法改正
- 公共量産住宅推進協議会発足
- 歴史的風土の保存に関する特別措置法公布
- 住宅建設計画法公布
- 都市再開発法公布
- 全国市街地再開発協会発足
- 海洋開発建設協会設立
- 建設省、ツーバイフォー工法の技術基準を告示
- 全国建設業協同組合連合会発足
- 宅地開発公団発足
- 通産・建設両省、ハウス55計画
- 建設省、コーポラティブハウス研究会設置
- 住宅都市整備公団発足
- 建設省センチュリーハウジングシステム(CHS)構想の基本計画発表
- 建設省、ＨＯＰＥ計画実施
- 建設省「住宅性能保証制度」実施
- 日本木造住宅産業協会設立

公共建築 主要作品

福祉施設

- あかつき特別養護老人ホーム
- 金剛コロニー　大阪市身体障害者スポーツセンター
- 県立佐賀コロニー
- 岡山県立総合社会福祉センター
- 藤沢市「太陽の家」
- 大阪府立特別養護老人ホーム“光明荘”
- 大阪府立交野自立センター
- 身延山光風みどり園

青少年余暇施設

- 大阪府総合青少年野外活動センター
- 希望が丘青年の城
- 千葉県 こどもの国
- 宮崎県総合青少年センター
- 愛宕山少年自然の家
- 岡山市立少年自然の家
- 倉敷市少年自然の家
- 沖縄県立石川少年自然の家
- 国立室戸少年自然の家
- 大阪府立青少年海洋センター
- 丹波少年自然の家
- 大阪府立少年自然の家
- サンパレスひらかた

体育・スポーツ施設

- 国立屋内総合競技場
- 東京都立新宿オリンピック施設
- 長居陸上競技場
- 愛知県体育館
- 香川県立体育館
- 名古屋市瑞穂プール
- 岩手県営総合体育館
- 厚生年金新潟市体育館
- 神戸ポートタワー
- 大阪府臨海スポーツセンター
- 東京都立夢の島総合体育館

エキジビション施設

- 藤沢市秋葉台文化体育館
- 大阪城ホール　ワールド記念ホール
- インテックス大阪
- 東京国際貿易センター
- 国立京都国際会館展示場

美術館・博物館

- 鎌倉近代美術館
- 西洋美術館
- 神奈川県立図書館並びに音楽堂
- 鎌倉近代美術館新館
- 西都原考古資料館
- 北海道開拓記念館
- 大佛次郎記念館
- 埼玉県立博物館
- 国立国際美術館
- 佐賀県立博物館
- 兵庫県立近代美術館
- 泉北考古資料館
- 奈良国立博物館陳列館
- 栃木県立美術館
- 島取県立鳥取博物館
- 倉吉博物館
- 群馬県立近代美術館
- 秋田県立博物館
- 北九州市立美術館
- 瀬戸内海歴史民族資料館
- 愛知県緑化センター
- 東京都美術館
- 京都伝統産業会館
- 国立民族学博物館
- 北海道立美術館
- 福井県立美術館
- 岡本太郎美術館
- 群馬県立歴史博物館
- 山口県立美術館
- 福岡市美術館
- 山梨県立美術館
- 岡山市立オリエント美術館
- 富山県立近代美術館
- 佐賀県立九州陶磁文化館
- 奈良県立橿原考古学研究所・附属博物館
- 国立歴史民俗博物館
- 長野県立博物館
- 兵庫県立歴史博物館
- 神戸市立博物館
- 大阪市立東洋陶磁美術館
- 埼玉県立近代美術館
- 福井県立恐竜博物館
- 福井市長岡記念美術館
- いわき市立美術館
- 松崎町立「伊豆の長八」美術館
- 佐野市郷土博物館
- 北海道立三岸好太郎美術館
- 滋賀県立近代美術館
- 神奈川県立近代美術館別館
- 宮城県美術館
- 川崎市立図書館
- 千葉県立中央図書館
- 山口県立山口図書館
- 兵庫県立図書館
- 日野市立中央図書館
- 北九州市立中央図書館
- 群馬県立図書館
- 金沢市立図書館
- 小牧市立図書館
- 神戸市立中央図書館
- 大阪府立国際児童文学館
- 盛岡市中央公民館
- 横浜市瀬谷センター
- 日本学士院会館
- 尼崎青少年創造劇場「ピッコロシアター」
- 全国勤労青少年会館（サンプラザ）
- 玉野市立総合文化センター
- ルナホール
- 遠野市民センター
- 岩手県民会館
- 健康文化センター石川厚生年金会館
- 新潟市音楽文化会館
- 和歌山市民会館
- 芦屋市民センター別館
- 佐野市文化会館
- 沖縄市民会館
- 沼津市民文化センター
- ベルホール
- メイシアター
- 新発田市民文化会館・公民館
- 国立能楽堂
- 国立文楽劇場
- 会館・ホール
- 秋の宮役場
- 山口市庁舎
- 東京都庁舎
- 香川県庁舎
- 大多喜町役場
- 倉吉市庁舎
- 旭川市庁舎
- 神戸アメリカ総領事館
- 大阪営林局庁舎
- 東京空港郵便局
- 中国電電ビルディング
- 倉敷市庁舎
- 羽島市庁舎
- 大分県庁
- 尾崎市庁舎
- 呉市庁舎
- 兵庫県庁舎
- 日比谷電通ビル
- 通信ビル
- 奈良県庁舎
- 仙台市庁舎
- 神奈川県新庁舎
- 岐阜県庁舎
- 北海道本庁庁舎
- 岡山市庁舎
- 栃木県議会棟庁舎
- 高松高等・地方・簡易裁判所
- 大手前電電ビル別館
- 静岡県庁東館
- 高槻市庁舎
- 金沢区総合庁舎
- 荻市庁舎
- 司法研修所庁舎
- 札幌高等地方簡易裁判所合同庁舎
- 九州電気通信局庁舎
- 最高裁判所庁舎
- 大分市庁舎
- 神岡町役場
- 中京郵便局
- 倉敷市庁舎
- 福井県庁舎
- 名護市庁舎
- 宝塚市庁舎
- 前橋市新庁舎
- 京都家庭裁判所庁舎
- 衆議院副議長公邸
- 広島市庁舎
- 天理市庁舎
- 東京高等地方簡易裁判所合同庁舎
- 大阪厚生年金病院
- 東京厚生年金病院
- 関東逓信病院
- 厚生年金浦河原整形外科病院
- 晴海高層アパート
- 横浜市民病院
- 名古屋大学豊田講堂
- 又建公団アパート
- 坂出市人口土地
- 兵庫県立こども病院
- 直島小学校
- 七戸小学校
- 直島中学校
- 広島基町・長寿園高層アパート
- 門真プラザ
- 倉敷中央病院
- 埼玉県立がんセンター
- 国立循環器病センター病院
- 田野畑中学校および寄宿舎
- 東浦町立北部中学校
- 横浜市立恵本第一小学校
- 茨城県営水戸六番地・会神原・三反田団地
- 金山小学校
- 芦屋浜高層住宅団
- 福岡市非常駐場
- 神戸市立中央市民病院
- 東京都立広尾病院
- 宮代町立笠原小学校
- 群馬県立女子大学
- 浦和書場
- 京都市中央書場
- 宝塚市立病院
- 目黒区立宮前小学校
- 病院・学校・住宅
- 庁舎建築
- 大阪市庁舎
- 兵庫県公館

施設補助根拠法令

- 学校教育法　（Ｓ.22法 26 ）
- 児童福祉法　（Ｓ.22法164 ）
- 消防組織法　（Ｓ.22法226 ）
- 墓地・埋葬等に関する法律　（Ｓ.23法 48 ）
- 医療法　（Ｓ.23法205 ）
- 土地改良法　（Ｓ.24法195 ）
- 社会教育法　（Ｓ.24法207 ）
- 身体障害者福祉法　（Ｓ.24法283 ）
- 図書館法　（Ｓ.25法118 ）
- 精神衛生法　（Ｓ.25法123 ）
- 生活保護法　（Ｓ.25法144 ）
- 文化財保護法　（Ｓ.25法214 ）
- 公営住宅法　（Ｓ.26法193 ）
- 森林法　（Ｓ.26法249 ）
- 博物館法　（Ｓ.26法285 ）
- 道路法　（Ｓ.27法180 ）
- と畜場法　（Ｓ.28法114 ）
- 伝染病予防法　（Ｓ.30法 36 ）
- 都市公園法　（Ｓ.31法 79 ）
- 駐車場法　（Ｓ.32法106 ）
- 水道法　（Ｓ.32法177 ）
- 道路整備緊急措置法　（Ｓ.33法 34 ）
- 下水道法　（Ｓ.33法 79 ）
- 運輸省告示第373号　（Ｓ.33年７月30日）
- 精神薄弱者福祉法　（Ｓ.35法 37 ）
- 住宅地区改良法（Ｓ.35法 84 ）
- 道路交通法　（Ｓ.35法105 ）
- スポーツ振興法　（Ｓ.36法141 ）
- 老人福祉法　（Ｓ.38法133 ）
- 厚生事務次官通達　（Ｓ.38年10月16日国第123号）
- 母子福祉法　（Ｓ.39法129 ）
- 河川法　（Ｓ.39法167 ）
- 母子保健法　（Ｓ.40法141 ）
- 都市計画法　（Ｓ.43法100 ）
- 勤労青少年福祉法　（Ｓ.45法 98 ）
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律　（Ｓ.45法137 ）
- 卸売市場法　（Ｓ.46法 35 ）
- 勤労婦人福祉法　（Ｓ.47法113 ）
- 市町村保健センター整備要項　（昭和53年衛発第 379号厚生省公衆衛生局長通知）

・：建築学会賞受賞作品
・：ＢＣＳ賞受賞作品

これからの自治体営繕と公共建築のはたすべき役割は何か

転換期にある自治体営繕と公共建築——

今、自治体営繕の役割の変化とともに、公共建築の役割が変わってきている。かつて自治体営繕は、建築家にとって最良の場で、公共建築建設のにない手であり、日本の建築技術のリーダーシップをとってきたといえる。

しかし、高度成長期以後の建築需要は量も質も、その主体も公共から民間へと大きくその比重が変わり、自治体営繕が従来のようなリーダーシップを取り得なくなっている面もある。

そこで、今回、全国の自治体営繕を対象に「自治体営繕の動向」アンケート調査を行った。

これによると、これからの自治体営繕の役割については、民間との協力による建築活動が より強くうちだされている。また、その中での自治体の役割については、従来のように、民間を先導し、技術者の教育・指導にあたるべしとする意見とともに、これからの自治体営繕は、市民ニーズを的確にとらえ行政内部、民間、市民との調整役・相談者としての役割がふえるだろうとする意見がみられている。

また、これからの公共建築については、機能性・安全性・経済性といった基本条件に加え、街並み・都市景観に寄与すべきとする意見が多く、公共建築の役割が、その建物の目的のほかに、都市・地域の核（ヘソ）づくりに寄与するような活動が求められている。

1．自治体営繕の組織

自治体営繕の職員数は最小22名、最大185名であるが、100名を超える自治体、横浜市、東京都、大阪府、大阪市、神戸市を除くと、平均職員数は40名弱となる。

組織構成の大半（20／34）は、営繕第１班、第２班、設備班という様な班あるいは係によって構成されており、班の単位職員は５名～10名である。

中でも学校あるいは住宅を専門の係として組織化している自治体が10サンプルを数えるが、第１班、第２班という組織でも対象建築によって班分けをしている自治体もあるであろうから学校、住宅という分野は自治体営繕特有のものではなかろうか。

公営住宅においては量から質への転換が計られてきているように、最近の新聞でも報ぜられた大阪市の例では、学校にもようやくとにかく建てればよい時代から地域の環境を考慮した学校建築のデザインの必要性が見直され始めてきている。公的教育の器としての学校建築の空間的質の問題が改めて議論の対象となるべき時代を迎え、営繕の中で学校という対象もまた一つの見直されるべき分野として あらたな体制がもとめられる。

組織構成の中でみうけられた特徴的なことは企画部門を独立した活動母体として、設計している自治体（５サンプル）と総務部、財務部に属する自治体営繕（２サンプル）である。自治体営繕の活動分野が単体建築の設計というハード面だけでなく設計以外のよりソフトな活動分野に拡大している傾向がうかがえて興味深い。

2．建設実績

過去５年間の新築工事の建設件数、工事費ともに、各自治体の平均は、ほぼ横ばい状態であるが、年々減少傾向にある。

平均工事件数は、56年度が166件、60年度が120件であり、56年のおよそ72%、各年５%～10%の減少である。

平均工事費を見ると、56年度が130億9千５百万、60年度が92億６千８百万であり、56年度のおよそ70%、平均工事件数にほぼ一致した傾向にある。

地域別の平均を比べるにはサンプル数に問題があるが、参考としての集計では、東北地方のみが平均件数が300～400件と多く、他は50～150件内外である。

平均工事費では、関東地方が22億～25億円であるが他は５億～10億円内外である。但し、60年度の関東地方は15億円程度に減少している。

平均件数当たりの平均工事費をみると、各自治体平均は各年ほぼ８千万円前後で一定している。一件当たりの工事高が多いのは関西地域であり、各年３億円前後である。一件当たりの工事高は、地方によって差が認められ、東北地方３千万円前後、関東地方１億５千万円前後、中部地方１億円前後、中国地方５千万円前後、九州地方６千万円前後である。これらは各年ともどの地域もほぼ一定していることが認められた。

調査の内容

今回の調査は、以下の４点について行っている。

①自治体営繕の組織実態とその事業概要について

②業務の進め方、業務の外注方式について

③公共建築の建設にあたっての留意点について

④これからの官庁営繕と公共建築のあり方について

アンケート対象とサンプル数

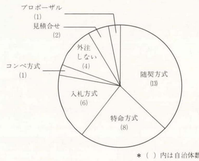
配布及び回収状況

・配布対象　全国府県及び６都市の計53サンプル

・回収結果　28府県及び６都市の計34サンプル

・回 収 率　64%

外注方式



※（ ）内は自治体数

3．自治体営繕の事業の進め方

建物の企画から監理までの事業の流れの中で、何ならの形で外注との共同作業を行なっている比率は８割弱である。物件によって内部処理、外注のそれぞれの場合があるが、ほとんどの自治体が外注との共同によっている。ほぼ全件数にわたって内部のみで処理している３県である。年間件数と営繕職員数を考えれば、全てを内部処理というのは困難であろうが、それでも可能な限り内部処理を行なうという姿勢もうかがえる。

外注内容の内訳は表に見る通りであるが、基本設計を内部処理している比率が約５割、実施設計の外注比率が９割強である。

また、監理を内部処理とする比率は４割弱あり、建物の技術水準を保持するのは監理機能にあるとする意味からだと考えられる。

こうして見ると、もちろんすべてがそうではないにしても、基本設計と監理は内部により、実施設計は外注という仕事の流れを想定する事が自治体営繕の場合に可能である。

この事は、物件と職員数との関係から生まれた苦肉の策であるのかあるいは自治体営繕のもっている体質によるものなのか、おそらくどちらも正であるのだろう。

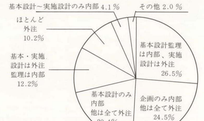
設計事務所による設計・監理、施工会社による設計・施工と異なった体制が存在する事は興味深い。しかしながら、基本設計から実施設計へ、実施設計から監理へという２つの結節点での意志伝達が十分にはかられる必要があろう。

外注比率と内訳

●外注比率



●外注内容内訳比率



4．外注方式

業務外注の方式について、もっとも多い方式は随時契約方式であり、全体の３割である。地域別では、中部・四国にその比率が高い。

ついで、特命方式が２割強、入札方式が１割強である。

中でも、ある県のように単建築設計事業共同組合との随時契約方式をとっているところもある。

特命と随時契約、随時契約と見積り合わせ方式といった複合方式を採用している自治体もある。

めずらしいところでは、プロポーザル（技術提案）による外注決定を行っているケースもある。この場合、プロポーザルと見積合わせの複合方式である。

5．公共建築建設に向けての重要事項

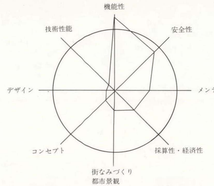
現在時点での重要事項は、機能性、安全性、経済性といった建物の基本的条件に加え、メンテナンス性能を重視する自治体が圧倒的に多い。とりわけ、機能性、安全性に対する要求は高い。

今後、重要になると思われるものはメンテナンス機能、街なみづくり、都市景観、コンセプトの比率が高いが将来の重要項目は、現在の重要項目に加えての意味が強いだろう。

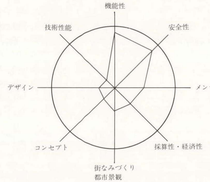
意外であったのは技術性能の重要度が低いことであり、例えば建物の永密性、気密性等は、十分達成されているとの認識があるのだろうか。あるいは実施設計を外注している事にその起因があるのかも

建設に向けての重要事項

●現在



●将来



知れない。

メンテナンス性能が将来の重要項目の筆頭にあがっている背景には、今後、公共建築の改修、改善が増加する傾向にあるだろうことや、設備機器の建物に対する比率が高まることと関係があると見られる。

街なみづくり・都市景観に対する将来の重要性は、公共建築の役割が単体建築として機能すればいい時代から周辺環境を形成する一要素であるという認識がうかがえる。

とりわけ、コンセプトの重要性が将来高まるであろうことは、街なみづくり、都市景観との関連で考えられる。コンセプトを重要項目として掲げている自治体の全てが街なみづくり、都市景観をもまた重要項目としている。すなわち、建物が自身の殻を抜け出す時、コンセプトが必要になるのであろう。

6．今後の自治体営繕と公共建築の役割

今後の自治体営繕の役割においては、民間との協力を第一にうたっている自治体がもっとも多い。その内容の多くは自治体主導型であり、民間を先導する姿勢や、あるいは適正価格、厳重な監理にもとづく公共建築を通じて、間接的な技術者の教育指導にあたるという意見が見られる。既に述べた様に、企画・立案・監理については官がうけもち、設計は民間への委託というパターンを明らかにしている自治体もある。一方、民間の知恵を有効に引き出し、官民一体となって質のよい建物を供給していくという積極的に民間との協力をはかっていこうという意見もあった。

公共建築の役割については、街なみづくり、都市景観に寄与すべきという意見と、当然な事であるが、住民のために役立つべきであるという意見が多い。中でも、地域の環境向上、地域の個性、地域の拠点・核など、地域を共通言語とした意見が多く見られる様に地域に対する意識が強く感じられる。これら街なみづくりへの志向性は、５項にもみられるところである。

もう一つ、公共建築という観点から重要な役割としてあげられているものに安全な場所、防災処点のつくりという意見は、自治体営繕が考える公共建築の役割の一面がうかがえる。災害時の避難所という公共建築の考え方は、都市における建築のあり方として興味深い。

今後増加するであろう公共建築としては、余暇時間の増大、生活水準の向上、生涯教育への思い入れなどを背景とした教育文化施設、高齢化社会の到来に伴う老人福祉施設、また市民の健康と福祉の為の福祉サービス施設が多く掲げられている。

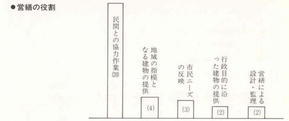
高度情報処理施設という、これからの行政情報の増大をふまえた新しい分野の公共建築を予測している自治体もある。

一方、既存建築物の改修・改善の増大を主体に置き、財政上、新築は減少していくだろうという意見も見受けられる。ＲＣ造が30年以上経っていること、ほとんどの施設整備がおおり、機能性、耐久性の面からも改築の必要性に迫られていることにその背景があるようである。

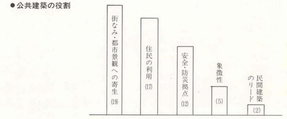
文責　地域計画・建築研究所　北条　誠
〃　東畑建築事務所　北村　浩

今後の自治体営繕、公共建築の役割

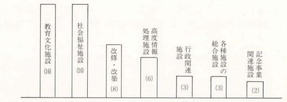
●営繕の役割



●公共建築の役割



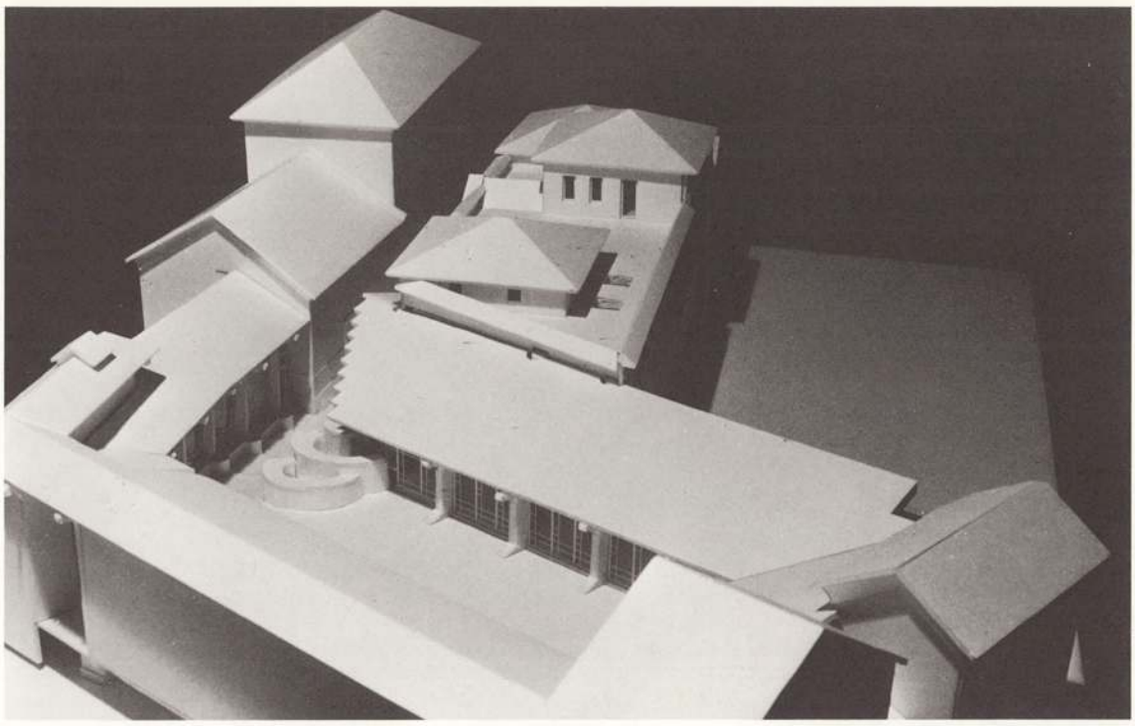
●今後増える公共建築



全国都道府県、主要都市営繕組織一覧

組　織　名	組　織　所　在　地	電　話
北海道住宅都市部工営課	060　札幌市中央区北３条西６丁目	011－231－4111
○青森県土木部営繕課	030　青森市長島１－１－１	0177－22－1111
○秋田県土木部営繕課	010　秋田市山王４－１－１	0188－60－2111
岩手県土木部建築課	020　盛岡市内丸10－１	0196－51－3111
宮城県土木部営繕課	980　仙台市本町３－８－１	0222－63－2111
山形県土木部建築課	990　山形市松波２－８－１	0236－30－2020
福島県土木部営繕課	960　福島市杉妻町２－16	0245－21－1111
○茨城県土木部営繕課	310　水戸市三の丸１－５－38	0292－21－8111
栃木県土木部建築課	320　宇都宮市塙田町１－１－20	0286－23－2516
群馬県土木部建築課	371　前橋市大手町１－１－１	0272－23－1111
埼玉県住宅都市部営繕課	336　浦和市高砂３－15－１	0488－24－2111
千葉県土木部営繕課	260-01　千葉市市場町１－１	0472－23－3217
○東京都財務局営繕部	100　東京都千代田区丸の内３－５－１	03－212－5111
○神奈川県都市部建築工事課	231　横浜市中区日本大通り１	045－201－1111
○山梨県総務部営繕課	400　甲府市丸の内１－６－１	0552－35－5290
○長野県住宅部施設課	380　長野市大字南長野字幅下692－２	0262－32－0111
○新潟県土木部営繕課	951　新潟市新光町４－１	0252－85－5511
○富山県土木部営繕課	930　富山市新総曲輪１－７	0764－31－4111
石川県土木部営繕課	920　金沢市広坂２－１－１	0762－61－1111
福井県土木部営繕課	910　福井市大手３－17－１	0776－21－1111
○静岡県都市住宅部営繕課	420　静岡市追手町９－６	0542－21－2111
○愛知県建築部営繕課	460　名古屋市中区三の丸３－１－２	052－961－2111
○岐阜県総務部管財課	500　岐阜市薮田１－１	0582－72－1111
三重県土木部建築課	514　津市広明町13	0592－24－2150
○滋賀県土木部建築課	520　大津市京町４－１－１	0755－24－1121
○京都府土木建築部営繕課	602　京都市上京区下立売通新町西入	075－451－8111
○大阪府建築部営繕室	540　大阪市東区大手前之町	06－941－0351
○兵庫県都市住宅部営繕課	650　神戸市生田区下山手通５－10－１	078－341－7711
○奈良県土木部営繕課	630　奈良市登大路町	0742－22－1101
和歌山県土木部建築課	640　和歌山市小松原通り１－１	0734－32－4111
○鳥取県土木部営繕課	680　鳥取市東町１－220	0857－26－7111
○島根県土木部建築課	690　松江市殿町１	0852－22－5111
○岡山県土木部建築課	700　岡山市内山下２－４－６	0862－24－2111
○広島県土木建築部都市局営繕課	730　広島市基町10－52	082－228－2111
○山口県土木建築部建築課	753　山口市滝町１－１	0839－22－3111
徳島県土木部営繕課	770　徳島市万代町１－１	0886－21－2500
○香川県土木部建築課	760　高松市番町４－１－10	0878－31－1111
愛媛県土木部建築住宅課	790　松山市一番町４－４－２	0899－41－2111
高知県土木部営繕課	780　高知市丸の内１－２－20	0888－23－1111
○福岡県建築部営繕課	810　福岡市博多区東公園７－７	092－651－1111
佐賀県土木部建築課	840　佐賀市城内１－１－59	0952－24－2111
○長崎県土木部建築課	850　長崎市江戸町２－13	0958－24－1111
○熊本県土木部建築課	862　熊本市水前寺６－18－１	096－383－1111
大分県土木建築部建築課	870　大分市大手町３－１－１	0975－36－1111
宮崎県土木部営繕課	880　宮崎市橘通東２－10－１	0985－24－1111
鹿児島県土木部建築課	892　鹿児島市山下町14－50	0992－26－8111
○沖縄県土木建築部建築課	900　那覇市泉川153	0988－66－2413
○横浜市建築局建築部	231　横浜市中区港町１－１	045－671－2920
○名古屋市建築局営繕課	460　名古屋市中区三の丸３－１－１	052－961－1111
○京都市住宅局庁舎営繕課	604　京都市中京区河原町御池上ル	075－222－3610
○大阪市都市整備局営繕部	530　大阪市北区梅田１－２－２－600	06－347－9324
○神戸市住宅局営繕部営繕課	650　神戸市中央区加納町６－５－１	078－331－8181
○福岡市建築局営繕部建築課	810　福岡市中央区天神１－８－１	092－711－4560

※○は、アンケート調査にご協力いただいた組織です。



仕上
屋根　本瓦葺き
外壁　しっくい塗り青石貼り
内壁　しっくい塗り一部プラスター塗

模型写真(1)

●ニュース1

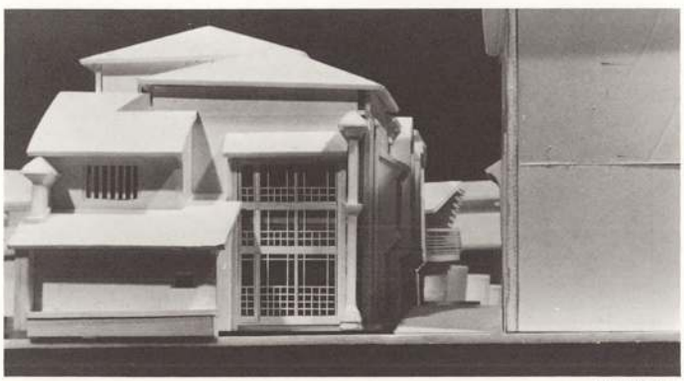
うだつの町並みと脇町立図書館

設計監理	神戸大学重村研究室＋いるか設計集団＋剛建築事務所
所在地	徳島県美馬郡脇町
敷地面積	1,321.50㎡
建築面積	新築部分573.14㎡既存部分285.26㎡
延床面積	新築部分803.60㎡既存部分408.90㎡
構造規模	新築部分RC2、修復部分木造
工期	昭和60年10月～昭和61年6月
最寄駅	徳島本線穴吹駅

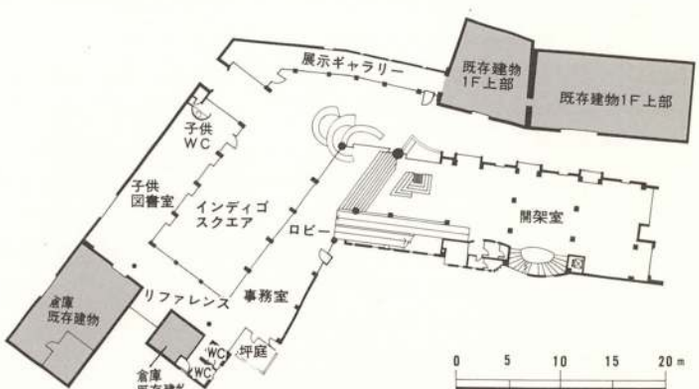
脇町は吉野川の中流北岸にあり、美馬郡の中心地である人口約二万の町である。藩政期から明治にかけて吉野川流域は、藍や藍染の生産で栄え、水運がこれを支えたが、脇町はこの時代藍玉や繭の交易の一大中心であった。この時代の豪商達の繁栄は、この町の街並みに遺されている。鉄道も国道も南岸を通ったためと、大正以降化学染料に押されて藍が落ち込み町が変化しなかったために、この町並みは、今日まで残ることになった。間口の広く、骨太の町家で全て、本瓦葺き、上階はしっくい塗りごめで、虫籠窓があり、独特な形式のうだつが並ぶ、下階は、骨太の格子の美しい、重厚な構えである。数haにわたってこれらの立ち並らぶ景観は、繊細な畿内の町家を見慣れた目には、いわばバロックの町家ともいうべき堂々たる街並みに映る。数年前明石工専の渡辺助教授らによって調査されるまでは、建築史や文化財や観光資源の面からも注目を浴びてはいなかったが、近年町内の文化運動として町並み保存が動きはじめた。'84年度に、神戸大学の私の研究室と都市環境研究所および徳島県建築士会青年部町並研究会の作業によって策定された徳島県のＨＯＰＥ計画で、制度的にも町並み保存が位置づけられることとなった。

脇町立図書館は、この調査作業の中で発案されたプロジェクトである。この市街地の代表的な町並み景観である、中町通りと南町通りとの間にまたがる敷地にあった農協と農業倉庫は、相当老朽化していたがしっくいの美しい外壁をもっており、町並みのいわばキーストーンのような位置にあった。このプロジェクトは、この敷地にある六棟の建物のうち、一棟だけを壊わして建て替え、五棟の古い倉庫を建て起こし、修復し、Renovationすることにより、図書館とギャラリィや、集会機能や、この町のまつりの屋台の保存庫に転用する計画である。町並みの再活性化の一つの姿を示すとともに、町民サロンや広場や町づくり相談室を媒介にまちづくりの核にしようとする計画でもある。このプロジェクトは保存・転用に必要な技術の導入や、新旧技術のとり合わせを試みるとともに、伝統技術や、伝統的地場系材料の堀り起こしを積極的に行ない、町並みのRenovationに必要な、技術と材料と人とを産み出すことをも大きな目標の一つにしている。

（重村　力）



模型写真(2)



2階平面図



●ニュース2

アゼリアハウス

吹田市営千里山住宅

設計監理　上田篤＋都市工房(基本)、小西設計(実施および監理)
所在地　吹田市千里山月ヶ丘2番
敷地面積　4,524,10㎡
建築面積　1,427.359㎡
延床面積　3,874.73㎡
構造規模　RC、3F
工　期　昭和59年11月～昭和61年3月
最寄駅　阪急千里線千里山駅

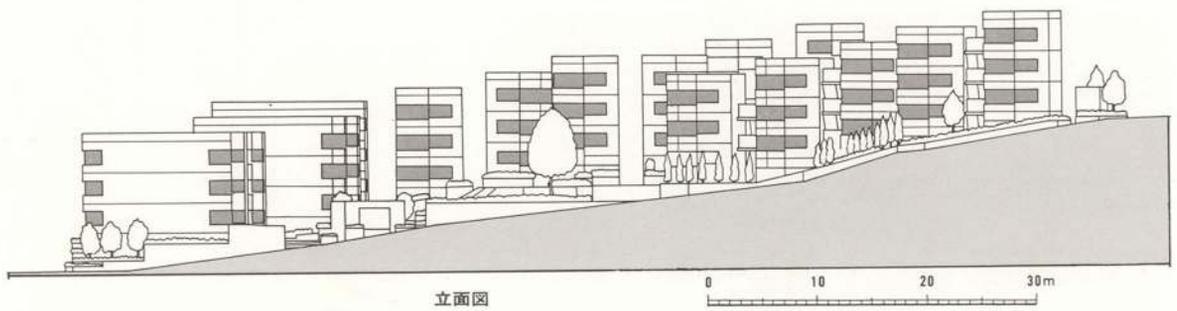
アゼリアハウスとつぎのアカミズハウスは、ともに建築を「地」、外構を「図」とした考え方による。
アゼリアハウスの敷地は、高低差が最高14mある傾斜地である。この傾斜地の南側に日のあたる広場をとり、「図」の中心とした。そして、この広場から各戸へ至る通路を、ちょうど1本の幹から伸びる何本もの枝のように計画した。また、傾斜地であることを利用し、通路のあちこちに階段、スロープなどを多用し、平面的にも、立体的にも変化に富んだオープンスペース群とした。イタリアにみられる山岳都市のイメージである。各戸へはすべて広場を通ってアプローチするだけでなく、全部の家々から広場がのぞめるように考えた。広場は住宅地全体の要の位置にあり、住棟は広場をコの字型に囲むように配置した。
住戸は3壁面が開放される集合住宅とした。なおアゼリアは「吹田市の花」であり、庭園に多数植えた。

（上田篤＋都市工房）

注）カラーグラビア頁に掲載



平面図



立面図



●ニュース3

アカミズハウス

坊津町松ヶ迫公営住宅

設計監理	上田篤＋都市工房
所在地	鹿児島県川辺郡坊津町坊津7472－18
敷地面積	1,237.67㎡
建築面積	364.06㎡
延床面積	596.22㎡
構造規模	型枠コンクリートブロック、２Ｆ
工期	昭和60年10月～昭和61年３月
最寄駅	指宿枕崎線枕崎駅

このアカミズハウスの計画は、つぎのような特色をもつ。

①坊津に多く産出する赤水石（あかみずいし）という堆積岩を材料としてコンクリートブロックを作り、これを型枠とする「ＣＰ型枠コンクリートブロック造」とした。「地方色」を生かすとともに、コンクリートのかぶり厚さを確保し、海岸地帯での鉄筋の腐食防止に役立てるためである。

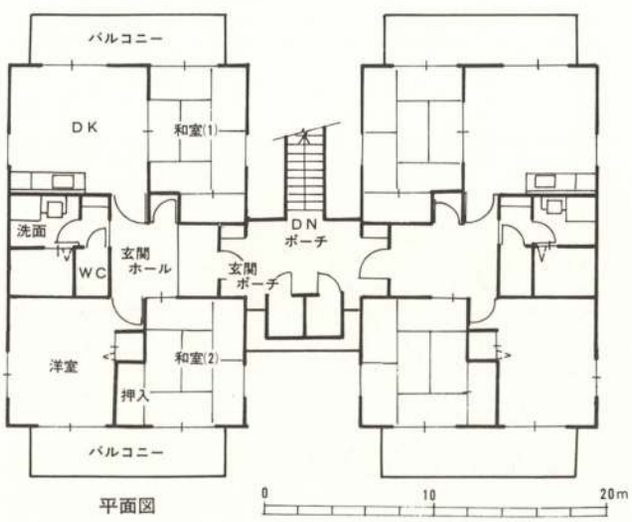
②台風常襲地帯という地域性により、寄棟屋根を採用し、かつ、その際に多出する軒樋・竪樋を大きな角パイプとし、近代建築一般にみられる「樋を穏すデザイン」とは逆に「樋を強調するデザイン」とした。

③配置の方針は、中央中庭のパーゴラに向かって２棟の玄関が向きあうようにした。ここは人々の生活の中心になるものと考えている。

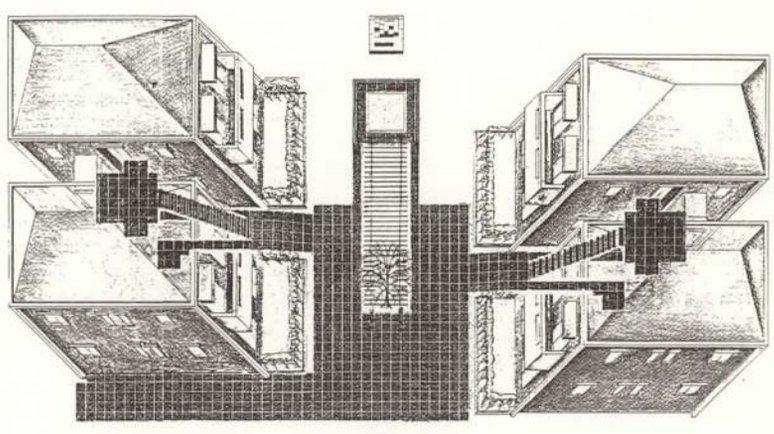
④住戸の平面計画では、玄関を広くとり、日常の接客は、ここで行なえるようにした。

⑤１住戸の４壁面が解放される集合住宅とした。

（上田篤＋都市工房）



平面図


アイソメ

●ニュース4

筑波研究学園都市の公共建築

住宅・都市整備公団による肩替建設――

筑波の地に研究学園都市の建設が始まって20年近くの歳月が流れた。この間に筑波大学や建築研究所など予定された46の教育・研究機関の移転は完了し、研学地区内で3万5千人、新都市全体（関連6ヶ町村合計）では14万人が住む都市に成長した。研学都市の開発事業は住宅・都市公団が行っており、都市基盤の整備はほぼ終っている。また、新しい住民の大半が公務員であることから、約8千戸の公務員住宅が建設された。しかし、都市生活を営むには小・中学校や公民館などの公共施設が必要であり、これらの急速な建設は地元自治体にとってかなり負担である。

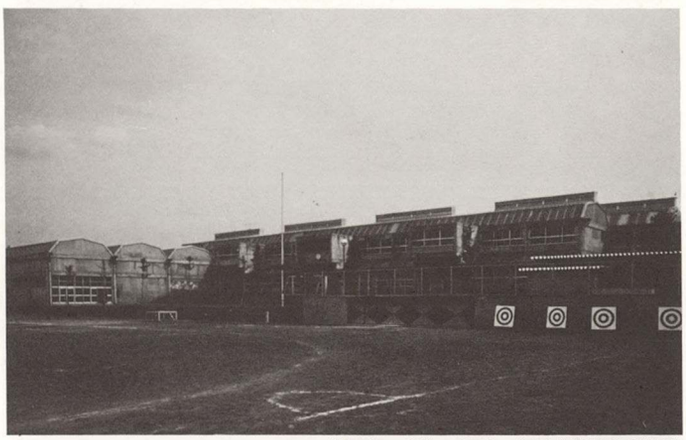
ご存知のように、ニュータウンや団地の建設に伴って必要となる公共施設については、関連公共公益施設の立替施行制度があり、公団資金で建設費を立替、整備しているが、研学事業ではいわゆる補助ウラ（小・中学校は除く）や超過負担分についても、都市開発事業費の中でまかなう財政上の特別措置が講じられている。さらに、施設の設計・建設についても住宅・都市公団が自治体からの委託を受けるなどの方法で肩替施工している。

公団のつくば開発局（旧研究学園都市開発局）では、このため昭和49年から建築課を設け、別表のように40以上の公共建築を建設してきた。研学事業は日本を代表する街づくりであり、かなり高い水準の都市基盤整備がされているが、公共建築もそれに見合うよう一定の質を確保してきていると思う。ただ新住民のための新施設ということで利用者はもちろん、運営管理者である自治体からも特別な要求があまり出されないため、平面計画などは一般的なものが多くなっている。また、公団では実施設計までのスタッフを組織する余裕はないので、いろいろな設計事務所が設計にたずさわっており、研学スタイルとでも呼べるような作風を生み出すまでにはいたっていない。

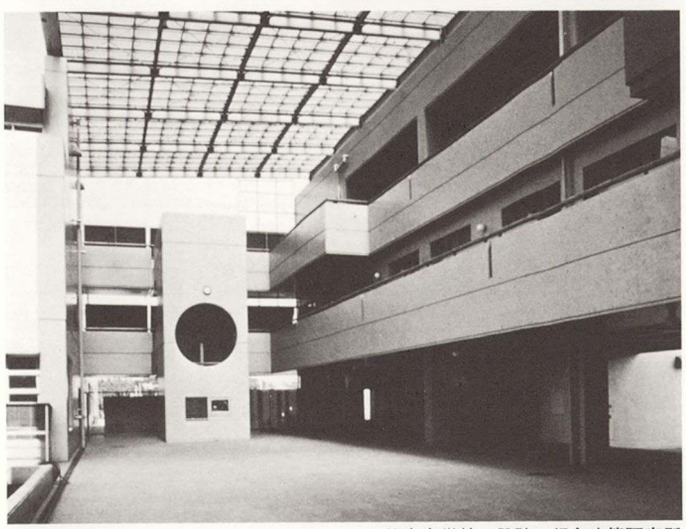
そうした中でエポックとなったのはつくばセンタービルであった。これは茨城県の情報センター、地元桜村の音楽ホール（ノバホール）・公民館と、ホテル・ショップを複合したビルで、研学都市都心部のまさにセンターであり、磯崎新氏による設計はポストモダンの代表的建築として有名である。ポストモダンについてはあれこれ議論もあろうが、伝統のない人工の街では有効な手法として評価されており、センタービル以後も、桜南児童館、春日公民館（建設中）など、ポストモダンと呼ぶかどうかはともかくとして、気まじめなモダニズム建築とは違った公共建築が研学都市の街角に新しい景観をつくり出している。

今後も数多くの公共建築が予定されているが、定着しつつある都市住民の要求を適切に吸み上げていくことと、人工の街に潤いを与えるデザインの追求が私たちの課題だろうと考えている。

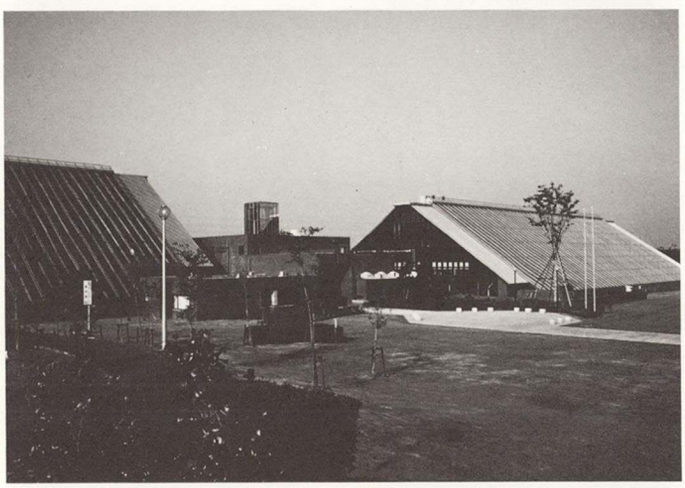
（住宅・都市整備公団つくば開発局事業部建築課長　鎌田一夫）



竹園東小学校　設計　共同建築設計事務所



並木中学校　設計　坂倉建築研究所



洞峰体育館　設計　大高建築事務所



つくばセンタービル　設計　磯崎　新アトリエ



春日公民館(模型写真)　設計　都市研究所

筑波研究学園都市公共施設一覧　　＊（　）は竣工年度

小学校		手代木保育所	(54年)
竹園東小学校	(49年)	児童館	
並木小学校	(52年)	竹園児童館	(51年)
吾妻小学校	(53年)	並木児童館	(51年)
手代木南小学校	(54年)	吾妻西児童館	(53年)
中学校		手代木児童館	(54年)
竹園東中学校	(49年)	吾妻東児童館	(58年)
並木中学校	(53年)	桜南児童館	(59年)
手代木中学校	(54年)	公園内施設	
給食センター		新都市記念館	(50年)
桜村立給食センター	(51年)	洞峰体育館	(54年)
谷田部町立給食センター	(54年)	洞峰フィールドハウス	(53年)
幼稚園		松見展望塔・レストハウス	(50年)
竹園東幼稚園	(48年)	二宮フィールドハウス	(53年)
並木幼稚園	(51年)	交通公園管理棟	(53年)
吾妻幼稚園	(53年)	中央公園レストハウス	(59年)
桜南幼稚園	(53年)	中央公園民家	(59年)
手代木幼稚園	(54年)	手代木フィールドハウス	
公民館		その他の施設	
並木公民館	(53年)	つくばセンタービル	(58年)
竹園公民館	(49年)	竹園ショッピングセンター	(49年)
手代木公民館	(55年)	並木公益施設	(51年)
小野崎公民館	(工事中)	手代木公益施設	(54年)
春日公民館	(〃)	交通関連施設	(59年)
保育所		共同溝管理センター	
竹園保育所	(51年)	真空集塵センター	
並木保育所	(51年)		
吾妻西保育所	(53年)		

●ニュース5

「営繕部利用の手引き」

神戸市がパンフレットを発行——

神戸市の営繕部は、このたび「営繕部利用の手引き」という冊子を庁内の各局に向けて発行しました。この小冊子は、2月7日に行なわれた「昭和61年度営繕業務説明会」配布資料として作成したものです。民生局・教育委員会などの各局が財政当局に対して、建築工事を伴う予算要求する場合に必要となる「営繕計画書」→「営繕見積り」の作成要領、他に簡潔にまとめられています。地方自治体の内部資料としては珍しく「手引き」というとっつき易いタイトルにしたのは、「行政内部における建築技術力の提供と活用」という昭和60年度機構改革の趣旨を反映したからです。

ところで、今回の営繕部機構改革は、昭和46年以来14年ぶりの大幅な内容でした。主要点はつぎの4点です。

1. 建築企画・計画段階からの営繕部の参画（調査係の充実）
2. 設計・工事一貫体制への復帰と地域担当制の導入
3. 建設の時代から管理の時代への対応（計画保全係の新設）
4. 検査部門の独立と技術の効率的蓄積（技術管理係の新設）

機構改革の越旨は、この一年の間に各局にも営繕部内部にも定着しつつあると思われます。「営繕部利用の手引き」は、こうした傾向をいっそう進めようとする狙いで発行しました。

ひるがえって考えてみると、もともと官庁営繕組織は、各局がニーズを把握し、行政目的を立て、予算化したものを執行するという立場にあり、いわば各局に利用される組織です。一方、最近のように社会が複雑になり地方財政がひっぱくしてくると、各局とも、用地、あるいは施設内容についての詳しい検討なしには事業化できないという状況にあります。ここで、「営繕部のもっている技術的蓄積、技術力を活用してより良い行政目的を達成しましょう」という越旨の冊子をまとめる必要が生じていたともいえるでしょう。

この冊子は、なにぶんにも限られた時間内に作成したもので、不十分な内容でしかありません。今後、各局の反響を折り込んだ「手引き」に発展させたいと考えております。

（神戸市住宅局営繕部営繕課調査係長　増渕昌利）

「営繕部利用の手引き」目次

1. 住宅局営繕部組織図
2. 事務分掌（抜粋）
3. 営繕工事のヒヤリング、見積等の日程
4. 昭和61年度予算ヒヤリングの日程
5. 営繕工事の工事依頼について
6. 営繕工事の事務費・委託料について
7. 小修繕と補修工事の区分について
8. その他の依頼について
9. 営繕フローチャート
10. 工事関係書類の保管についてのおねがい

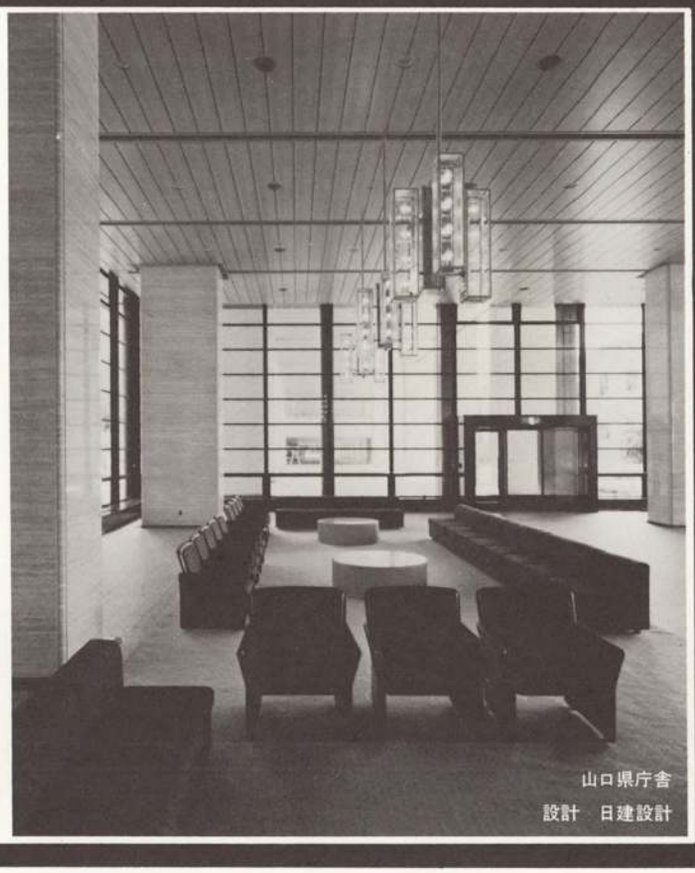
ENVIRONMENTS FOR PEOPLE

家具・造作・建材
船舶・航空機内装
建築 ・ 商業施設
特殊建造物 等の
設計 施工

DAIMARU
大丸・装工事業部
大阪・東京・名古屋・京都・神戸
福岡・仙台・広島・シンガポール
TEL.(06)252-0641 (03)271-3626



兵庫県公館
設計 兵庫県都市住宅部営繕課

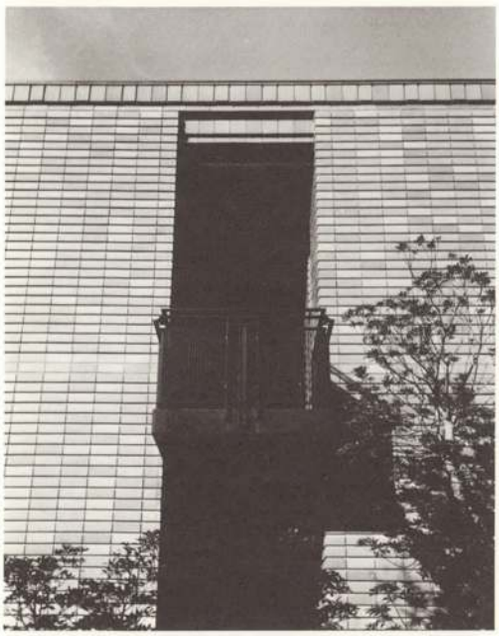


山口県庁舎
設計 日建設計



大阪市立東洋陶磁美術館　設計監理　大阪市都市整備局／日建設計

INAXは環境美を創造し提供します。



営業品目

タイル

●内装タイル　●外装タイル　●特注外装タイル　●床タイル　●クラフトタイル

新建材・新素材

●ハンギング　●タイルパネル　●GCM

住宅設備機器

●浴槽　●気泡浴槽　●ユニットバスルーム　●洗面化粧カウンター　●洗面化粧台
●システムキッチン　●鋳鉄製ホーローシンク　●給湯機器(ターボシリーズ)

衛生設備機器

●洋風便器　●和風便器　●シャワートイレ　●軽水洗便器　●小便器
●トイレ用水栓金具　●キッチン用水栓金具　●バス用水栓金具　●各種水栓金具
●手洗器　●洗面器　●医科用手洗器　●福祉機器　●寒冷地用器具
●タンク　●浄化槽　●汚水処理施設

INAX 株式会社INAX

本　社	〒479 愛知県常滑市鯉江本町3丁目6番地　TEL 05693−5−2700
東京本部	〒104 東京都中央区京橋3丁目6番18号　TEL 03−561−1710
大阪支店	〒550 大阪市西区新町1丁目7番1号　TEL 06−532−6081
支　店	札幌　仙台　東京　名古屋　金沢　高松　広島　福岡
ショールーム	札幌　山形　仙台　宇都宮　東京　横浜　松本　静岡　名古屋　新潟　金沢 京都　大阪　松山　高松　松江　広島　福岡



八日市市図書館および保健センター　設計　石本建築事務所

タイルだって「利き」わけられる。

微妙な違いが大きな違いになる。

たとえばお酒を利くように、タイルだって利きわけられます。よいタイルは、まず手に取った感じから違います。その事実を、「テラ」でお確かめください。

「テラ」は、美濃地方の良質の土と最先端の焼成技術ではじめて実現できた炻器のなかの炻器。組成が密できわめて硬質です。しかし手触りはけっして冷たくありません。大地の記憶につながるあたたかさにあふれツヤや発色の冴えとともに風合いの美しさはひとしお。「テラ」は、黙っていてもはっきりとそれとわかります。

施工実績も急増中。現代の新しい建築空間にナチュラルな質感とともに、きわめて豊かな造型感を与え、雨や風にさらされるほど、特質がいよいよ際立つ「テラ」。発売以来3年、おかげさまで施工実績も急増中です。(写真は、「テラ」シリーズ ベベルボーダー二丁掛けタイルによる施工例)

ナチュラルズ志向の最高品質炻器質外装タイル

インターセラム テラシリーズ

窯元 開山窯インターセラム(JIS表示許可工場) 総発売元 エービーシー商会

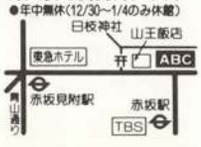
ショールームへどうぞ。

建材の新しい視点

イノベーションプラスリノベーション

床、壁、天井材から、照明、厨房浴槽製品までお求めやすく豊富に、ショールームへぜひ…

東京 03(507)7117
●年中無休(12/30~1/4のみ休館)



大阪 06(943)2839
OMMビル8F●日曜・祭日休館



名古屋 052(263)1455
昭和ビル1F●日曜・祭日休館



お問い合わせは
札幌 011(231)7904
仙台 0222(97)1811
大宮 0486(42)2624
東京 03(507)7155
名古屋 052(251)4411
大阪(南) 06(943)2831
広島 082(221)3096
福岡 092(451)5541
沖縄 0988(53)3722

●カタログをご請求ください●

(株)ABC商会

〒100 東京都千代田区永田町2-12-14
宣伝課NA-EC係



なにわ会館
設計　東畑建築事務所

公立学校共済組合「なにわ会館」家具工事製作業者

髙島屋装飾事業部
関西装飾部
〒542 大阪市南区難波５－１－５
ＴＥＬ(06)632－3191

近鉄百貨店
外商本部装工部
〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目1番43号
阿倍野共同ビル６Ｆ
ＴＥＬ(06)624－1111

阪急百貨店室内装飾部
〒530 大阪市北区茶屋町１番27号
山岡メモリアルビル
ＴＥＬ(06)372－2617

企画：日本建築協会



プロのノウハウ

……建築に携わる人へのヒント

知りたくても知るすべがなかったこと，書きたくても公には書けなかった
さまざまなトラブルの事例・原因・対策から，その解説・ヒントまで——

最新の設備や技術ゆえに起こるトラブルから，いつも失敗をしながら明確な解決策が出されなかったトラブルまで，現場サイドの技術や知識に裏付けられた，実際に起こった事例とその対策の数々．トップレベルの技術者たちの知識と勇気を結集してまとめた．空調設備や衛生設備で失敗しないための方法や技術をすべて盛り込んだ，画期的なトラブル解消のトラの巻である．

空調設備のトラブル50

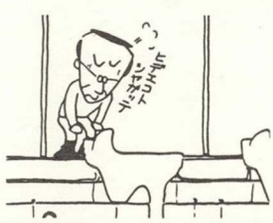
四六・224頁・定価1800円　**建築設備トラブル研究会著**

●内容概略
1　熱特性にまつわるトラブル
2　梁と天井裏スペースにまつわるトラブル
3　シャフトまわりのトラブル
4　ガラリまわりのトラブル
5　屋上・屋外設置機器まわりのトラブル
6　空調機械室まわりのトラブル
7　居室内のトラブル



衛生設備のトラブル50

四六・224頁・定価1800円　**建築設備トラブル研究会著**



●内容概略
1　地中・床にまつわるトラブル
2　シャフト・壁・便所にまつわるトラブル
3　浴室・外壁にまつわるトラブル
4　地下・屋上にまつわるトラブル
5　腐食にまつわるトラブル
6　給水・給湯にまつわるトラブル
7　排水にまつわるトラブル

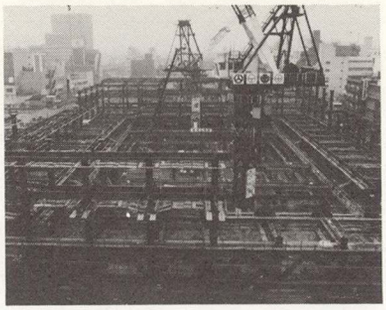
〈目録進呈〉

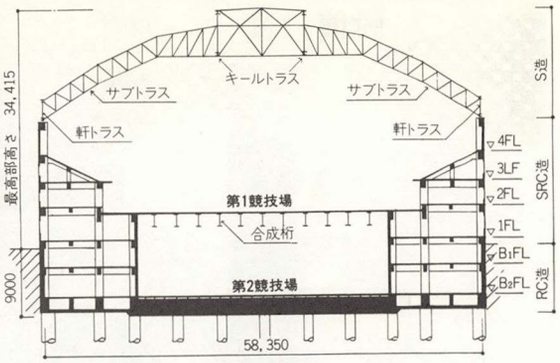
学芸出版社
〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL 075(343)0811

構造の頁

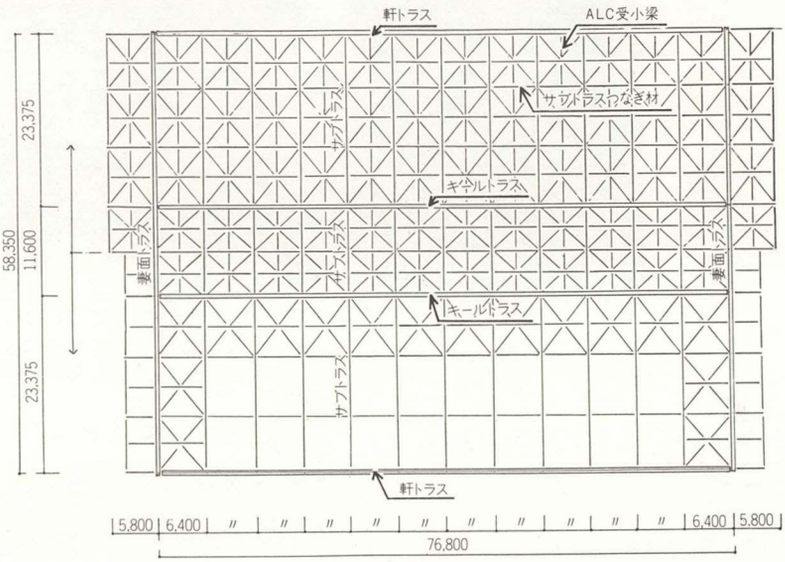
139 大阪府立体育会館の構造計画

山口　猛

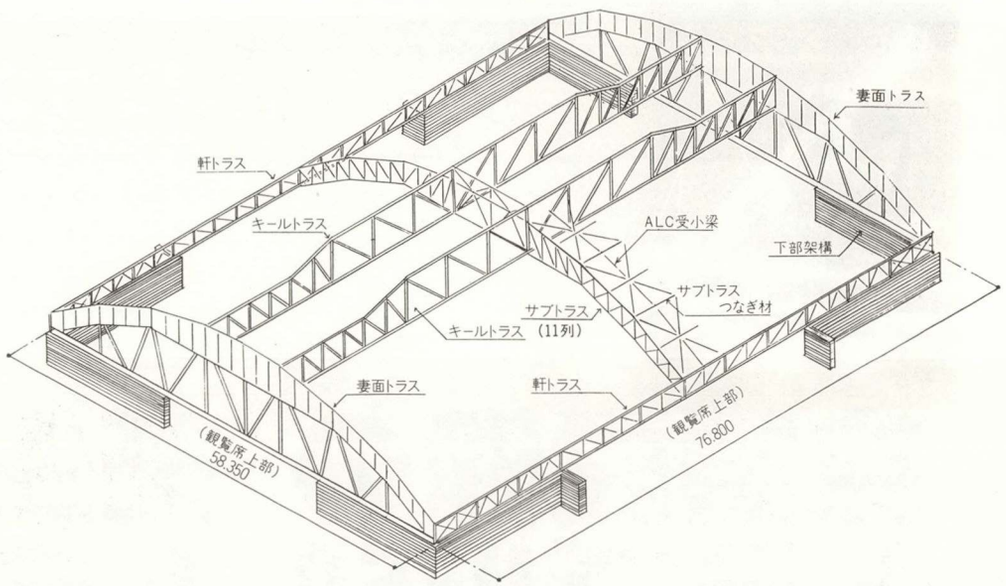




図－1　主体構造形式(1：1000)



図－2　屋根鉄骨梁伏図(1：1000)



図－3　大屋根架構概念図(1：1000)

建物概要

所 在 地　大阪市浪速区難波中３－４－36
主要用途　体育館
敷地面積　8,357㎡
建築面積　7,171㎡
延床面積　28,318㎡
規　　模　地上４階・塔屋１階・地下２階
高　　さ　軒高20.2m、最高部高34.4m
架　　構　B_2～B_1階　鉄筋コンクリート造
　　１～R階　鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨合成梁
　　屋　根　鉄骨造
基　　礎　鉄筋コンクリート造ベタ基礎
地　　業　場所打ちコンクリート杭(アースドリル工法)
　　1,000φ～2,000φ(総本数219本)

大阪府立体育会館は、大阪のみなみの中心地である難波に位置し、約3,000㎡の第1競技場を中心に、第２競技場、柔・剣道場、多目的ホール、スポーツ情報コーナー等を配し、スポーツ競技だけでなく文化的各種行事も開催できる機能を備えている。昭和60年４月工事着工以来、昭和62年１月竣工をめざして軀体工事が急ピッチで行われており、完成のあかつきには大阪府の体育・文化の中心施設として活用されることが期待されている。

主体構造形式

本建物は図－１に示すように、地下２階、地上４階の規模を有し、その構造形式は第１競技場を覆う大屋根（長辺×短辺 76.8×58.35m）を鉄骨構造とし、４階以下の下部構造は下層へ順次鉄骨鉄筋コンクリート構造(一部鉄骨構造)、鉄筋コンクリート構造としている。耐震壁はできるだけ対称になるように配置し、とくに大屋根を支える直下の架構は大屋根の四隅に堅固なＬ形の耐震壁を設け、大屋根荷重が確実に下部架構に伝達されるようにしている(図－３)。

基礎底はGL-9m付近であるが、基礎底位置の地層は沖積層にあたるため、GL-23m以深にある洪積砂礫層を支持地盤とし、場所打ちコンクリート杭にて建物重量を支持している。地下部分には床面積の広い第２競技場(900㎡)、柔･剣道場(各450㎡)を備えているが、水圧による浮力には礎板の厚さを大きく(２m)して自重を増大させることにより抵抗させている。

大屋根架構形式

第１競技場の大屋根は半径約50mの円筒形の一部で形成されており、投影面積は、約4,500㎡である。

屋根の架構方法は、図－２、図－３に示すように、両妻面にアーチ状の梁を設け(妻面トラス)、この妻面トラス間に棟付近に２本のトラス（キールトラス、支持スパン76.8m）および軒トラスを架け渡し、キールトラスと軒トラス間に円筒形屋根形状に対応したサブトラスを設けている。

したがって屋根荷重の伝わり方は、ＡＬＣ受小梁、サブトラスつなぎ材、サブトラス、キールトラス(軒トラス)、妻面トラス、下部架構の順となり、作用荷重はキールトラス、妻面トラスで非常に大きくなっている。

この荷重に対応するために、キールトラスの中央部では屋根面モニター架構も取りいれたトラス丈(6.3m）とし、最大板厚60㎜(ＳＭ50Ａ)、妻面トラスはアーチ丈12.9m、最大板厚32㎜（ＳＭ50Ａ)としている。

参考文献
「建築と社会」昭和60年９月
「体育施設」　昭和60年12月　Ｐ26～Ｐ29

（やまぐち　たけし　日建設計大阪本社構造設計主管）

設備の頁

139
フレキシビリティーのある工場用配線ダクト

大西　勲

産業界ではＦＡ化、ＦＭＳ化が急ピッチで進展し、工場設備の増設、移設等、レイアウトの変更が頻繁に行われている。これに伴う電気配線も、これら設備機器の電源として重要な役割を果たしているが、従来のような、分電盤から負荷までの配線が固定化された電線管工事やケーブル工事を、レイアウト変更ごとに繰り返していたのでは、やり直し工事の手間とコストがかかり、大変不経済である。

そこで、頻繁に行われるレイアウトの変更に、簡単な電気工事でスピーディに対応ができ、しかも安全で経済的なフレキシビリティーの高い配線システムとして普及しつつある工場用配線ダクト「ファクトライン」を紹介する。

1．システムの構成

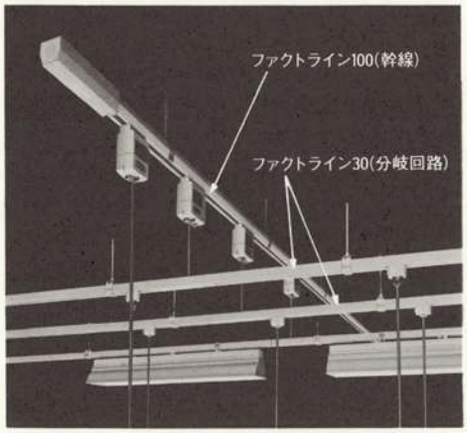


図1　ファクトライン100、30の構成例

配線ダクトの機能は、ライン状に敷設されたダクト本体の連続した開口部に、負荷を分岐するためのプログラムを取り付けることによって、どこからでも負荷の分岐配線が簡単にできることである。したがって、システムを構成するための部品として、ダクト相互を接続するためのジョイナ、ダクトに電源を接続するフィードインキャップ、ダクト端末を閉そくするエンドキャップ、ダクトを造営材に固定するハンガ、およびダクトから負荷を分岐するプラグ等で構成されている。

図1に、システム構成の一例を示す。

2．ファクトラインの種類および用途

ファクトラインの種類、定格を**表1**に示す。

ファクトライン15　2線式15Aのダクトで、主に容量の小さな負荷や照明、コンセントの電源として使用する。

ファクトライン30　4本の導体を上段と下段に分けて内蔵している4線式30Aのダクトで、3相電源なら1回路、単相電源なら1本のダクトを上下2回路に分けて取り出せ、多数の負荷に電源を供給することができる。たとえば上段からは照明電源、下段からはコンセント電源として使えば、従来別々の配線をしていたものが、1本のダクトで配線することができる。

ファクトライン100　2種類の導体を上段と下段に分けて内蔵している。上段は3相100Aの幹線として、または大型負荷への直接分岐用に、下段は2Ｐ20Aまでの容量の小さな負荷や照明、コンセントの電源として使用することができる。

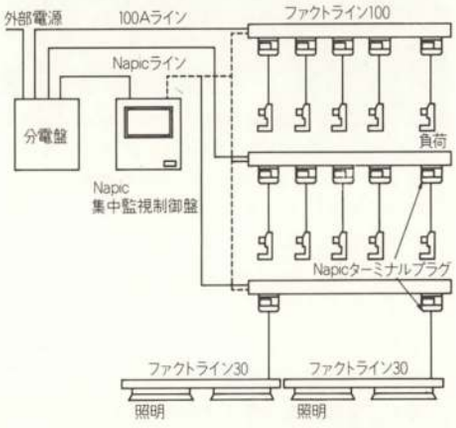
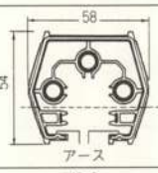
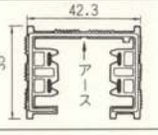
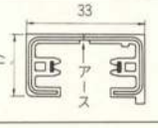


図2　ファクトラインNapicの配線例

表1　ファクトラインの種類

名　称	本体形状	定格 本体		定格 分岐プラグ
ファクトライン100（ファクトライン Napic）		上段	3P100A300V 接地付	3P20A、30A250V 接地付
		下段	2P20A250V 接地付	2P15A125V接地付 2P15A250V 〃
ファクトライン30			4P30A250V 接地付	2P6A250V 接地付 2P15A125V 〃 3P15A250V 〃 4P15A250V 〃
ファクトライン15			2P15A125V 接地付	2P6A125V 2P15A125V接地付

ファクトラインNapic（電力線搬送による制御）

ファクトラインNapicは、ファクトライン100の下段の2Ｐ20A導体を信号伝送専用線として使用し、Napic集中監視制御盤で、Napicターミナルプラグ（端末器）のリモコンブレーカ、すなわち上段100A導体から分岐した回路をＯＮ、ＯＦＦ制御する。制御回路数は、最大32チャンネルまでの負荷の集中監視と制御をすることができる。

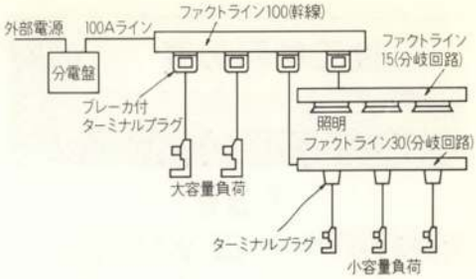


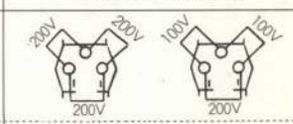
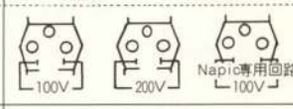
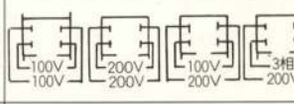
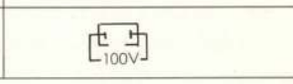
図3　ファクトライン100、30、15の配線例

ファクトラインNapicの配線例を**図2**に、またファクトライン100、30、15の配線例を**図3**に示す。

3．電気方式

ファクトラインは、**表2**のような回路構成ができる。

表2　電気方式

名　称	電気方式	電源の取り出し方法
ファクトライン100（ファクトライン Napic）	3φ3W 1φ3W	
	1φ2W	
ファクトライン30	1φ2W 3φ3W	
ファクトライン15	1φ2W	

4．ファクトラインの特徴

ファクトラインの特徴として、つぎのことがあげられる。

(1) 配線の変更、増設が容易　プレハブ式で、部品の取り付けはワンタッチであるから、系統の変更、分岐および増設が容易で、部品も交換、組み替えで済むので経済的。

(2) 施工が簡単　ダクトの取り付け、接続、プラグの着脱はすべてワンタッチ方式であるため、施工が簡単で、熟練工を必要としない。

(3) 配線の系統の簡素化　ケーブル配線のように分電盤を起点として、散在する負荷に個別の専用配線をすることがなく、常に最短距離で負荷の分岐ができる。

(4) 信頼性　堅牢な金属性コアーで覆われているため、外傷や劣化による短絡の危険がなく、恒久的に使用できる。

(5) 調和のとれた美観　コンパクトな形状で、近代的建物や他の電気機器とよく調和する。

(6) 負荷調整機能　ファクトラインはケーブル配線の場合と異なり、ある特定の負荷が大きくなった場合、合計負荷電流がダクト定格を越えない限り、それらの負荷アンバランスを吸収し、電圧降下を均等化させる。いわゆる負荷調整機能がある。

(7) ファクトラインNapicを用いることにより、負荷設備の集中監視、制御、省エネ、省力、安全が簡単に実現できる。

（おおにし　いさお　松下電工株式会社電材事業部電送材商品部）

施工材料の頁

138 新材料“サイロック”とロボットによるサイロの補修

町　文治

近年、穀物サイロは、経済性・安全性・環境問題などから高気密度(気密度400mmAq以上)のものを要求されることが多くなっており、老朽化した鉄筋コンクリート造穀物サイロの補修が、いろいろな材料および工法で実施されている。

ここでは、最近実施されている新しい補修材料・工法について紹介する。

補修にあたっての基本的な考え方

鉄筋コンクリート造穀物サイロの気密度低下の原因は、そのほとんどがひびわれであり、老朽化したものは、このひびわれが随所に発生している。このひびわれを補修することが、つまり高気密度を確保することになる。

補修材料の選定にあたっては、まず、補修後のサイロ稼動中の安全を考慮する必要がある。つまり、粉塵爆発を未然に防ぐ必要があり、使用する補修材料に帯電性がないことが要求される。また、高気密度を長期間にわたって確保することが必要であることから、補修材そのものが劣化しないこと、穀物投出入時の衝撃・摩擦力および荷重の変動によるひびわれ幅の伸縮・進行などによって、補修材が剥離・破損しないことが要求される。

新しいライニング材“サイロック”

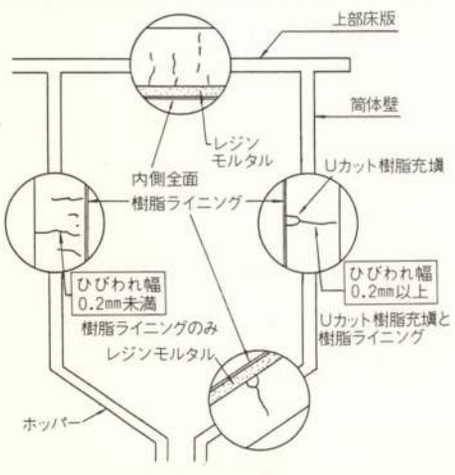
従来、サイロの補修は、図－1に示す概要で、ライニング材としてエポキシ樹脂が数多く使用されている。しかし、帯電性・接着性・下地追従性(伸び率)などの点で不満が残る。

新しいライニング材料サイロックは、一液型親水性ウレタン(空気中の水分と反応して固化するよう改良した湿気乾燥型のウレタン材)で、ウレタン系樹脂に界面活性剤(オイル)を混入できるように樹脂混合を工夫調整し、帯電性・接着性・伸び率などの物性を向上させている。界面活性剤を混入したサイロックには、つぎのような特長があげられる。

1)　帯電防止効果があることから、補修面での静電気の帯電がなく、粉塵爆発の危険のない安全なサイロを再生できる。

2)　塗布された材料はコンクリートに浸透し、すぐれた接着性を保持する。また、伸び率が大きいことから、下地追従性にもすぐれ、ひびわれの挙動に伴う剥離・破断がなく、長期間にわたって安定した塗膜が保持でき、高気密度のサイロを再生できる。

3)　一液型ウレタンなので有機溶剤を使用しておらず、補修後の貯蔵においても毒性による影響がなく、食品衛生上も安全なサイロを再生できる。

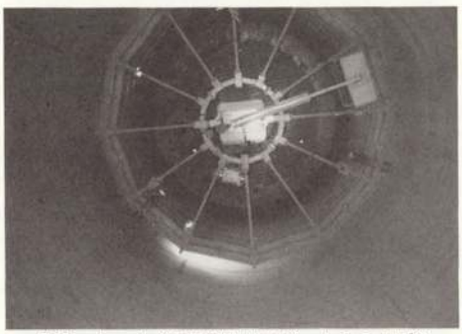


図－1　補修概要

ライニングロボット(図－2)

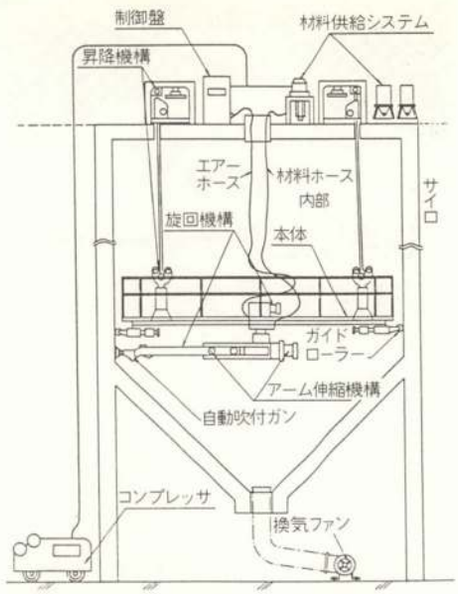
従来、サイロ内壁面のライニング作業は、作業員が単管足場やゴンドラを利用してサイロ内部に入り、ローラーによる手作業で塗布するのが通常の方法である。この方法は熟練を要する作業であり、また、多くの工事用設備や人手が必要で、さらに作業員にはサイロ内という閉鎖された悪環境下で、しかも高所での危険作業となっている。

ライニングロボットは、無人化施工によりこれらの点を改良している。



写真－1　サイロ下部よりロボットを見上げる

主要機器は、エアレスポンプ・自動ガン・コンプレッサーからなる材料供給・吹付け機構を中心に、自動ガンをサイロ内面に沿って旋回させる旋回機構、自動ガンを上下に昇降させる昇降機構、自動ガンと壁面との距離を一定に保つ伸縮可能なガイドローラ、内径寸法の異なるサイロにフレキシブルに適用するためのアーム伸縮機構からなり、



図－2　ライニングロボット概要

これらの設備機器をコンピューターで自動制御し、最適なライニングを行えるようにしている。

特長として、つぎのような点があげられる。

1)　従来のライニング作業を自動化し、材料の供給、機器の操作、吹付け状態の集中的・定量的な管理を可能にしたことにより、熟練工でなくても均一で安定した塗膜品質を確保することができる。

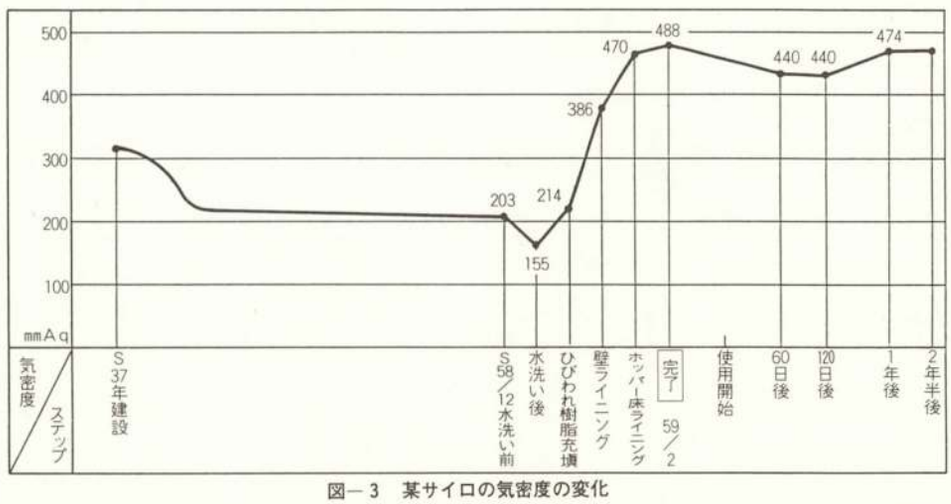
2)　従来のローラー塗りでは、作業員が5～10人必要であったが、本システムではサイロ外でのロボットの操作・監視の1人だけとなり、大幅な省力化を実現できる。

3)　サイロ内部の足場およびゴンドラ上での危険作業・苦渋作業をなくすことができ、作業中の安全性を向上できる。

展望

本補修システムは、すでに数件の施工実績があり、補修後数年経過した今日でも、いずれも高い気密度を保持している。(図－3)

現在、既存の鉄筋コンクリート造穀物サイロは全国で約4,000ビンあることから、新規のサイロ建設とともに、リフォームに対するニーズも今後増加するものとみられている。本補修システムはこのニーズに応えるものであると期待している。



図－3　某サイロの気密度の変化

(まち　ふみはる　清水建設株式会社エンジニアリング本部特殊技術エンジニアリング部課長)

日本建築協会

月間の動き

昭和61年３月分

評　議　員　会

定時評議員会
26日　５時～５時50分　　於本会会議室
出席者　高橋・多井正副議長ほか35評議員（含委任状）、足立副会長ほか３名
議事　(1)　評議員会議長、副議長互選の件
(2)　会長、副会長２名、理事23名選任の件
(3)　役員重任承認の件
(4)　昭和61年度事業計画承認の件
(5)　昭和61年度収支予算承認の件

理　事　会

常任理事会
26日　４時～５時50分　　於本会会議室
出席者　足立・市川両副会長ほか14名
議事　(1)　建設大臣表彰候補者に関する件
(2)　昭和60年度収支見込報告の件
(3)　昭和61年度事業計画並びに収支予算承認の件
(4)　入退会者承認の件
(5)　新入会者勧誘の件
(6)　報告事項

編　集　委　員　会

第８回施工材料分科会
４日　４時～６時半　　於本会会議室
出席者　水口幹事ほか４名
議事　(1)　「施工材料の頁」の企画
(2)　施工材料分科会の委員構成
(3)　施工材料特集の企画

「建築防災と法」特集第４回編集幹事会
５日　２時～４時半　　於本会会議室
出席者　小川恵三特別幹事、南出・押川委員
議事　“防災計画・改修計画”の事例の具体化

第10回投稿欄小委員会
６日　６時～８時　　於本会会議室
出席者　中馬副委員長ほか３名
議事　４月号以降の「読者の頁」と「この人」の企画と検討

第３回計画分科会
10日　６時～８時半　　於本会会議室
出席者　足立委員ほか８名
議事　(1)　今後の計画特集のテーマ
(2)　次年度計画分科会の委員構成
(3)　新旧合同計画分科会の開催の件

第11回作品作風小委員会
12日　６時～８時半　　於本会会議室
出席者　北村副委員長ほか４名
議事　(1)　新建築調査表の選定
(2)　「Gallery」報告と今後の検討
(3)　作品賞の検討

第12回編集委員会
13日　４時～５時半　　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか５名
議事　(1)　３月号「現代デザイン―ポストモダニズム10年」特集および「これからの防水工法」特集経過報告
(2)　４月号「インテリジェントビルの建築・設備計画」特集経過報告
(3)　５月号「官庁営繕と公共建築」特集および「大阪市庁舎（第２期）」特集報告
(4)　６月号「建築防災と法」特集報告
(5)　７月号以降の特集企画
―計画特集…計画分科会報告…
―設備特集「21世紀の住宅設備」…設備分科会報告…
―構造特集「ＣＡＤ」（案）
(6)　小委員会報告
(7)　収支状況報告
(8)　新年度編集委員会の構成

第４回書評委員会
19日　６時～８時　　於本会会議室
出席者　加藤邦男氏ほか２名
議事　(1)　61年４月号以降の企画と検討
(2)　昭和61年度の委員構成

「21世紀の住居と設備」特集第１回編集幹事会
24日　４時～６時半　　於本会会議室
出席者　西田章一特別幹事ほか５名
議事　「21世紀の住居と設備」特集の企画

第12回広告企画小委員会
25日　４時～５時半　　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか４名
議事　(1)　３月号「現代デザイン―ポストモダニズム10年」、「これからの防水工法」特集広告収入報告
(2)　４月号「インテリジェントビルの建築・設備計画」特集広告収入経過報告
(3)　５月号「官庁営繕と公共建築」、「大阪市庁舎（第２期）」特集広告経過報告
(4)　６月号「建築防災と法」特集広告企画
(5)　７月号以降の特集企画
(6)　収支状況報告

第４回計画分科会（新旧合同）
31日　６時～８時半　　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか９名
議事　(1)　新年度計画分科会委員構成とスケジュール
(2)　計画特集の今後のスケジュール
(3)　計画特集の企画―７月号予定―の具体化

事　業　委　員　会

第７回若い会員の集い小委員会
４日　６時半～９時　　於本会会議室
出席者　樽本・山野幹事ほか８名
議事　(1)　前回の事業委員会の報告
(2)　本年度・第５回企画「家具シリーズ(3)長原実氏の講演会」について
(3)　小委員会活動の反省及び次年度の企画
(4)　次年度の小委員会構成

第７回見学会小委員会
６日　６時～８時　　於本会会議室
議事　(1)　前回事業委員会の報告
(2)　２月以降の企画経過報告
(3)　次年度の見学会の企画
(4)　次年度の小委員会構成

若い会員の集い講師との打合会
７日　５時～６時　　於本会会議室
出席者　長原実講師、樽本主査ほか２名
議事　当日のタイムスケジュール

第７回事業委員会
13日　０時半～２時　　於本会会議室
出席者　三品委員長ほか４名
議事　(1)　各小委員会の事業報告並びに事業企画
(2)　次年度事業委員の編成

出　版　委　員　会

18日　５時～６時　　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか３名
議事　(1)　選書とプロのノウハウの経過報告
(2)　今後のテーマと執筆者選定、その他

建　材　委　員　会

20日　３時半～５時半　　於本会会議室
出席者　牧田委員長ほか12名
材料説明　「アルウィトラ」担当：西川委員
議事　今後の検討建材

若　い　会　員　の　集　い

「家具シリーズ(3)」ニューインテリア時代の家具……長原実氏に聞く
７日　６時～８時45分　　於本会ラウンジ
講師　長原実氏（㈱インテリアセンター代表取締役）
参加者　56名

デザインコンクール

工高生デザインコンクール募集規定作成会
14日　５時～８時15分　　於本会会議室
出席者　徳岡審査委員長ほか９名
片倉教育委員長ほか６名
議事　(1)　募集規定（案）の検討
(2)　今後の作業予定について

建　築　ク　ラ　ブ

朝食会
11日　８時半～10時　於大阪グランドホテル
演題　「建設業の危機管理」
講師　岩本　宏氏（ペンネーム岩子天下）
出席者　82名

大阪21世紀計画特別懇談会

19日　３時～５時　　於大阪府建築健保会館
出席者　在阪建築９団体選出委員及び事務局
オブザーバー：営林局、大阪府農林部ほか
議事　(1)　前回委員会の報告
(2)　林業界の説明
(3)　今後の運営、その他

建築防災関係法令研究連絡会

18日　２時～４時　　於建築家会館
出席者　各会選出委員
議事　関係法規などの検討

建　築　業　務　基　準　委　員　会

31日　２時～４時　　於日本建築士会連合会
出席者　構成16団体各委員
議事　建築業務基準について（継続）

３　月　の　入　会　者　（敬称略）

〔団体会員１社〕
三起水道工業㈱
〔個人会員８名〕
黒田荘一郎（大同建材工業）　雑賀　伸夫（雑賀設計）　田中　脩（大阪市都市整備）　高瀬　由康（大建設計）
辻野　善之（近畿ビルサービス）　宮崎ひろ志（兵庫県庁）　渡辺　博（新日本製鉄）

編集後記メモ

■本号の本文は、「自治体営繕と公共建築」に関する特集です。一定の社会状況のもとで、地方地方に住民が住みついている限り、地方自治体の役割は増えることはあれ、減ることは考えられません。そうしたなかで、官公庁建築のもつ施設づくりは重要です。民間建築が巨大化し、肥大化していくなかで、どう住民にサービスする施設を企画し、完備していくのか。本来の意味のサーバントの職能が問われなければなりません。その職能・役割の一環として、本号でも、いくつかの公共建築の作品とレポート形式での事例を紹介しました。公共建築と社会・建築界の動きと連動させた折り込みの年表をものせています。また、全国47都道府県と六大都市の営繕の動向アンケートをもまとめて、編集いたしました。これからの自治体営繕の動向を知る参考資料となれば幸いです。

■「読者の頁」の声として、先月号は“建築と社会”に関連する投稿原稿をのせましたが、本号は“建築と景観”を中心とした声を収録しました。

「この人」欄、「設計者のプロフィール」も好評です。「この人」シリーズに登場させてみたい人があれば、編集部までございせん下さい。

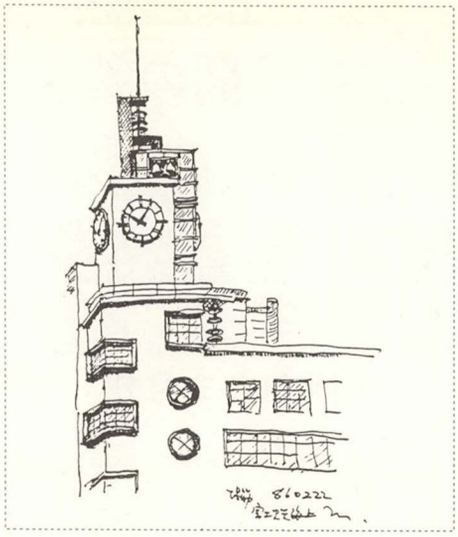
また「設計者のプロフィール」は、関西の昭和生まれの建築家を世に問うているシリーズですが、本号で第46回目となりました。50人に達しましたら、スケッチ、写真、座談会、年表など追補して一冊の本としてまとめていきたい意向でおります。来年は、創立70周年を迎えますので、その一環として発行できればと思っています。

■ここで、ちょっと「建築の眼」欄にふれておきましょう。この欄は、1頁を4人で担当してもらっているエッセイの頁です。4人はお分かりのことと存じますが、学校、官公庁、設計事務所、建設業その他の4つの職域分野から第一級の方に登場してもらい、6回連続(1回500字ていど)、テーマ自由で書いてもらっております。

よく考えてみますと、この「建築の眼」欄はずいぶん長く続いています。当時の編集委員・西山卯三先生の発案により、昭和29年11月号からスタートして、こんにちまできていますので、30年以上になります。そのなかから優秀なエッセイを選んで、それぞれを年代別、テーマ別に分けて再編成すると、すばらしいエッセイ集になるとひそかに思っていますが、いかがでしょうか。

亡くなられた大倉三郎先生のエッセイに、「眼」というのはどういう意味があるのかについて書かれたものがあります。いま、それを拾ってみますと、つぎのとおりです。

『我流で掘下げてみると、めは、なまって、まとなる。まつげ(目の毛)、まなこ(目の子)、まぶた(目の蓋)、前(目の方)のごとし。窓は、間戸(孔を閉ぢること)からきているから、目とは直接の関係はないようだ。めどは目途(あて)である。しかし、目には孔という意味もあるから、窓を目戸とも、すなわち、眼は窓とも考えても、目の色をかえることはないであろう。



とすると建築には多くの目があり、目に止まるものには、全く目のないもの、また顔中、目の建築もある。人の眼は自然法則によって左右に二つ、鼻や口と調和的につけられているが、誰れ独り、同じ目つきというのはない。みな個性を表わしている。目立つもの、み目美しいもの、目ざわりのもの、目にあまるものなど。建築の眼もそれと目と鼻の間だ。同じ目をつけても、目もあやなもの、目の正月、目を円くするもの、目も当てられないものなどある。やはり目が物をいっているのだ。目の配り方一つにも、目先きを利かすことが肝要。』

ほんとに、眼(目)は大事ですね。　(松井記)

企画・日本建築協会

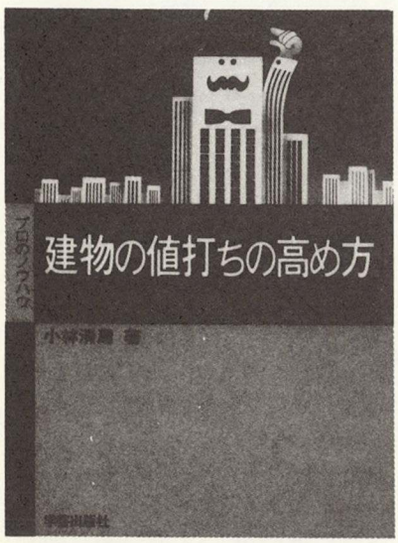
実務に役立つノウハウをわかりやすくまとめた　プロのノウハウ

小林清周 著

建物の値打ちの高め方

四六・208頁・定価1700円

ビル・マンションの新しい評価法



外壁塗替えの前と後では，マンションの売買価格に100万円以上も開きがあるという．どうしてこのような差が出るのだろう．住まいを選ぶ時，人はどういう価値基準で判断を下すのか．本書は，人間の価値観をアンケートの解析など様々な方法で分析し，建物の的確な評価方法を提示したものである．これまでの建物評価法は，専門家の立場からみたハードな手法に頼ってきたが，本書では建物の使用者側の意見から算出したソフトな手法で建物を評価し，また，それを活用して建物の値打ちを高めるアイデアを公開する．目に見える値打ちも見えない値打ちもわかりやすく解説した．

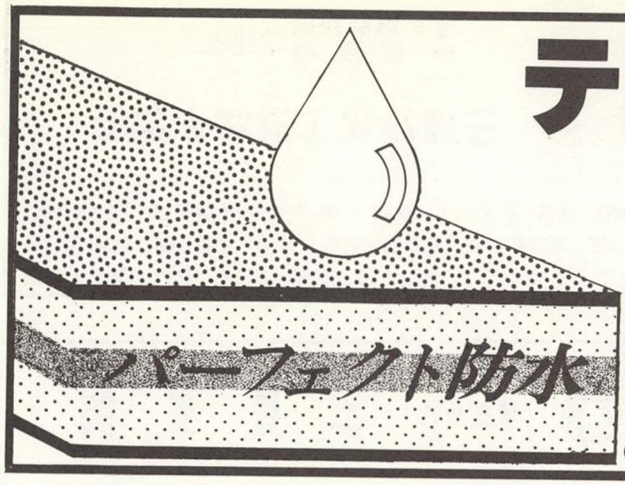
●目次●

1　これまでの建物評価法
2　ビルの新しい評価法
　テナントによるアンケートと数理解析／ビルの立地条件／ビルの建築条件／ビルの経営条件と総括評価
3　マンションの新しい評価法
　居住者によるアンケート／マンションの立地条件／マンションの建築条件／マンションの管理条件と総括評価／他



〈目録進呈〉

学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　☎075-343-0811



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社　東京都中央区銀座8—4—9　電話03（571）2703
大阪事務所　大阪市淀川区東三国6—1—41　電話06（391）1081-2
埼玉営業所　埼玉県桶川市東1—3—30　電話0487(74)2845-6
厚木出張所　神奈川県厚木市金田259　電話0462（21）1761
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話052（811）3660
九州出張所　佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450　電話0952（47）2945

■防火・防煙シャッター
■ステンレスシャッター
■アルミニュームシャッター
■軽量シャッター
■クリスタルシャッター
その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター工業株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号　電話大阪（06市外局番）371代表4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地　電話金沢（0762市外局番）65—5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7　電話神戸（078市外局番）611—7971
631—2021

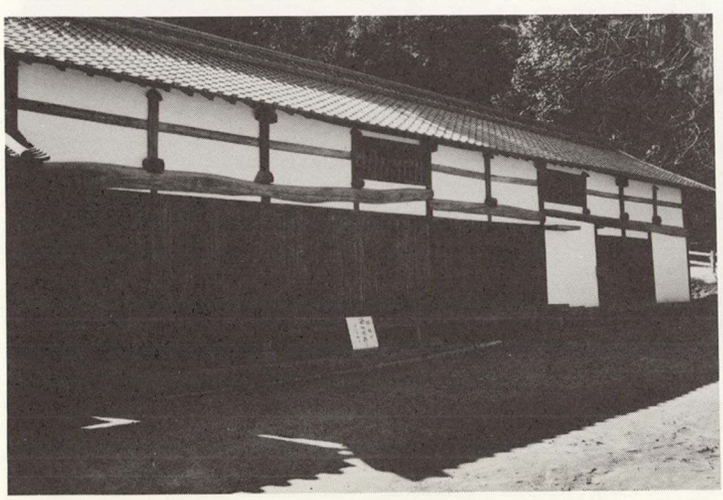
防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

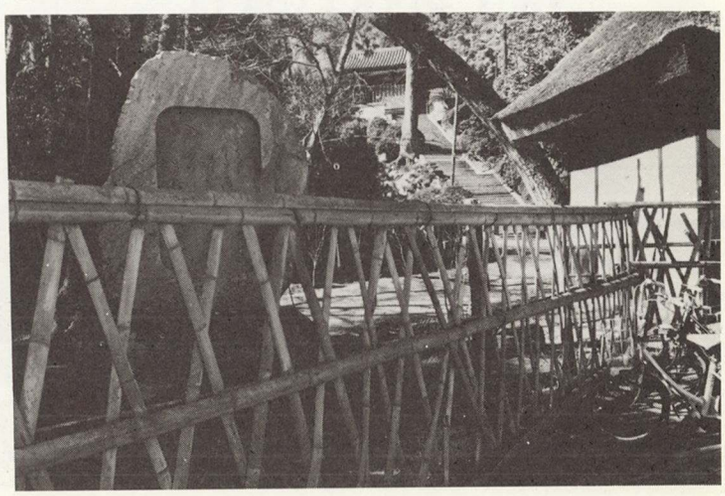
豊かな経験
最新の技術

東洋シャッター

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市





空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号　電話　大阪372局7151（代）
京都市東山区大和大路正面上ル　電話　京都561局4944（代）
神戸市中央区下山手通6-2-8　電話　神戸341局5892

空気調和・衛生設備　設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市東区城見ツイン21MIDタワー　電話 06—949—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222—61—3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082—247—4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・千葉・川崎・横浜・富山・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本店・大阪本社　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話（06）441-8231（大代）
東京本社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話（03）535-5251（大代）
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1,2階）
郵便番号542　電話 大阪（06）768—5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768—1655　1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2〜4階）
郵便番号102　電話 東京（03）262—3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話 03-（270）-7411㈹
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-（443）5041㈹
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号（新大ビル）
電話（06）344—6031（代）
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2（三井第二別館）
電話（03）279—5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

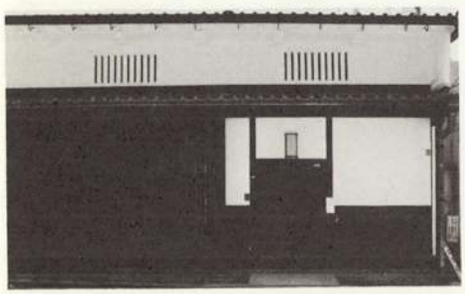
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

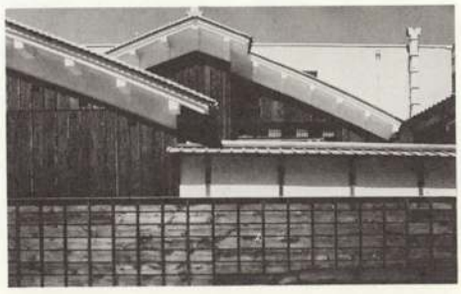
三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
大阪支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪（202）代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ！

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06-441-5171（大代表）〒550







電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574)0665 福岡出張所 TEL 福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3671 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1478 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市2ヶ所

総合設備工事〈設計・施工〉
建築・電気・通信・送電線・プラント・計装・空調・土木

住友電設株式会社

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本社 大阪市福島区福島7－22－8 Tel 06-452-1151(大代)
東京 東京都港区芝2－2－17 Tel 03-454-7311(大代)
支社 福岡・広島・名古屋・神戸・京都

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本 社 〒550 大阪市西区西本町1－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天 理 市 丹 波 市 新 町 50

電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06－364－3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量

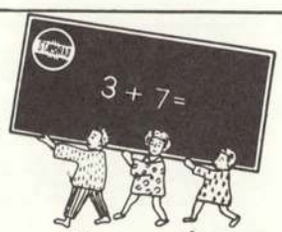


ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区難波中一－三－一八
TEL〇六－六四一－五〇六五

Standard Board&Slate



フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858代

模型製作

石 膏 模 型・アクリル模型 製作

宮岡建築模型製作所

〒103 東京都中央区日本橋浜町3 14 11
電 話 (03)669 7565 FAX (03)669 7565

造園設計施工

富士造園土木株式会社

〒665 宝塚市山本東2－6－17
電話 0797－88－0501(代)

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03-344-1851(大代)　大阪本社 ☎06-448-3603(代)
大阪支社 ☎06-448-5851(代)　名古屋支店 ☎052-211-1535(代)　中国支店 ☎082-247-5541
九州支店 ☎092-431-2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530　大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06-364-6661(代表)
本　社　〒100　東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03-211-8511(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352-3501(代)
三重支店　津市栄町2-111　電話(0592)26-3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53-7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22-9738(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

Carrier
冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443)8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支店　名古屋・福岡

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本社　〒545　大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892　鹿児島市名山町4-7　三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708　津山市大手町8番5号　模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900　南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988(55)6100

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

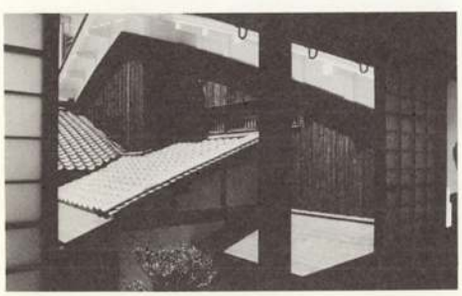
大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06-313-1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720-49-2128

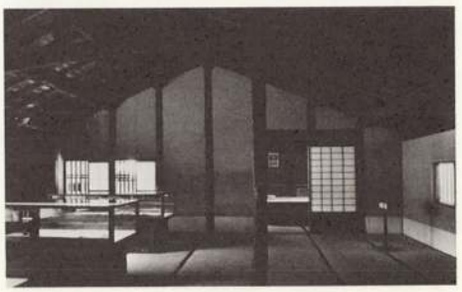
空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1－6－8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山







特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

岡田ペーパー株式会社
OPCo
大阪市西区北堀江２丁目５番20号
ＴＥＬ 06－531－4601(代)
06－541－2305(代)
フロアーサンディングシステム関連商品
研磨材料 & 研磨機器
布紙ペーパー & ジスクペーパー

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建　設　業　許　可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201Ｓ
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社／東京都港区六本木3－16－26　☎ 03-582-8811
大阪営業所／大阪市東区北浜３－７　☎ 06-202-3294

デンカCSA　デンカセメント
セキサンバイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム. ALC.鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡　浩
本　社　〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
ＴＥＬ　(07727)2－２２２０(代)
舞鶴営業所　〒624　舞鶴市福来１６０-1
ＴＥＬ　(0773) 76－0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
(膨張性混和材)
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
(グラウト用無収縮材)
●デンカキューテックス……コンクリート軀体の漏水補修に
(止水・補修用急硬セメント)
●デンカES……地盤補強用薬液注入
(土質安定用急硬材)
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
(製品用超高度混和材)
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）２７２－８５０１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
株式会社 トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１

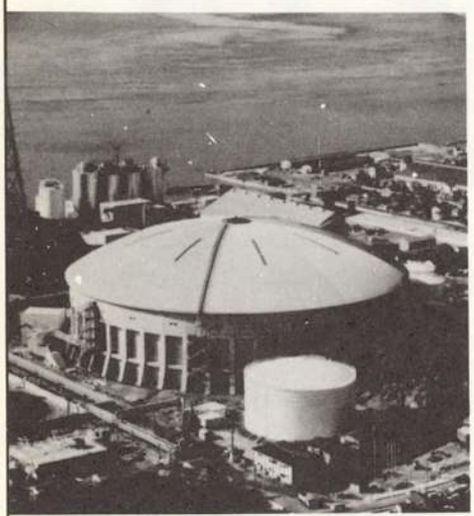
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・熊谷

21世紀を見つめて大きく飛躍する総合技術誌

月刊 建築技術　NO.416　1986.6月号

予定目次　定価 ￥1,000

つり足場の安全対策　河尻　義正

好評連載中！
★総プロ：建築物の耐久性向上技術
—鉄筋コンクリート建築物—　桝田佳寛
★土留工法のコストスタディ(最終回)　須賀好富他
★敷地調査から基礎設計(3)　相川新一
シューボックスホールの音響設計　三上祐三
アメリカにおける
歴史的建築物の再利用　長谷見雄二
「建築改修設計指針」のあらまし　佐々木良夫
「総合耐震設計基準」のあらまし　大島和義

ニュース・ハイライト　材料と工法　読者コーナー
BRI news & topics　建築家の良識

建築構造設計実務に携わる人のために

建築構造問題快答集　建築技術編集部編

好評シリーズ第五巻は新耐震設計法に関する質疑応答を実に二百二十問もあつめた労作。回答はすべて構造家懇談会技術委員会の専門家で，難問もわかりやすく回答されている。

1 A5・430頁
2 A5・385頁
3 A5・373頁
4 A5・340頁
各巻共 定価3,800円・送料300円
5 A5・366頁 定価3,800円 送料 300円
4 A5・340頁 定価3,700円・送料300円

うっかり間違える構造力学　井上允彦 著　B6・93頁 ￥1,200(送料￥200)

山形骨組の応力計算　筒井助幸 著　A5・210頁 ￥3,200(送料￥300)

出版案内

建築 設備読本 I 給排水衛生設備篇　井上 博 著　B5・171頁 ￥3,200(送料￥300)

増補 溶接読本 設計者と現場マンのためのわかる溶接　井上 博 著　B5・157頁 定価3,000円(送料300円)

建築工事 内外装の損傷と補修　建築技術編集部編　B5・289頁 定価3,600円・送料300円

増補 最新場所打ぐい工法　北中克己 著　A5・325頁 ￥3,500(送料￥300)

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1中島ビル 建築技術 振替口座 東京0-72417 ☎363-4211

熟慮の館にエルミンの窓。

現代建築のクオリティを高める

エルミン窓

ブラインド内蔵二重硝子回転断熱窓



改修前

衆議院第一議員会館
設　計／建設省大臣官房官庁営繕部
施　工／鹿島建設㈱
窓仕様
窓寸法／2430(W)×1570(H)
仕　上／外部：浅田式カラー
内部：アルマイト処理



優良断熱建材認定品第2種59-009

現代建築に要求される窓開口部は、自然の光と風を豊かに採り入れた快適な住空間を創ることにあります。また同時に建物全体の美観にも大きな役割をもっています。しかも、省エネルギーの立場からは、高い断熱性や遮蔽性が、そして音やホコリをシャットアウトする機構、更にはメインテナンスに手間がかからない点など、実に様々なファクターがあります。
エルミン窓はこれらの窓開口部に要求されるファクターの全てに自信をもってお応えできます。空気汚染や騒音のひどい地域や、酷暑や極寒の地域でも建物の中には快適さをお約束します。製品はガラスやブラインドの組込みまで全て工場生産ですので、品質の高さは定評あるところです。しかも施工も当社の責任施工ですので、安心してお任せいただけます。
建物のグレードアップにエルミン窓をお役立てください。

二重硝子の間にベネシアンブラインドを内蔵させた回転断熱窓のエルミン窓は、スエーデンで開発され、全世界で圧倒的信頼を得ている国際品です。わが国では、当社が昭和39年に技術導入し、日本の気候風土に合うように改良した画期的な窓として、全国3,400件以上の建物に採用されています。

日本エルミンサッシ株式会社

本　　社　〒101 東京都千代田区岩本町1-11-2(三泉ビル)　TEL03-861-1891（代表）
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀1－7－9(東洋ビル)　TEL06-441-1978（代表）
札幌事務所　〒060 札幌市中央区大通西4-6(住生札幌大通ビル)　TEL011-222-3575（代表）

建築と社会　第67輯第5号
昭和61年5月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1-の1-の3の2100　電話大阪06(348)0635
振替口座大阪7-三九七五番
定価九五〇円（送料共）
正会員の購読料は会費に含めて徴収
表紙スケッチ・吉田隆一（説明目次頁）

●屋根が語る、新しい家づくりのはじまり。



くっきり、鮮やか。

――屋根はいま、新しい表情をもった

柔らかな質感、鮮やかなライン、深い色どり。美しい茸き味で、フネンシングル・一文字は日本の屋根に確実に定着してきました。美への鋭い感覚が生きてこそ伝統の屋根――フネンシングル・一文字は、素材・デザイン・色彩が一体となって、優れたアンサンブルを形成しています。その美しく、柔らかい表情は、建物の特長が屋根によって演出されることを表現しています。屋根はいま、新しい表情をもちました。日本の屋根、一歩すすめて、フネンシングル・一文字は高品質と美しさを追求。親しめる建物や環境づくりにあわせて選んだ、新色7色がそろって、さらに個性的、さらに魅力的になりました。

三星フネンシングル
一文字

西日本三星シングル工事協同組合
田島ルーフィング株式会社

大阪　☎550 大阪市西区京町堀1－10－5　TEL06 (443)0431
広島　☎730 広島市中区西平塚町8-13　立駐広島ビル　TEL082(246)8625
福岡　☎810 福岡市中央区港2－1－29　TEL092(712)0800
東京　☎101 東京都千代田区岩本町3－11－13　TEL03 (862)8531

雑誌　03379－5